

～探究学習加速プログラム～

『主体的学習者育成プログラム』
『協働的学習者育成プログラム』
実施ガイド



産業能率大学

刊行にあたって

産業能率大学
学長 浦野哲夫

本学は、「マネジメントの思想と理念をきわめ、これを実践の場に移しうる能力を涵養し、もって全人類に幸福と繁栄をもたらす人材を育成する」ことを建学の精神としています。経営学の知識のみならず、実践力を伴った人材を輩出すべく、これまでもアクティブラーニングの推進など「学生が自ら考え、行動できる」仕組みづくりに努め、「学生主体の教育体制」の整備を進めて参りました。

2014年に、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」のテーマⅠ（アクティブラーニング）とテーマⅡ（学修成果の可視化）複合型に、本学の事業が採択されました。本採択を機に2016年から新たな高大接続の形を模索し始め、学生が高校・大学時代を通じて多くの気づきと深い学びを得て大きく成長するために、いま必要とされていることは何かについて検討して参りました。その結果、たどり着いたキーワードが「主体性」と「協働力」でした。これらのキーワードを軸に新たな学習プログラムを開発しました。ひとつは、学生の社会に対する興味・関心や問題意識を深化させることを目的とした『主体的学習者育成プログラム ～問題発見編，問題解決編』です。もうひとつは、多様な情報を収集し、チームで情報を共有しながら合意形成に至るまでのスキル向上を目的とした『協働的学習者育成プログラム ～情報共有編，合意形成編』です。

本プログラムは、2017年から全国各地の高等学校で順次実施させていただいております。奇しくも高等学校で「探究学習」への取組みが本格化する時期と重なり、探究学習のキックオフプログラムとして、あるいは、探究学習の学びを深化するためのプログラムとして多くの高等学校に採用いただきました。プログラム実施に要する時間が各100分ということもあり、実施に際して高等学校のご理解、ご協力が不可欠でしたが、いずれの高等学校においても多大なるご支援をいただき、これまで実施してくることができました。ご協力いただきました高等学校、先生方に、この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

本プログラムは、当初、本学教員が出張講義の形で実施する例がほとんどでした。しかし、近年は高等学校の先生方自らが自校にて実施いただくケースも増えて参りました。そこで、本書は、高等学校の先生方が自校にてプログラムを実施するにあたり、プログラムの趣旨をご理解いただき、円滑かつ効果的に実施していただくことを目的に作成致しました。

2016年にプログラム開発に着手して以降、用語の定義や育成すべき力の画定、教材の開発など、数々の困難がありました。これまでの取組みの成果として、本書が刊行され、皆様にお届けできることに大きな喜びを感じております。貴機関、あるいは教育に携わる皆様に有益な情報提供になれば幸甚です。

目 次

刊行にあたって	1
I. 概要	4
1 本書の目的と構成	4
2 推奨環境	5
II. 実施ガイド	7
3 主体的学習者育成プログラム	7
3-1 問題発見編	7
3-1-1 講師ガイド	8
3-1-2 投影スライド	12
3-1-3 教材	36
(1) テキスト&ワークシート	36
(2) 主体的学習者診断シート（プレ調査）	40
(3) グループワークシート「食生活実態調査」	41
(4) 役割設定シート	41
(5) 振り返りシート	43
3-2 問題解決編	44
3-2-1 講師ガイド	45
3-2-2 投影スライド	49
3-2-3 教材	77
(1) テキスト&ワークシート	77
(2) グループワークシート「ワーキングマザー」	81
(3) 主体的学習者診断シート（ポスト調査）	82
(4) 振り返りシート	83
3-3 主体的学習者診断結果の分析方法	84
4 協働的学習者育成プログラム	86
4-1 情報共有編	86
4-1-1 講師ガイド	87
4-1-2 投影スライド	92
4-1-3 教材	117
(1) テキスト&ワークシート	117
(2) 協働的学習者診断シート（プレ調査）	120

【ウォーミングアップエクササイズ】	122
(3) 情報カード	122
(4) ワークシート	123
(5) メモ用紙	123
(6) 解答	124
【ケーススタディ】	125
(7) 個人ワークシート	125
(8) グループワークシート	126
(9) 振り返りシート	127
【インタビュー映像スクリプト】	128
01. Y 市長	128
02. Y 市まちづくり推進課長	131
03. Y 市に昔から住んでいる子育て中のお母様	133
04. Y 市駅前商店街専務理事	135
05. Y 市に移住してきた子育て中のお母様	137
06. ビジネスパーソン	139
07. IT ベンチャー経営者	141
08. F 市に移住した元 Y 市民	143
4-2 合意形成編	147
4-2-1 講師ガイド	148
4-2-2 投影スライド	152
4-2-3 教材	174
(1) テキスト&ワークシート	174
【ウォーミングアップエクササイズ】	174
(2) 情報シート	176
【ケーススタディ】	179
(3) 個人ワークシート	179
(4) グループワークシート	180
(5) 協働的学習者診断シート（ポスト調査）	181
(6) 振り返りシート	183
【インタビュー映像スクリプト】	184
09. Y 市民への移住を考えている佐藤さんご夫婦	184
4-3 協働的学習者診断結果の分析方法	188
結びにかえて	191

I 概要

1 本書の目的と構成

本書は、本学が開発した『主体的学習者育成プログラム ～問題発見編，問題解決編』および『協働的学習者育成プログラム ～情報共有編，合意形成編』を円滑かつ効果的に実施していただくための、実施ガイドです。

日本経済団体連合会の調査によれば、企業の大卒等新卒者の採用選考活動において重視する点は、「コミュニケーション力」が16年連続1位、「主体性」が10年連続2位となっています（「2018年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」より）。本プログラムは、高等学校・大学のみならず、大学と社会の接続性も視野に入れ、この主体性と協働力（コミュニケーション力）の育成を目的としています。

これまで多くの高等学校に本プログラムを採用いただきましたが、その導入意図は主に3つでした。第一に、今後、探究学習に本格的に取り組むにあたり、その「キックオフプログラム」として採用いただくケース。第二に、すでに探究学習に取り組んでいる高等学校が、その学修効果を高めるための「学びの加速プログラム」として採用いただくケース。第三に、学習者ではなく、教員の探究学習やアクティブラーニングの理解促進のために採用いただくケースです。

本書では、以下の4つのプログラムを扱っています。

	プログラム名	概要	パート	所要時間
1	主体的学習者育成プログラム	日常的に見聞きする身近な事象からでも「問題」を発見し、「課題」が設定できることを体験的に学習するプログラム	問題発見編	100分
2			問題解決編	100分
3	協働的学習者育成プログラム	地域課題を題材とし、個々人が収集した情報をチームで共有しながら、課題解決に向け、チームで合意形成を図る力を養うプログラム	情報共有編	100分
4			合意形成編	100分

プログラムごとに(1)講師ガイドを記し、プログラム実施に必要な(2)投影スライド (3)教材一式を付しています。また、プログラム中に実施する主体性・協働力に関する(4)簡易診断テストについて、その結果の分析方法・活用例も解説しています。

コンテンツ	概要
(1) 講師ガイド	プログラムの概要を把握いただくため、プログラムのおおまな流れや必要な事前準備などについて説明しています。
(2) 投影スライド	投影するスライドごとに、プログラム進行上のポイントや留意点などを詳細に記しています。
(3) 教材	プログラム進行上、必要な教材はすべて掲載してあります。投影スライドの中で重要な内容は、すべてテキスト&ワークシートに記載してありますので、受講生はノートをとることに気を取られることなく、演習に集中することができます。

(4) 診断テスト結果の 分析・活用方法	主体的学習者診断テストおよび協働的学習者診断テストの結果の分析方法を解説しています。また、結果の活用例も記載しています。
-------------------------	--

投影スライドに沿ってプログラムを進行いただければ、たとえ講師が探究学習やアクティブラーニング型授業の進行に不慣れであっても、無理なく高校生の主体的・協働的学習態度を引き出せるように工夫しました。

教材準備の負担を軽減するため、投影スライドおよび教材の「データ」をご希望の場合は、巻末の問合せ先までご連絡ください。

2 推奨環境

プログラム実施にあたっては実施時期、クラスサイズ、グループサイズ（グループワーク時の1グループの人数）、使用機器、実施場所など以下の環境での実施をお勧めします。条件を満たさない場合でも実施可能ですので、その場合は適宜工夫をしてください。

「協働的学習者育成プログラム」では、映像教材がプログラム上で重要な役割を担っています。事前にパソコンおよびプロジェクタの動作確認、音声の出力確認などを行った上で、プログラムを実施ください。

実施時期	プログラムの実施時期は特に問いません。学年も問いません。ただ、これまでプログラムを実施いただいた高校では、探究学習の「導入プログラム」として高校1年の早い時期に実施する例が多くみられました。また、主体的学習者育成プログラムを高校1年次に、協働的学習者育成プログラムを2年次に、段階的に実施する高校もありました。
実施間隔	主体的学習者育成プログラムの「問題発見編」と「問題解決編」、協働的学習者育成プログラムの「情報共有編」と「合意形成編」は、あまり期間を空けずセットで実施することが望ましい。たとえば「問題発見編」と「問題解決編」の実施間隔が1か月以上離れると、プログラムのつながりが切れ、期待したような効果が出ないおそれがあります。特に「情報共有編」と「合意形成編」は、連続性の強い内容になっているため、あまり期間を空けず実施することをお勧めします。逆に、1日の午前と午後に「問題発見編」と「問題解決編」を一気に連続して実施することも、特に問題はありません。
クラスサイズ	1クラス30-40名程度での実施を想定しています。各クラス講師1名で実施することができます。極端に大人数で実施することは学修効果を低下させるおそれがあります。
グループサイズ	演習（グループワーク）における1グループ人数は、5～6名を想定しています。グループ分けにおいては、多様なメンバー構成となるように配慮ください（クラス横断でグループ分けする、得意・不得意科目が異なるようにグループ分けするなど）。グループ内で多様な意見が出ることにより、多くの気づきがもたらされます。

使用機器	実施には、パソコン、プロジェクタおよびスクリーンが必要です。また、主体的学習者育成プログラムの「問題解決編」、協働的学習者育成プログラムの「情報共有編」「合意形成編」には映像教材が含まれており、音声出力機器も必要です。
実施場所	教室で実施することを想定していますが、会議室などで実施することも可能です。ただ、ワークシートへの書き込みなどで不便が生じるため、机がない体育館などでの実施はお勧めしません。 協働的学習者育成プログラムの「情報共有編」は、1つの映像をクラス全員で視聴するのではなく、各生徒は自分が担当するインタビュー映像だけを視聴します。そのため、映像を視聴するための教室を複数用意し、各教室に映像視聴用のパソコンを用意する必要があります。各生徒は自分の担当の映像を視聴した後は元の教室に戻り、情報共有のためのワークに取り組みます。「合意形成編」にも映像教材がありますが、こちらはクラス全員で1つの映像を視聴するのみです。
教材	教材は個人用とグループ用のものが用意されています。個人用の教材は生徒数に応じて、グループ用の教材はグループ数に応じて事前に印刷しておいてください。 教材は、基本的に「A4 サイズ」ですが、A3 や模造紙サイズで印刷いただきたい教材もあります。印刷サイズは、講師ガイドをご確認ください。

Ⅱ．実施ガイド

3 主体的学習者育成プログラム

3-1 問題発見編

3-1-1 講師ガイド

主体的学習者育成プログラム - 問題発見編 - 講師ガイド

(1) タイムテーブル (100 分間)

時間	プログラム
10 分	1. プログラムの目的 ～いま社会が求めている人材は？ 2. プログラムの紹介、主体的学習者とは
10 分	3. ウォーミングアップクイズ (全 3 問)
10 分	4. 主体的学習者診断テスト (プレ調査) →要回収
5 分	(休 憩)
50 分	5. 問題発見ケーススタディ「食生活実態調査」
15 分	6. まとめ 7. 参考図書の紹介 8. 振り返りシートの記入 →要回収

(2) プログラム実施前の準備

	資料名	必要数
スライド投影 の準備	投影スライド	－
教材の印刷	(1) テキスト&ワークシート	1 人 1 部
	(2) 主体的学習者診断シート (プレ調査)	
	(3) グループワークシート「食生活実態調査」 ※食事写真をカラー印刷した上で模造紙に 貼り付けてください。	1 グループ 1 部
	(4) 役割設定シート	1 グループ 3 ロール×2 部
	(5) 振り返りシート	1 人 1 部

(3) プログラム実施上のポイント

時間	プログラム	実施上のポイントなど
10 分	1. プログラムの目的 ～いま社会が求めている 人材は？	・ 教室の雰囲気づくりが大切です。少しリラックスした雰囲気がよろしいかと思います。 ・ 1-2 名を指名して【問】の回答を尋ねた後、解説メモの内容をお伝えください。
	2. プログラムの紹介 主体的学習者とは	・ 以下のキーワードを強調しつつ、主体的学習者の定義についてご説明ください。 【キーワード】 問題意識/観察/解釈/発想 問題発見/問題解決 ・ 簡単にプログラムの流れをご説明ください。 ・ 「問題発見ケーススタディ」がメインであることをお伝えください。
10 分	3. ウォーミングアップクイズ (全 3 問) 日常風景から困りごとを発見し、 解決した商品・サービスに関する クイズ	【問 1】 ・ JR 西日本の施策意図を当てる（正解する）ことが重要なわけではありません。 ・ 学生から多様な意見を拾い、探究学習において「唯一絶対の答えはない」→積極的に意見していこう！とお伝えください。 [回答例] － ベンチを 2 台から 1 台に減らしてコストダウンを図った － 2 つのホームのどちらに電車が来ても気づくことができるようにした － ホームの電光掲示板が見やすいようにした
		【問 2】 ・ 多くの学生は「瞬足」がコーナーを走りやすいように開発されたことを知っています。 ・ すぐに正解が出たとしても、「知っていること（常識や前例）も疑ってみる」「知っていると思っただけで、思考を止めない」ことの大切さをお伝えください。 ・ 探究学習の中で、常識や前例にとらわれないチャレンジをしてほしいとお伝えください。 [例]たとえば、瞬足に関して － 想定されていない回り方（右回り）で全力で走ってみる － 本当にコーナーを早く走れるのか 左右対称の靴で走った場合と比べてみる
		【問 3】 ・ 単にペイントしただけで大きな効果（成果）があがった例を紹介し、「高校生のみんなにも工夫次第で大きな成果をあげることができる」ことをお伝えください。

		【3つの例の共通点】 ・ 3つの例は、ともに何気ない日常風景をよく観察したことによって、人々の困りごと（問題）を発見した例であることをお伝えください。 ・ 探究学習においても、よく観察することが重要であることをお伝えください。 【アドバイス】 ・ 3つの例を振り返り、探究学習において重要な3つのポイントをお伝えください。 ①唯一絶対の答えはない ②常識や前例に縛られない ③自分にもできる！
10分	4. 主体的学習者診断テスト (プレ調査) ※要回収	・ あまり深く考えず、選択肢の番号は気にせず、直感的に回答するようにご指示ください。 ※設問 6, 10 は、他の設問と選択肢の番号が異なりますが、気にせず回答させてください。 ・ 回答後、回収してください。
5分	(休 憩)	・ 適宜休憩を挟んでください。 ・ 休憩の開始・終了時刻は、前後しても構いません。
50分	5. 問題発見ケーススタディ 「食生活実態調査」	・ まず【設定状況】【撮影に協力いただいた家族の状況】をご説明ください。 ・ 食事写真付き模造紙を1グループ1枚ずつ配布ください。 【演習①】 ・ 演習内容を伝え、演習中は机間指導ください。 ・ 手が止まっているグループには、適宜ヒントや例を示し、できるだけ多くの付箋を書き出せるようにご支援ください。 【演習②】 ・ 立ち上がり他のグループの模造紙を見て回り、自分たちのグループが気づいていなかった点についてヒントを得て、付箋をさらに増やすようにご指示ください。 【演習③】 ・ グループ内で役割（専門家）分担を決めさせてください。 ・ 改めて①状況設定 ②撮影に協力いただいた家族の状況 ③写真をよく見るようにお伝えいただいた上で、付箋をさらに増やすようにご指示ください。 【発表】 ・ 発表時間が限られていますので、発表は（出来るよい）2グループ程度でよろしいかと思います。 ・ 2-3名に演習を通じて気づいた点などを尋ねてください。 【ケーススタディの振り返り】 ・ ケーススタディ（演習）を通じて以下のようなこ

		とを少しでも実感できたら、本日のプログラムは成功だとお伝えください。 - 専門性を持つとはどういうことか ： 特定の問題意識をもって世の中を眺める - 世の中をよく見る力（観察力）が身につくともっと知りたいという探究心が芽生えてくる - 結果として、主体的に学ぶ態度が発揮されるようになる→主体的学習者になる
15 分	6. まとめ ～問題意識を育むために できること	・ 主体的学習者の定義を復習した上で、以下の点をお伝えください。 - 問題意識＝自らの視点を持つことが主体的学習者になるための起点, 出発点 - 主体的学習を積み重ね、みんなが（社会が求めているような）自ら考え行動できる人になってくれることを期待している ・ 問題意識は、日常の中で育まれることをお伝えください。
	7. 参考図書の紹介	・ さらに学びを深めるために、参考図書を読むことをお勧めください。
	8. 振り返りシートの記入 ※要回収	・ 振り返りシートの記入時間をできるだけ長く確保することが、本プログラムの効果を高めることにつながります。 ・ 振り返りシートを回収ください。


産業能率大学

主体的学習者
育成プログラム

- 問題発見編 -



本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（ABP）」（平成28年度選択）における高大接続事業の一環で開発しました。

主体的学習者
育成プログラム

目的

【授業進行上のポイント】

- 今回実施するプログラムは、「問題発見編」と「問題解決編」の2つでセットになっていること、また、高校での探究学習を進めるうえで基本となる要素が詰まっているプログラムだということを最初に伝えてください。

【グループ分け】

- このプログラムは全てグループワーク形式で実施します。
- プログラム実施日前までに予め先生方でグループ分けを行っておいてください。
- 学年全体で実施する場合は、できれば通常のクラスを解体してグループ分けするなど、多様性のあるグループ編成を意識してください。またグループの人数も最大6人程度で編成してください。

【配布資料】

- プログラムの進行に合わせて配布資料が用意されています。
- プログラムがスムーズに進行できるよう事前に資料の確認をしておいてください。
- 「主体的学習者育成プログラム- 問題発見編 - 生徒用テキスト」

【授業進行上のポイント】

- 「主体的学習者育成プログラム- 生徒用テキスト」を配布してください。
- なぜ今回このプログラムを受講するのか、プログラム全体の目的を「自分事」として捉えてもらうためにも目的の説明は重要なことです。
- しかしながら、プログラムを楽しく受講してもらうためには教室の雰囲気作りも大切です。次のスライドにある入社時の世代ごとに異なる資質に関して、何人かの生徒を指名し、クイズ形式で進めていくとリラックスしながら始めることができ、同時にプログラムの目的も明確に伝えることができるかと思えます。

【説明例】

- まず今回、なぜこのプログラムを実施するのか、その目的について説明します。

はじめに・・・

Question

いま社会が求めている人材とは？

いま社会が求めている人材

【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】

	40代	30代	20代
A 自ら考え行動することができる			
B 指示されたことだけをやっている			
A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている			
B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない			
A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い			
B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう			

※労働政策研究・研修機構（2012）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 「いま社会でどのような人材が求められていると思いますか？」と生徒に投げかけをして下さい。
- 何人かの生徒に指名して答えさせると良いでしょう。

【説明例】

- いきなり質問ですが、「いま社会が求めている人材」とはどのような人材だと思いますか？
- 多くの人は高校や大学を卒業した後、企業などの組織に所属し働くわけですが、そうした企業などの組織はどのような人材を求めていると思いますか？
→何人か生徒を指名し、答えさせる。

【授業進行上のポイント】

- このあとのスライドを活用しながら、（独）労働政策研究・研修機構が行った調査（「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」）の一部（「各世代の入社時の資質の印象の違い」）に関する調査結果）を紹介して下さい。

【説明例】

- 様々な意見が出ましたね。
- 今の質問に関連して、企業が若い世代に対してどのような印象を抱いているのかについて調べた興味深い調査結果があるので見てみましょう。

【参考資料】

- この調査の概要は以下の通りです。

<調査概要>

- (独) 労働政策研究・研修機構 (2012) 「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」
- 目的：今後の事業活動の展望の中で職場が求める人材像、その中の若手人材育成のための取組、また、世代間コミュニケーションの現状などについて明らかにし、今後の課題とその政策的対応を検討する
- 調査方法：郵送による調査票の配布・回収
- 調査対象：全国の従業員数 300 人以上の企業全社（帝国データバンクのデータベースから産業・規模別に全数抽出）及び100人以上299人以下の企業（同データベースから産業・規模別に無作為抽出）合わせて20,000社。
- 調査期間：2011年1月7日から同月28日まで。
- 有効回収数：3,392 社（有効回収率：17%）

<主な発見事実>

- ① 企業が採用にあたり、今後重視することとして、「コミュニケーション能力の高いこと」をあげる割合が最も高かった。
- ② 若手人材の配置、育成において、今後重視することとしては、「特定の部門への配置を基本としつつ必要に応じて他部門も経験させる」、「長期的に教育訓練を行い、育成する」の割合が高くなっている。
- ③ 若手人材の育成における今後の課題としては、「将来を担う人材を長期的視点で育成する必要がある」や「若手人材の指導に当たる上司の指導力を強化していく必要がある」の割合が高くなっている。
- ④ 各世代の入社時の資質の印象を比べると、若い世代ほど
 - (1) 「自ら考え、行動することができ」割合は低くなる
 - (2) 「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」割合は高くなる
 - (3) 「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」割合は高くなる
 - (4) 「自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い」割合は高くなる
 - (5) 「自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い」割合は高くなる——といった特徴がみられた。

上記、①～④は、労働政策研究・研修機構ホームページ

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2012/097.html>より転載。

- 調査結果の詳細は、<https://www.jil.go.jp/institute/research/2012/097.html>に調査報告書が掲載されていますので参照してください。

いま社会が求めている人材

【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】

	40代	30代	20代
A 自ら考え行動することができる	60%	34%	7%
B 指示されたことだけをやっている	11%	18%	60%
A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている	60%	40%	14%
B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない	6%	9%	40%
A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	67%	39%	9%
B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう	6%	13%	47%

※労働政策研究・研修機構 (2012)「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- この調査の中で行われた「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査結果の概要を紹介して下さい。
- 【説明例】
- この調査では、「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査が行われていきます。
- その調査結果によれば、各世代（40歳代、30歳代、20歳代）の入社時の資質の印象を比べると、若い世代ほど
 - (1) 「自ら考え、行動することができ」割合は低くなる
 - (2) 「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」割合は高くなる
 - (3) 「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」割合は高くなる
 - (4) 「自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い」割合は高くなる
 - (5) 「自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い」割合は高くなるといった特徴がみられました。
- ここで言う、40歳代以上とはバブル期までに採用された世代を、30歳代とはバブル崩壊後 1990 年代に採用された世代を、20歳代とは2000年代に採用された世代を指します。

- 調査では、各世代の入社時の比較をするため、「A 自ら考え、行動することができる」か「B 指示されたことだけをやっている」のどちらかに近いのか
「A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている」か「B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない」のどちらに近いのか
「A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い」か「B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」のどちらに近いのか、といった形で各世代に対する印象が聞かれています。
 - それぞれの項目に対し、各世代の印象について、Aに近い（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計）との印象を抱いている企業の割合、Bに近い（「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計）との印象を抱いている企業の割合を示したものがこのスライドです。
- 【参考資料】
- この調査結果の詳細は、以下のURLに掲載されている調査報告書のP19～P22を参照してください。
https://www.iil.go.jp/institute/research/2012/documents/097_01.pdf

いま社会が求めている人材				
【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】				
	40代	30代	20代	
A 自ら考え行動することができる	60%	34%	7%	
B 指示されたことだけをやっている	11%	18%	60%	
A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている	60%	40%	14%	
B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない	6%	9%	40%	
A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	67%	39%	9%	
B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう	6%	13%	47%	

※労働政策研究・研修機構（2012）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 調査結果の概要をお伝えください。

【説明例】

- この結果が示すように、企業は、各世代の入社時の資質を比較した際、若い世代ほど「指示されたことだけをやっている」、「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」、「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」という印象を抱いていることがわかります。

いま社会が求めている人材	【入社時に求められる資質】 ・ 自ら考え行動することができる ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い  【キーワード】 ① 主体性 ② 協働力 ③ やり抜く力
--------------	---

※労働政策研究・研修機構（2022）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 調査結果を踏まえ、企業が若い世代に対して抱いている問題意識を伝えるとともに、こうした力（資質）は社会で活躍していく上で不可欠なものであることを伝えて下さい。
- またこうした資質をキーワードで示したものが①主体性、②協働力、③やり抜く力であることを明確に伝えていただき、今回のプログラム受講の意義を改めてお伝えください。

【説明例】

- こうした調査結果を踏まえると、企業は若い世代の主体的な行動力や、仕事でコミュニケーションを図る力、やり抜く力といったものに対して問題意識を持っているとも考えられます。逆にこうした力を持っている人を企業は求めているとも考えられます。
- こうした資質をキーワードで示したものが①主体性②協働力③やり抜く力です。
- 企業等の組織に評価され、社会で活躍していくためには、人から言われて動くのではなく、自ら考えて行動する「主体性」と、仕事で成果を出すために周囲の関係者とコミュニケーションをとって「協働」する力、そして最後まで諦めず「やり抜く力」の3つの資質が非常に重要です。

いま社会が求めている人材	【入社時に求められる資質】 ・ 自ら考え行動することができる ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い  【キーワード】 ① 主体性 ② 協働力 ③ やり抜く力
--------------	---

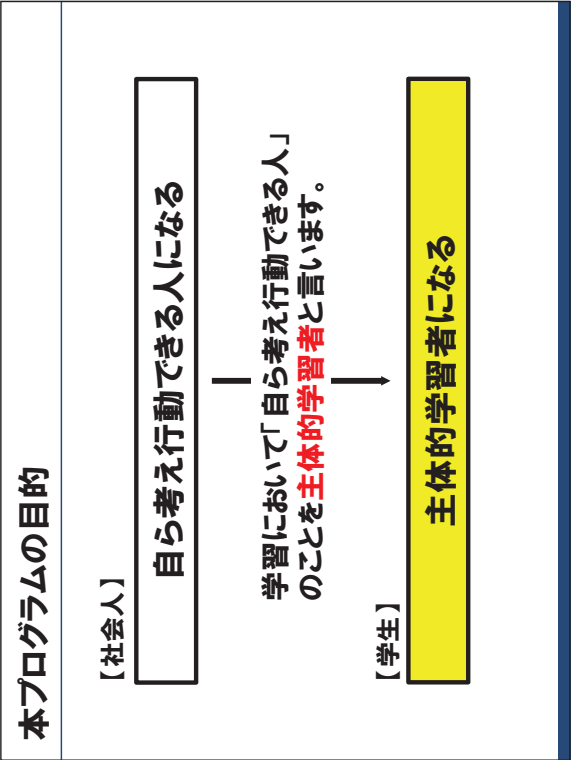
※労働政策研究・研修機構（2022）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 社会で活躍するために求められる資質の中でも、今回のプログラムの中心が「主体性」の育成を狙いとしていることをお伝えください。

【説明例】

- 今回のプログラムでは、この中でも「主体性」について勉強していきます。

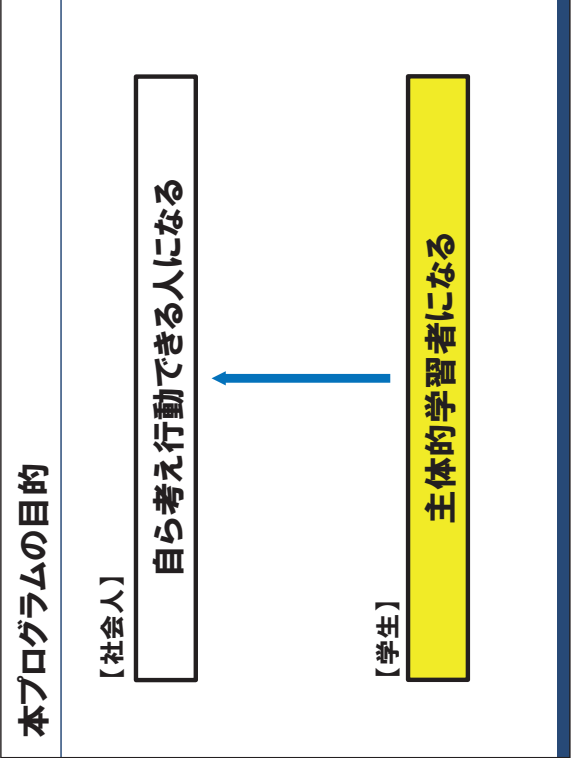


【授業進行上のポイント】

- 「主体的学習者」の定義をスライドの流れに沿って説明してください。

【説明例】

- 皆さんは社会に出るとき、自ら考え行動できる「主体性」の高い人材になっている必要がありますが、こうした「自ら考え、行動する」姿勢を高校、大学時代の学習においても実践できる人のことを「主体的学習者」と呼びます。



【授業進行上のポイント】

- 社会人になったときに、自ら考え行動できる「主体性」の高い人材になるためには、高校、大学時代の学習においても、主体的に考え行動する姿勢を身につけておくことが必要であることをお伝えください。

【説明例】

- 社会で活躍するためには、社会人になる段階で、「自ら考えて行動できる」状態になっておくことが必要ですが、ある日突然こうした主体性の高い人材になれるわけではありません。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても主体的に考え、行動する姿勢を身につけた「主体的学習者」になっておく必要があります。

本プログラムの目的	
主体的学習者とは？	
【1】自ら考え	- 世の中の事象を問題意識をもって観察することができる！ 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈できる！
【2】自ら行動	解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる！

本日のプログラム		
【主体的学習者育成プログラム - 問題発見編 - 】		
時間	項目	概要
10分	本プログラムの目的	いま社会が求めている人材とは？ 本プログラムの目的
10分	ウォーミングアップクイズ	日常風景からお困りごとを発見し、解決した商品・サービスに関するクイズ
10分	診断テスト	主体的学習者診断テスト
50分	問題発見 ケーススタディ	ケーススタディ「食生活実態調査」
15分	本日のまとめ	問題意識を育むためにできること 参考図書の紹介、振り返りシート記入

【授業進行上のポイント】

- 「主体的学習者」とは具体的にどのようなことができる人なのかをスライドに沿って解説してください。
- 「問題意識の醸成」→「問題意識を伴った観察」→「観察結果の解釈」→「解釈を踏まえた発想」という流れで、世の中にある様々な問題を見つけ、その解決策を考えていくことができることを伝えて下さい。

【説明例】

- 「主体的学習者」とは、人から言われたことをただ学ぶのではなく、世の中の様々な出来事に興味や関心、あるいは、疑問を持ち、問題を自ら見つけ、解決していこうとする人材です。
- こうした「主体的学習者」になるためには、まず世の中の事象を「問題意識をもって“観る”」ことが大切です。普段何気なく見ていたことも、問題意識をもってよく観察することで、いつもとは違った見え方ができ、「世の中にはこんな問題があるんだ・・・」といった様々な気づきが得られるようになります。
- そして世の中の様々な問題に気づけたら、それをどうしたら解決していけばよいか、具体的なアイデアを発想していきます。
- 「主体的学習者」として、世の中に潜む様々な問題を見つけ、その問題を解決するアイデアの発想へとたどり着くためには、最初に問題意識を持つことがなによりも重要です。

【授業進行上のポイント】

- 本日実施している「問題発見編」プログラムの構成です。
- 大きく5つの項目に分かれていますが、最も重要なワークは、ケーススタディ「食生活実態調査」にあることを伝えてください。

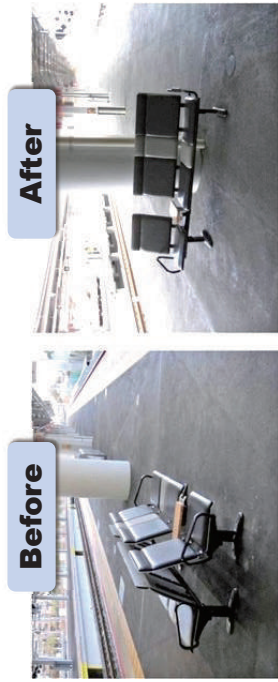
【説明例】

- 「主体的学習者」に求められる「問題発見」（世の中の事象を問題意識をもって観察し問題を見つける）と「問題解決」（発見した問題の解決策を考える）のうち、今回は、「問題発見」について学んでいきます。
- このプログラムの流れに沿って学習を進めていきます。
- 特に「食生活実態調査」というケーススタディで「問題発見」のプロセスを体験していきます。

ウォーミングアップクイズ

【問1】

JR西日本では、駅ホーム上の「ベンチの向き」を変えました。なぜでしょう？



出典: <https://www.westlr.co.jp/safety/action/measures/>

【授業進行上のポイント】

- ウォーミングアップクイズは、ケーススタディ「食生活実態調査」をよりよく進めるためのアイズブレイクとして位置づけています。
- ここでは3つのウォーミングアップクイズを出していますが、いずれも正解を目的としたクイズではありません。
- 生徒たちがリラックスした雰囲気の中でそれぞれ自由に意見を出し合い、交換することで多様な意見が存在することを共有するのが狙いです。そのことで生徒たちが自分とは異なる視点を持つ生徒がいることを知り、新たな気づきを得ることができます。
- 多様な視点とその可視化は、通常の授業では実現しにくい「アクティブラーニング」ならではの環境です。
- どんなに突拍子もない意見でも否定せず「唯一絶対の答えはない」ことを強調し数多くの生徒が活発に意見を出せるような雰囲気を作りながら進めてください。
- なお、3つのウォーミングアップクイズは日常のありふれた風景をよく観察すること
で人々のお困りごとを発見し、そこから解決する商品・サービスを発想していった実
例を題材としています。企業の商品・サービスの開発も、はじめは「観察」にあるこ
とを知ることによって生徒が少しでも問題意識の重要性に気づいてもらうことを狙いとして
います。

【説明例】

- これからクイズを3つ出します。「唯一絶対の答え」はありませんので、自分なりに色々な角度から考え、「生徒用ハンドアウト」の空欄に自分の考えを記入してみてください。

【説明例】

- 最初のクイズです。JR西日本では、駅ホーム上の「ベンチの向き」をこのスライドのように変更しました。なぜ、こうした変更をしたのでしょうか？様々な角度から考えてみて下さい。

【授業進行上のポイント】

- 「生徒の問題意識を醸成すること」が狙いのクイズです。
- 「唯一絶対の答えはない」ということを何度も強調して進めてください。
- はじめは、鉄道、駅、ホームという電車からイメージできる環境を前提とした意見が中心かも知れません。しかし、「唯一絶対の答えはない」「ことを実感してもらいたいのですから、様々な角度からの意見が出やすいよう」「こんな考えもあるかもよ・・・」など、適宜ヒントを与えながら進めたいかもしれません。

ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

転落事故の原因を調べてみると、約6割は酔っ払って突然歩き出し、そのまま線路に落ちる人だった。

【施策意図】



出典: <https://www.wesji.co/ja/safety/action/measure/>

ウォーミングアップクイズ

【問2】

小学生に絶大な人気を誇る運動靴・アキレスの「瞬足」は2003年に発売され、その後年間600万足も売れる大ヒット商品に成長しました。



出典: <http://www.asics.jp/model/>

【授業進行上のポイント】

- 何名かの生徒を指名し、生徒が考えた意見を発表させて下さい。
- その上で、このスライドにある答えと施策の意図を紹介して下さい。
- 但し、この答えを見つけたことが目的のクイズではないので、生徒の発表がこの答えと違っていたとしても、「〇〇さんが発表してくれた考えも面白いね」などと、生徒の多様な考えを否定しないように進めてください。

【説明例】

- では何人かにどんなことを考えたか聞いてみましょう。→生徒を指名
- 色々な答えが出ましたね。では、実際はどうだったのか見てみましょう。
- 実際は、このスライドにあるように、「酔っ払いの転落事故防止」を目的とした施策でした。「転落事故の原因を調べてみると、約6割は酔っ払って突然歩き出し、そのまま線路に落ちる人だった」という問題が見えてきたので、こうしたベンチの向きを変えるという施策を講じたのでした。
- 実際の施策の意図は「酔っ払いの転落事故防止」でしたが、皆さんが発表してくれたその他の考えも面白かったですね。
- 日ごろ何気なく見ているホームのベンチも、改めて「なぜこうなっているのだろうか？」と考えてみると、色々な気づきが得られると思います。

【授業進行上のポイント】

- このクイズの題材である「瞬足」はヒット商品ですので、生徒たちはすぐに「知ってる」を連発するのではないかと思います。
- しかし、知っていることとも一度疑ってみることが大切です。本当に「知ってる」通りなのか？実際には企業が想定した使い方とは異なる使い方をしているユーザーがいるのではないかな？など疑問を持つことが大切です。
- このクイズについても、問題意識の方向を制限せず、あらゆる方向からの意見が出てくるように進めてください。
- 例えば、「瞬足」が解決したユーザーのお困りごとは、靴を履く当事者である都会の小学生の問題だけではなく部分もあります。運動会などで子供が本来の能力を発揮する場面を目にすることは子供の親にとっても子供の成長を確認し、喜べる大切な機会ですから、子供が運動会の徒競走の場面などで転んでしまうことは親にとっても重要な問題なのです。その意味で、一つの商品が子供と親の二つの問題を解決しているとも考えられるのが「瞬足」です。「知ってる」を連発していた生徒には、このように多様な角度から考えることの重要性を伝えながら進めてください。

【説明例】

- では2つ目のクイズです。皆も小学生のころ、履いたことがあるかもしれません。が、アキレスの「瞬足」に関するクイズです。
- このアキレスの「瞬足」は2003年に発売され、その後年間「600万足」も売れる大ヒット商品に成長しました。こうした日用品の運動靴でこれほど売れるのはすごいことなのです。

ウォーミングアップクイズ

【問2】

この商品の特徴は、**左右非対称ソール**という構造です。

この構造は小学生のあるニーズを満たすために開発されました。

そのニーズとはどのようなものでしょうか？

右足ソール

左足ソール

スバイク位置

スバイク形状

出典: <http://www.syrusaku.jp/about/function/sol/>

- 【説明例】
- この商品は「左右非対称ソール」という構造が特徴です。普通の運動靴のソールは左右対称になっているのに、この靴は左右が非対称になっているのです。
 - では問題です。この構造は小学生のあるニーズを満たすために開発されたのですが、そのニーズ（お困りごと）とは何でしょうか？様々な角度から考えてみて下さい。

ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

都市部の小学校の校庭は狭いため、運動会の徒競走は、直線コースではなく、コーナーを走る。すると、子供たちは、コーナーでバランスを崩し、転倒していた。

【施策意図】

子供たちがコーナーも格好良く、最後まで力いっぱい走れるように

出典: <http://www.syrusaku.jp/about/whst/>

- 【授業進行上のポイント】
- 何名かの生徒を指名し、生徒が考えた意見を発表させて下さい。
 - その上で、このスライドにある答えと施策の意図を紹介して下さい。
 - 但し、この答えを見つけないことが目的のクイズではないので、生徒の発表がこの答えと違っていたとしても、「○○さんが発表してくれた考えも面白いね」などと、生徒の多様な考えを否定しないように進めてください。
- 【説明例】
- では何人かにどんなことを考えたか聞いてみましょう。→生徒を指名
 - 色々な答えが出ましたね。では、実際はどうだったのか見てみましょう。
 - 実際は、このスライドにあるように、「子供たちがコーナーも格好良く、最後まで力いっぱい走れるように」なることを目的とした施策でした。都市部の小学校の校庭は狭いため、運動会の徒競走は、直線コースではなく、急カーブのコーナーを走ります。すると、子供たちの中には、コーナーでバランスを崩し、転倒してしまう子もいたのです。メーカーの開発担当者はこうした状況を見て、ユーザーである子供のお困りごとを見つけ、「左右非対称ソール」という解決策を考案しました。これがこの商品の特徴であり、ヒットの要因です。
 - このように、実際の施策の意図は「子供たちの転倒防止」でしたが、皆さんが発表してくれたその他の考えも面白かったですね。
 - 日ごろ何気なく使っている運動靴のような日用品も、改めて「なぜこうなっているのだろう？」と考えてみると、色々な気づきが得られると思います。
 - このメーカーさんがすごいのは、左右対称が普通である運動靴のソールを、左右非対称にしたということですね。このように、新しいことを発想するためには、これまでの常識や当たり前を一度疑ってみることも大切です。この事例からはそんなことも学んで欲しいと思います。
 - また、さらに探究をしていくならば、「ソールが左右対称の運動靴」よりも「左右非対称の運動靴」の方が本当に走りやすいのかを実験してみたり、直線で走ったらどちらが速いか比較してみるなどしても面白いかもしれません。

ウォーミングアップクイズ

【問3】

ある医療機器メーカーが、検査装置(MRI)をペイントしました。なぜでしょう？

Before

After




出典: http://www3.gehealthcare.co.jp/ja-jp/products_and_services/magnetic_resonance_imaging

ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

子供たちは、大きな音がする検査装置が苦手。恐怖心を和らげるために鎮静剤注射が用いられていた。



【施策意図】

冒険の場所

出典: <https://www.gehealthcare.com/products/accessories-and-supplies/adventure-series-for-mr>

22

【授業進行上のポイント】

- 3つ目はMRIに関するクイズですが、このクイズも「わかった」を連発する生徒が多いかも知れません。
- 「わかった」を連発する生徒が多い場合は、例えば、「MRI検査を受けるのはどのような人たちでしょう？」といった質問をすることでクイズの多様性を理解してもらええるかも知れません。
- MRI検査の対象が大人と子供とでどう異なるのでしょうか？
- 大人が検査を受ける場合の恐怖感と子供が検査を受けるときの恐怖感はどう違うのでしょうか？
- おそらく子供がMRI検査を受ける場合は、既に体に何らかの問題を抱えている場合が多いかも知れません。一方、大人の場合は人間ドックなどの予防のための検査も少なくありません。そうした前提条件の違いを考えると、子供にとつての「恐怖感」は検査機器への「恐怖感」だけでなく自分の病への「恐怖感」も加わっていると予想されます。
- このように、前提となる条件をよく検討することで、問題解決の意味合いが違ってくるかも知れません。
- こうした点も踏まえ、あっさり「恐怖感」を和らげるため、という答えが出てしまった場合にも、深く考えさせる投げかけをしてください。
- このクイズでもできるだけ多方面からの検討が大切だということを伝えながら進めてください。

【説明例】

- では3つめのクイズです。ある医療機器メーカーが検査装置 (MRI) をペイントしました。なぜでしょう？このクイズも様々な角度から考えてみてください。

【授業進行上のポイント】

- 何名かの生徒を指名し、生徒が考えた意見を発表させて下さい。
- その上で、このスライドにある答えと施策の意図を紹介して下さい。
- 但し、この答えを見つめることが目的のクイズではないので、生徒の発表がこの答えと違っていたとしても、「〇〇さんが発表してくれた考えも面白いね」などと、生徒の多様な考えを否定しないように進めてください。
- 【説明例】
では何人かにどんなことを考えたか聞いてみましょう。→生徒を指名
色々な答えが出ましたね。では、実際はどうだったのか見てみましょう。
● 実際は、このスライドにあるように、「子供たちの検査に対する恐怖心を緩和する」といったことを目的とした施策でした。MRIは大きな音がしますので、子供たちはその大きな音が怖く感じてしまいます。医療機関は、その恐怖心を和らげるために鎮静剤を注射する場合がありますが、このペイントによって鎮痛剤の注射率が低減する効果も得られました。このペイントMRIは、ジャングルバージョーンや宇宙バージョーンなど様々な種類があって「MRIアドベンチャーシリーズ」と名づけられています。
● このように、実際の施策の意図は「子供たちの恐怖心の緩和」でしたが、皆さんが発表してくれたその他の考えも面白かったですね。
● このMRIは、検査空間としてのMRIを、冒険の場所に変えてしまった（意味を変えてしまった）という点でも大変イノベティブですね。
● このMRIも、メーカーさんが子供たちの検査の様子をみて、「子供たちの恐怖心を緩和するにはどうしたらよいか」考え、生まれた商品です。メーカーさんが問題意識をもっと状況を観察することで、革新的なアイデア発想につながった事例と言えます。
● MRIをペイントするだけで問題が解決するというアイデア、面白いですね。これなら「自分たちでもできそう」と感じませんか？
● 皆さんがこれから行う探究活動は、観察を通して身近な問題を見つけ、その解決策を探究していく活動ですが、あまり難しく考えずに、「自分たちでもできる」という感覚をもって進めることも大切です。

主体的学習者診断テスト



日ごろ、どれくらい世の中の事象を
 問題意識をもって観察しているか
 自己診断してみましょう！

主体的学習者診断テスト



みなさんが日ごろ、どの程度、世の中の事象に
 関心を示し、問題意識をもって観察しているか
 自己診断してみましょう！

主体的学習者	設問
問題意識をもって世の中の事象を観察することができる	
観察によって得られた事実を多様な視点から解釈できる	
解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる	

【説明例】

- ここで、皆さんが日ごろからどの程度世の中の事象を問題意識をもって観察できているかを自己診断で確認します。
- あまり深く考えずに、感覚的に回答してください。

問題発見ケーススタディ
【状況設定】 - みなさんは人々の生活実態について調査研究する『生活科学研究所』の研究員です。 - 現在、子ども(小・中学生)の食生活の実態について調査しています。 - 調査の一環で、ある家庭の朝食と夕食の風景を撮影してきました。 - これから、撮影した写真をもとに、子どもの食生活の実態について議論を行うことになっています。

問題発見ケーススタディ
【撮影に協力いただいた家族の状況】 父:45歳, 会社員 長男:中学2年生, サッカー部 母:42歳, パート 次男:小学3年生 - 夫婦共働き。父の帰宅は遅いため、家族全員が揃って夕食をとることは週に1,2回程度。 - 長男は朝練(部活)があるため、一人で先に朝食を食べ出かけてしまう。塾がある日(火曜・木曜)はコンビニ弁当などで夕食を済ませることが多い。 - 次男も塾がある日(金曜)は夕飯を一人で食べることが多い。

【授業進行上のポイント】

- ① 状況設定の説明
- まずこのケースの「状況設定」について説明してください。
- 自分がどういった立場から考えるのか、何について考えるのか、ケーススタディで生徒がやるべきことをゆつくりと確実に説明してください。

【説明例】

- 今回取り組むワークは、ある家庭の「食生活」の実態を観察し、そこから問題を見つけたいというものです。
- 皆さんには人々の生活実態について調査研究する『生活科学研究所』の研究員になっていただきます。
- 皆さんは現在、子ども（小・中学生）の食生活の実態について調査しています。
- 調査の一環で、ある家庭の朝食と夕食の風景を撮影してきました。これから、撮影した写真をもとに、子どもの食生活の実態について議論を行うことになっています。
- 状況設定について理解できましたか？

【授業進行上のポイント】

- ① 状況設定の説明
- 今回調査対象となった家族の状況について説明してください。

【説明例】

- 今回調査対象となった家族の状況はこのスライドの通りです。
- 父は45歳の会社員、母は42歳のパート社員、長男は中学2年生でサッカー部に入っています。次男は小学3年生です。
- 夫婦は共働きで、父の帰宅が遅いため、家族全員が揃って夕食をとることは週に1,2回程度しかありません。
- また、長男は朝練（部活）があるため、一人で先に朝食を食べ出かけてしまいます。塾がある日（火曜、木曜）はコンビニ弁当などで夕食を済ませることが多い状況です。次男も塾がある日（金曜）は夕飯を一人で食べることが多くなっています。
- 家族の状況について理解できましたか？

問題発見ケーススタディ

【演習の進め方①】

1. 状況写真を見て「??」と思ったところに○をつけてください。
2. グループで話し合いながら、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを付箋に書き出してください。

問題発見ケーススタディ

【模造紙作成のイメージ】

【授業進行上のポイント】

- ② 模造紙と付箋を使った1回目のグループワーク
- 「状況設定」の説明の後に朝食、夕食の写真がついた模造紙をグループごとに1枚づつ配布してください。
- 開始後はグループの進捗状況を机間巡視しながら進めてください。
- その際、話し合いがうまく進んでいないグループには適宜アドバイスを行いながら、生徒ができるだけ多くの付箋が書き出せるように進めてください。
- ある程度付箋が出た段階で他のグループの模造紙を見学するツアーを実施してください。うまくいっている場合も行き詰まっている場合も、このことにより刺激を受け、その後のワークが活性化することが多いです。

【説明例】

- これからこの家族のある日の朝食、夕食の写真が貼られた模造紙を配布します。
- グループでこの食卓の写真を見て、何か違和感を覚えた部分があれば、そこに赤ペンで○をつけてください。
- そして、○をつけた部分について、グループで話し合いながら、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを黄色の付箋に書き出してください。

【配布資料】

- 食卓の写真が貼られた模造紙
- サインペン（黒・赤）
- 付箋紙（黄色）

【説明例】

- 最初のグループワークで行う作業のイメージはこのスライドの通りです。
- グループで話し合いながら、違和感のあるところに○をつけ、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを黄色の付箋に書き出し、模造紙に貼って下さい。

問題発見ケーススタディ

【演習の進め方②】

1. みなさんは、以下の3つの分野の
いずれかの**専門家**です。

A. 栄養学 B. 環境学 C. 教育学

2. 専門家の視点から
もう一度**設定状況の文章と写真**をみて
気づいた点、問題だと思った点、疑問に
思った点などを付箋に書き出してください。

- 【授業進行上のポイント】
- ④ ジグソー法による同じ専門家同士のグループワーク：エキスパート活動

 - グループごとに誰がどの専門家を担うのかが決まったら、今度は同じ専門家同士で適当な場所に集まってグループワークを行います。
 - 先生方が6人1グループになるようにグループ分けを行ってください。その際、グループワークを実施する場所はどこでも構いません。
 - それぞれの専門家チームでロールシートに書かれている情報を参考にしながら、改めて食卓の写真を観察し、気づいたことを話し合わせて下さい。
 - この時点での話し合いでは、専門家の役割認識を持つことで、1回目のワークとは異なる視点からの意見が出てくると思います。1回目は条件を付けずに実施しましたので自分の価値観や実感に基づいた感覚的な語彙、表現が多く出されると思いますが、2回目のワークは専門家の視点を持つため自分の感覚的な語彙、表現とは異なる、専門家らしい語彙、表現、また専門用語が出てくるのではないかと思います。
 - グループワークがうまくいっていない場合には専門家らしい表現や専門用語をアドバースするなどグループの活性化を図りながら進めてください。
 - なお、ここでの専門家チームでの話し合いの内容については、適宜メモを残しておくよう指示をしてください。
- 【説明例】
- これから各専門家同士で専門家会議を行います。栄養学の専門家、環境学の専門家、教育学の専門家、それぞれ教室の別の場所に集まって下さい。
 - ロールシートに書かれている情報を参考にしながら、各専門家チームで改めてこの食卓の写真からの気づきや問題点などを話し合ってください。
 - 話し合いの内容は適宜メモをしておきましょう。

- 【授業進行上のポイント】
- ⑤ ジグソー法による元のメンバー同士のグループワーク：ジグソー活動

 - 専門家同士の話し合い後、元のメンバー同士のグループワークに戻り、それぞれの専門家の視点で書かれた意見を共有させ、改めて今までの違った視点からの意見を、**ピンク色の付箋**に出させ、2回目 で使った模造紙の上に貼らせてください。
 - ジグソー法（エキスパート活動）による情報交換を続けていきますので、1回目とは視点が大きく違った意見が付箋に書かれると思います。そのことを先生方は褒めてあげながら進めてください。
- 【説明例】
- それでは元のグループに戻ってください。
 - 今、各専門家グループで話し合った内容を元のグループのメンバーに共有しながら、改めて各専門家チームで出された意見を**ピンク色の付箋**に書き出してください。付箋が書けたら、それを先ほどの模造紙に貼付して下さい。

- 【配布資料】
- 付箋紙（ピンク色）
- 【授業進行上のポイント】
- ⑥ 活発だったグループの発表

 - 最後にグループワークが順調に進んでいたグループを2～3グループ選んで発表を行ってください。
 - 他のグループがどのようにワークを進め、この食卓写真に対してどのような解釈をしたのか、各グループで進めた内容を全体で共有することも生徒が違った視点を獲得し、問題意識を醸成する上で不可欠な重要なプロセスです。
- 【説明例】
- ではグループワークの結果についていくつかのグループに発表してもらいます。
 - 「どの写真からどのようなことに気づいたか」、「どのようなことが問題だと感じたか」、「どのようなことに疑問を感じたか」、黄色の付箋やピンク色の付箋に書かれた内容をいくつか紹介して下さい。

【授業進行上のポイント】

- ③ 専門家の役割分担の決定（グループ内で専門家の役割を決める）
- 1回目のグループワークは何も条件を付けずに実施しました。この後2回目のグループワークをしますが、その前に、各グループの生徒には、「栄養学」「環境学」「教育学」の3つの専門家の役割を生徒に持ってもらい、その視点から考えていきます。
 - はじめに3つの専門家がどういった分野の専門家なのかをスライドを使って説明してください。
 - 次にグループごとに誰がどの専門家を担うのかを決めさせてください。その際、特定の専門家に集中することなくバランスを考えて決めるように生徒には伝えてください。

（例）6人グループの場合、3つの専門家を2人ずつ分担。

【説明例】

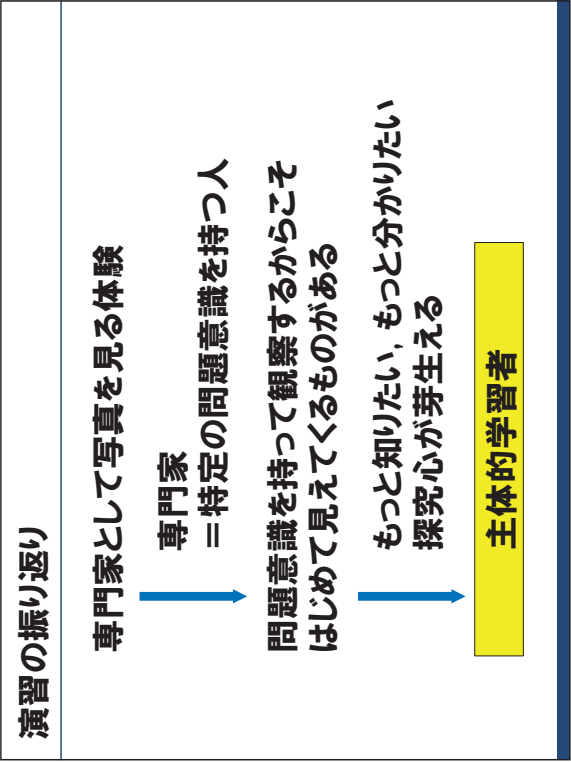
- 先ほどのグループワークでは、何の条件もつけずに、食卓写真を見て気づいたことを付箋に書き出しましたが、これから皆さんには3つの分野の専門家になってもらい、その3つの分野の専門家の視点で改めてこの食卓の写真を観察し、気づいたことや問題だと思ふ点などを改めて付箋に書き出してもらいます。
- 3つの分野は「A. 栄養学」「B. 環境学」「C. 教育学」です。それぞれ自分がどの役割を担うか、グループで決めてください。

→担当が決まったら、それぞれのロールシートを担当の生徒に配布し、読み込ませます。

【配布資料】

- ロールシート（A. 栄養学、B. 環境学、C. 教育学）

演習を通して 気づいたこと、感じたこと



【授業進行上のポイント】

- このケーススタディを通して、気づいたことや感じたことを何名かの生徒に発表させてください。
- この際、今回のケーススタディを通して、以下のような変化、気づきを感じることができたか生徒に投げかけをしてみてください。
- 専門家という特定の問題意識を持つことで、付箋に書かれた語彙や表現が「回目（黄色）と2回目（ピンク）で変わったか？
- 専門家という特定の問題意識を持つことで、興味や関心がこれまでに以上に広がった感じがするか？
- 次回は自分の気になる専門家になって世の中のことを観察してみたいと思ったか？

【説明例】

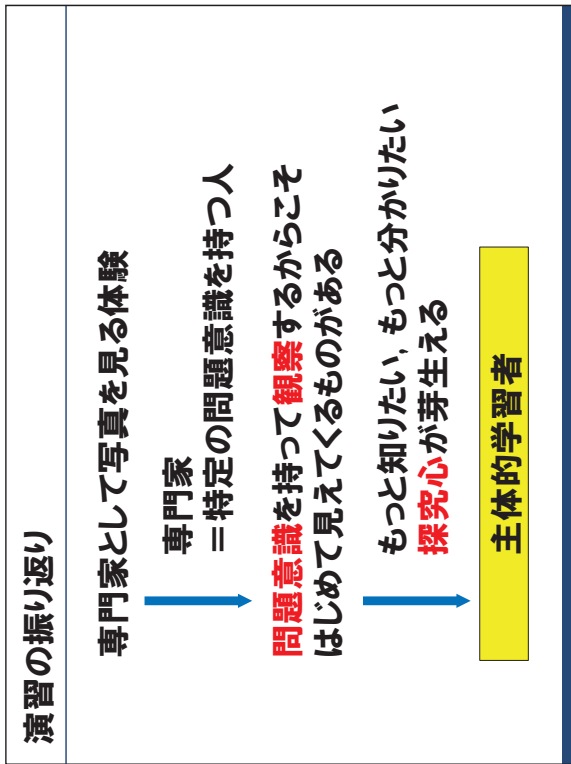
- 今回のケーススタディを通して皆さんはどのようなことに気づきましたか？気づいたことや感じたことを何人かに発表してもらいましょう。

【授業進行上のポイント】

- 以下のことを伝えながらケーススタディのまとめを行ってください。
 - 専門性を持つことは特定の問題意識を持つこと。
 - 専門性を持つことで世の中の見方が変わり、観察力が身につくこと。
 - そのことが延いては「もっと知りたい」、「調べたい」という「探究心」につながる。
 - その結果、主体的に学ぶ態度が育成され、「主体的学習者」になれること。

【説明例】

- 今日の演習では、「家族の食卓」という、皆さんにとっても身近な題材の写真を見て、そこから問題を見つけるグループワークを行いました。
- 2回目のグループワークでは、皆さんには3つの専門家の役割に分かれて議論をしてもらいました。
- 専門家というのは特定の問題意識を持つ人です。教育学の専門家であれば、教育をめぐる様々な事象について興味や関心、問題意識をもっていますし、環境学の専門家であれば、地球環境、自然環境等に関する事象について興味や関心、問題意識をもっています。
- こうした専門性を持つこと、言い換えれば何らかの視点を持つことで私たちは、世の中の見方が変わり、観察力が身についていきます。
- そのことが延いては「もっと知りたい」、「調べたい」という「探究心」につながる。その結果、主体的に学ぶ態度が育てば、皆さんは、「主体的学習者」になることができます。
- 今回のケーススタディを通して、皆さんは何らかの専門領域からもっと世の中を観てみよう、調べてみようという気持ちになることができたか？もしそうしたら気持ちになることができたとなれば、主体的学習者に一歩近づけたということになります。



本日のまとめ

【授業進行上のポイント】

- 以降のスライドを用いて本日のまとめを行って下さい。

本日のまとめ

【主体的学習者とは】

(1) 世の中の事象を**問題意識**をもって**観察**し、

(2) **観察**によって得られた**事実**を**解釈**し、

(3) **解釈**を踏まえて**問題解決のアイデア**を**発想**できる人

本日のまとめ

【主体的学習者】

観察する

問題意識を持つ

解釈する

発想する

問題意識 = 自らの視点を
もつことが主体的学習者になるための出発点

31

【授業進行上のポイント】

- 今回のプログラムの冒頭で説明した「主体的学習者」の定義を以下の3点にまとめ復習してください。
 - 問題意識を持つことが主体的学習者になるための出発点
 - 主体的学習を積み重ねることですら行動できるようになる
 - 問題意識は日常生活のなかでも醸成できる

【説明例】

- 今回冒頭で説明した「主体的学習者」の定義について再度復習しておきましょう。
 - 定義を読み上げる
- 特に大事なことは問題意識をもって世の中の事象を観察することでした。そして問題意識を持つことが主体的学習者になるための出発点であるという話をしました。また、学生のうちから、主体的学習を積み重ねること、社会人になったときには自ら考え、行動できるような人になれているという話をしました。
- そしてウォーミングアップクイズやケーススタディを通して、問題意識は日常生活のなかでも醸成できることを学びました。

【授業進行上のポイント】

- 「主体的学習者」になるためには、問題意識をもつ＝自分なりの視点をもつことが大切であることを伝えて下さい。
- この自分なりの視点をもつことは、進路選択の際にも必要であることを伝えて下さい。

【説明例】

- 主体的学習者にとって問題意識をもつこと、言い換えれば自分なりの視点をもつことはとても大事です。
- 視点をもつことで、世の中をどの視点から観察するのか、世の中の事象をどの視点から解釈するのか、どの視点から問題を解決する糸口を見出すのか、が見えてきます。
- そして今日のケーススタディで体験したように、様々な視点をもった人たちと協働すること、世の中の事象から多様な問題を発見することができ、また、多様な角度から問題の解決策を考えることもできるようになります。
- 大学は、そうした専門的な視点を獲得するための場です。その意味でも、大学進学の際には、自分はどの視点から専門性を磨くのかを考え、進路を決めることが大切です。

問題意識を育むためにできること	
	何気ない日常的な事象でも、 「なぜだろう？」と考える癖をつける
	様々なジャンルの 知識・情報 に触れ、 世の中の事象を解釈するための 視点 を得る
	自分自身や社会に対して、 ありたい姿・あるべき姿を思い描くようにする

【授業進行上のポイント】

- 問題意識をもつために実践して欲しいことを説明して下さい。

【説明例】

- 問題意識をもつために、日ごろから実践できることが3つあります。

- 何気ない日常的な事象でも、「なぜだろう？」と考える癖をつける
- 今日のウォーミングアップクイズでやったように、駅のホームのベンチなど、何気ない日常的な事象でも「なぜそうなっているのか？」を考えると、その背後には様々な問題やニーズ（お困りごと）があることに気づきます。出来事を流さずに、「なぜだろう？」と考える癖をつけましょう。
- 様々なジャンルの知識・情報に触れ、世の中の事象を解釈するための視点を得る
- 今日のケーススタディで体験したように、専門家の視点が入ると、世の中の事象を解釈する際の切り口が増え、また、解釈が深くなります。高校、大学時代に多様なジャンルの情報に触れ、様々な視点を獲得する努力をしましょう。
- 自分自身や社会に対して、ありたい姿・あるべき姿を思い描くようにする
- 「問題」とは、「ありたい姿/あるべき姿」と「現状」のギャップです。「ありたい姿/あるべき姿」を描けなければ何の問題意識も生まれず、「現状」のままでいいやと思ってしまう。今日のケーススタディでも、「家庭の食卓はもっとこうあるべきでは？」と考えたからこそ、様々な問題点や疑問点が浮かび上がったはず。自分はどうありたいのか、社会はどうあるべきなのかを考える習慣をつけましょう。

本日のまとめ	
【社会人】	自ら考え行動できる人になる
【学生】	主体的学習者になる

【授業進行上のポイント】

- 社会人になったときに、自ら考え行動できる「主体性」の高い人材になるためには、高校、大学時代の学習においても、「主体的に考え行動する」姿勢を身につけておくことが必要であることを改めて伝えてください。

【説明例】

- 今日冒頭で説明したように、社会人になったときに「自ら考えて行動できる」状態になっておくことが必要ですが、ある日突然こうした主体性の高い人材になれるわけはありません。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても主体的に考え、行動する姿勢を身につけた「主体的学習者」になっておく必要があります。このことを忘れないようにしましょう。

本日のまとめ 【入社時に求められる資質】 ・ 自ら考え行動することができる ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い 【キーワード】 ・ 主体性 ・ 協働力 ・ やり抜く力 ※労働政策研究・研修機構(2011)「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 将来、社会で活躍していくためには①主体性、②協働力、③やり抜く力が必要であることを再度伝えてください。
- 最後に、「振り返りシート」を作成させてください。「振り返りシート」を記入する時間はできるだけ長く確保してください。本プログラムの効果を高める点でも重要です。
- また「振り返りシート」は終了後回収してください。

【説明例】

- 今日は、冒頭、社会で活躍していくためには①主体性、②協働力、③やり抜く力の3つの力が求められるということを説明しました。
- 企業等の組織に評価され、社会で活躍していくためには、人から言われて動くのではなく、自ら考えて行動する「主体性」と、仕事で成果を出すために周囲の関係者とコミュニケーションをとって「協働」する力、そして最後まで諦めず「やり抜く力」の3つの資質が非常に重要であることを再度確認しておきましょう。
- 最後に、今日の授業を踏まえ、どのようなことを感じたか、「振り返りシート」に自由に記入して下さい。

【配布資料】

- 「振り返りシート」

次回までの課題

【授業進行上のポイント】

- 今回のプログラムを踏まえた上での宿題を提示して下さい。
- 【説明例】
- 次回のプログラムまでに簡単な宿題がありますので、各自取り組んで下さい。

次回までの課題

問題意識をもって身近な日常を観察し、
気になる事実を3つ集めてきてください。

写真を撮る

メモを取る

【授業進行上のポイント】

- 次回までに問題意識をもって自分の生活環境を観察することと何か気づくことはな
いかを調べてくることが宿題であることを説明してください。

【説明例】

- ウォーミングアップクイズやケーススタディでも体験したように、自分たちの身近
な事象を観察することで、様々な問題を見つけることができます。
- そこで、次回の授業までに、問題意識をもって身近な日常を観察し、気になる事実
を3つ、写真に撮影し、その写真からどのようなことに気づいたかをメモしてくるこ
とを宿題とします。

次回までの課題

【例】

写真を撮る

メモを取る



- ・「スマホを使うようになってか
ら、人の姿勢は変わったので
はないか？」
- ・「駅の広告や看板はあまり見
られなくなったのではないか
？」
- ・「駅での歩きスマホの事故は
どの程度増えているのだろ
う？」

【授業進行上のポイント】

- 宿題の具体的なイメージを伝えて下さい。

【説明例】

- このスライドは宿題のイメージです。
- 何気ない都会の駅のホームを撮影したのですが、多くの人がスマホを見て下を向い
ています。そこから「スマホを使うようになってから、人の姿勢は変わったのではな
いか？」「駅の広告や看板はあまり見られなくなったのではないか？」「駅での歩き
スマホの事故はどの程度増えているのだろうか？」という疑問をメモしています。
- このようなイメージで、気になる事実の写真を撮影し、そこから感じた疑問や問題点
をメモにまとめてください。

参考図書
● 好井 裕明著『「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス』光文社,2006年 ● 好井 裕明著『今、ここ』から考える社会学』筑摩書房,2017年 ● アキレス株式会社「瞬足」開発チーム著『開発チームは、なぜ最強ブランド「瞬足」を生み出せたのか?』U-CAN,2013年

【授業進行上のポイント】

- 今回のプログラムの学びをさらに深めるために有用な参考図書を紹介してください。

【説明例】

- 今日の授業の内容についてもっと深く学びたいと思った人は、この参考図書を読んでみてください。

次回予告
主体的学習者 【1】自ら考え 問題発見 ・ 世の中の事象を問題意識をもって観察することができる！ ・ 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈する！ 【2】自ら行動 問題解決 ・ 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できるようになる！

【授業進行上のポイント】

- 次回は、今回の発展バージョンである「問題解決編」を実施することを伝えてください。

【説明例】

- 今日の授業は、「主体的学習者」にとって必要な、「自ら考え、問題を見つける」部分を行いました。
- 次回は、問題を見つけたあと、「解決策を考え、自ら行動する」部分について学習していきます。
- 次回も楽しみにしていてください。
- お疲れさまでした。

3-1-3 教材

(1) テキスト&ワークシート

主体的学習者育成プログラム - 問題発見編 -			
学年・組		氏 名	

1. プログラムの目的

【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】

	40代	30代	20代
自ら考え行動することができる	60%	34%	7%
指示されたことだけをやっている	11%	18%	60%
仕事におけるコミュニケーション能力にたけている	60%	40%	14%
職場においてコミュニケーションをうまく図れない	6%	9%	40%
失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	67%	39%	9%
失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう	6%	13%	47%

【キーワード】 ①主体性 ②協働力 ③やり抜く力

【学生】主体的学習者になる → 【社会】自ら考え行動できる人になる

【主体的学習者とは？】

(1) 自ら考え

- ・ 世の中の事象を、問題意識をもって観察することができる
- ・ 観察によって得られた気づきを多様な視点から解釈できる

(2) 自ら行動

- ・ 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる

【本日のプログラム】

時間	項目	概要
10分	本プログラムの目的	いま社会が求めている人材は？ 本プログラムの目的
10分	ウォーミングアップクイズ	日常風景からお困りごとを発見し、解決した商品・サービスに関するクイズ
10分	診断テスト	主体的学習者診断テスト
50分	問題発見 ケーススタディ	ケーススタディ「食生活実態調査」
15分	本日のまとめ	問題意識を育むためにできること 参考図書の紹介、振り返りシート記入

2. ウォーミングアップクイズ

【問1】JR 西日本では、駅ホーム上の「ベンチの向き」を変更しました。なぜでしょう？

(解答メモ)

【問2】運動靴・アキレスの「瞬足」の商品の特徴は、左右非対称ソールという構造です。
この構造は小学生のあるニーズを満たすために開発されました。
そのニーズとはどのようなものなのでしょうか？

(解答メモ)

【問3】ある医療機器メーカーが、検査装置（MRI）をペイントしました。なぜでしょう？

(解答メモ)

【3つの例の共通点は？】

- ・ ホーム上の酔っ払いの行動を観察
 - ・ コーナーで転倒する子供たちを観察
 - ・ MRI 検査を嫌がる子供たちの様子を観察
- 何気ない日常風景の中に人々の困りごと（問題）を発見した例

3. 主体的学習者診断テスト（プレ調査）

- ・ みなさんが日ごろ、どの程度、世の中の事象に関心を示し、問題意識をもって観察しているか自己診断してみましょう。
- ・ プログラム終了後、もう一度診断テストをします。自分にどのような変化が起こるか楽しみにしててください！

4. 問題発見ケーススタディ

【状況設定】

1. みなさんは人々の生活実態について調査研究する『生活科学研究所』の研究員です。
2. 現在、子ども（小・中学生）の食生活の実態について調査しています。
3. 調査の一環で、ある家庭の朝食と夕食の風景を撮影してきました。
4. これからは、撮影した写真をもとに「子どもの食生活の実態」について議論を行うことになっています。

【撮影に協力いただいた家族の状況】

父：45 歳，会社員 長男：中学2年生，サッカー部

母：42 歳，パート 次男：小学3年生

1. 夫婦共働き。父の帰宅は遅いため、家族全員が揃って夕食をとることは週に1,2回程度。
2. 長男は朝練（部活）があるため、一人で先に朝食を食べ出かけてしまう。塾がある日（火曜, 木曜）はコンビニ弁当などで夕食を済ますことが多い。
3. 次男も塾がある日（金曜）は夕飯を一人で食べるが多い。

【演習の進め方①】

1. 写真を見て？？と思ったところに○をつけてください。
2. グループで話し合いながら、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを付箋に書き出してください。

【演習の進め方②】

立ち上がり他のグループの模造紙を見て回り、自分たちのグループが気づいていなかった

た点についてヒントを得て、付箋をさらに増やしてください。

【演習の進め方③】

1. みなさんは、以下の3つの分野のいずれかの専門家です。
A. 栄養学 B. 環境学 C. 教育学
2. 専門家の視点からもう一度設定状況の文書と写真を見て、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを付箋に書き出してください。

【演習の振り返り】

専門家（特定の問題意識を持つ人）として写真を見る体験

→問題意識を持って観察するからこそ、はじめて見えてくるものがある

→もっと知りたい、もっと分かりたいという探究心が芽生える

→主体的学習者

5. まとめ

【主体的学習者とは？】

- (1) 世の中の事象を問題意識をもって観察し、
 - (2) 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈し、
 - (3) 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる人
- ※問題意識＝自らの視点を持つことが主体的学習者になるための出発点

【問題意識を育むためにできること】

- ・ 何気ない日常的な事象でも「なぜだろう？」と考える癖をつける
- ・ 様々なジャンルの知識・情報に触れ、世の中の事象を解釈するための視点を得る
- ・ 自分自身や社会に対して、ありたい姿・あるべき姿を思い描くようにする

6. 参考図書

自身の問題意識、観察力、探究心、問題発見力に課題を感じた人、さらに学習を深めたい人に、以下の書籍をお薦めします。

- (1) 好井裕明著『「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス』光文社新書, 2006 年
- (2) 好井裕明著『「今、ここ」から考える社会学』筑摩書房, 2017 年
- (3) アキレス株式会社「瞬足」開発チーム著『開発チームは、なぜ最強ブランド「瞬足」を生み出したのか?』U-CAN, 2013 年

(2) 主体的学習者診断シート（プレ調査）

主体的学習者診断シート（プレ調査）			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

各設問について自分自身がどれくらいあてはまるか（あてはまらないか）回答してください。

設問	全くあてはまらない							とてもあてはまる	
	1	2	3	4	5	6	7		
1 自分が知らないことを聞くと、詳しく話を聞きたくなる。	1	2	3	4	5	6	7		
2 気になったことはすぐにインターネットなどで調べてみる。	1	2	3	4	5	6	7		
3 現状を打開できるかどうかは常に自分次第だと思う。	1	2	3	4	5	6	7		
4 何かをより良くするために、自分から行動する方だ。	1	2	3	4	5	6	7		
5 興味があることにはとことんのめり込んでしまう。	1	2	3	4	5	6	7		
6 自分は無力な人間だと思う。	7	6	5	4	3	2	1		
7 自分が納得できなければ、他人から評価されてもあまりうれしくない。	1	2	3	4	5	6	7		
8 わからないことは、まず自分で調べてから人に聞く。	1	2	3	4	5	6	7		
9 世の中には面白いことがたくさんあると思う。	1	2	3	4	5	6	7		
10 自分がどうがんばっても世の中は変わらないと思う。	7	6	5	4	3	2	1		
11 他人と意見が異なる時、なぜ違うのか深く掘り下げたくなる。	1	2	3	4	5	6	7		
12 人気のある商品についてなぜ人気があるのか自分なりに考えてみることもある。	1	2	3	4	5	6	7		

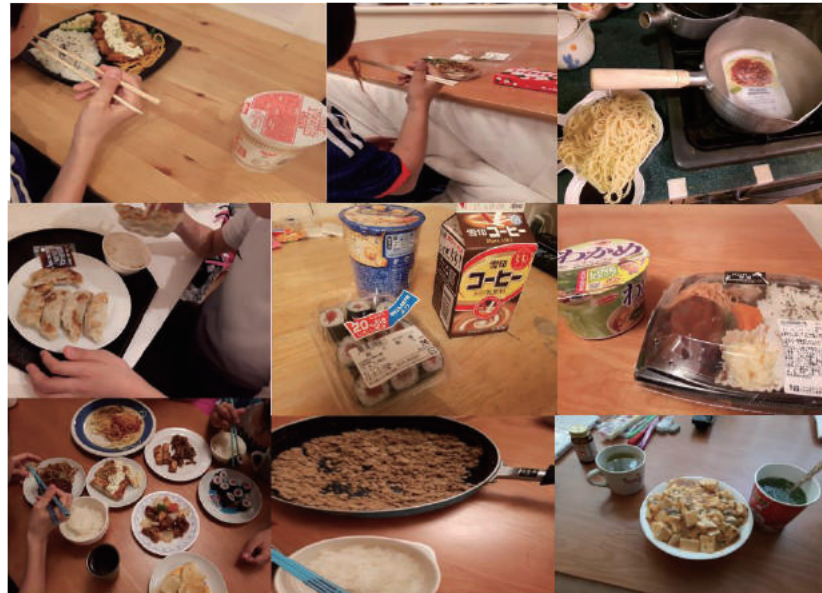
(3) グループワークシート「食生活実態調査」

※下記「食事写真」をカラー印刷した上で模造紙に貼り付けてください。

朝食



夕食



(4) 役割設定シート

問題発見ケーススタディ



A. 栄養学の専門家

- あなたは栄養学の専門家です。
- 栄養に関する高度な専門知識と技術を持ち、個人の身体の状態や栄養状態に応じた食事指導などを行っています。
- 現在、子どもの約6割に野菜の好き嫌いがあり、朝食を食べない子どもが増えています。
- 日本では、肥満傾向にある子どもが増加しつつあります。

B. 環境学の専門家

- あなたは環境学の専門家です。
- 環境学は、人間を取り巻く環境と、環境が人間や動植物に与える影響について探究する学問です。
- 近年は、日本の食料自給率低下や食品廃棄の問題に注目して研究しています。
- 日本の食料自給率は年々低下し、現在は約40%*。先進国の中で最低の水準です。
- 日本で、本来食べられるのに廃棄されているもの（食品ロス）は年間500-800万トンと推計されており、日本のコメ収穫量に匹敵する量です。

*カロリーベース 総合食料自給率(平成27年度)

C. 教育学の専門家

- あなたは教育学の専門家です。
- 教育学は、人間の教育をめぐるあらゆる事象を取り上げ、教育のあり方を探究する学問です。
- 近年は、子どもの食習慣と学力の関係、子どもの孤食に注目して研究しています。
- 毎日朝食を食べる子どもほど、学力調査の結果が良いというデータがあります。
- 現在、朝食を子どもだけで食べる比率は4割を超えています。塾に通う子どものうち4人に1人は夜9時以降に帰宅しています。

(5) 振り返りシート

振り返りシート			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

本日のプログラムを通じて気づいたこと，感じたことを自由に記述してください。

Ⅱ．実施ガイド

3 主体的学習者育成プログラム

3-2 問題解決編

3-2-1 講師ガイド

主体的学習者育成プログラム - 問題解決編 - 講師ガイド

(1) タイムテーブル (100 分間)

時間	プログラム
10 分	1. 前回の振り返り 2. プログラムの紹介
10 分	3. ウォーミングアップクイズ (全 2 問)
60 分	4. 問題解決ケーススタディ「ワーキングマザー」
10 分	5. 主体的学習者診断テスト (ポスト調査) →要回収
10 分	6. まとめ 7. 参考図書の紹介 8. 振り返りシートの記入 →要回収

(2) プログラム実施前の準備

	資料名	必要数
スライド投影 の準備	投影スライド	－
映像教材の 投影準備	【映像 1】路上駐車防止 【映像 2】ワーキングマザー	－
教材の印刷	(1) テキスト&ワークシート	1 人 1 部
	(2) グループワークシート 「ワーキングマザー」 ※模造紙に印刷	1 グループ 1 部
	(3) 付箋	1 グループ 100 枚
	(4) 主体的学習者診断シート (ポスト調査)	1 人 1 部
	(5) 振り返りシート	
パソコンの 準備	・ 映像教材を使用しますので、あらかじめ パソコンに映像データをセットしておき ます。	－

(3) プログラム実施上のポイント

時間	プログラム	実施上のポイントなど
10 分	1. 前回の振り返り	・ 教室の雰囲気づくりが大切です。少しリラックスした雰囲気がよろしいかと思います。 ・ 1-2 名を指名して、前回の感想などを尋ねた後、前回の内容を簡単に振り返ってください。 ・ ここで時間を使いすぎると、後のワークの時間が不足しますのでご注意ください。
	2. プログラムの紹介	・ 簡単にプログラムの流れをご説明ください。 ・ 「問題解決ケーススタディ」がメインであることをお伝えください。
10 分	3. ウォーミングアップクイズ (全 2 問) 社会課題を解決したソーシャルデザインに関するクイズ 【問 2】では、下記 URL から[映像教材 1]路上駐車防止を投影してください。 https://www.youtube.com/watch?v=hVuLIH5aNaM&feature=youtu.be&t (2019 年 10 月 23 日閲覧確認)	【問 1】 ・ 正解を導き出すことが重要なものではありません。 ・ 学生から多様な意見を拾ってください。 ・ その上で「風力発電や太陽光発電は、費用的な問題で現実的には解決策にはなりにくい。では、どう解決するか？」など、学生の思考を深めるファシリテーションを行ってください。 ・ [解決アイデア]は途上国の子供たちの生活（昼間はサッカーをすることが多い）をよく観察し、子供たちの生活に溶け込む（無理のない、現実的な）解決策を示した例であると伝えてください。 ・ 探究学習において「自分の眼で事実を観察し」「自分なりの解決策」を模索することが大切であるとお伝えください。
		【問 2】 ・ 学生から多様な意見を拾ってください。 ・ その上で「罰則強化などの強制なくして、違法な路上駐車を減らす方法を考えてみてください」など、学生の思考を深めるファシリテーションを行ってください。 ・ [解決アイデア]の映像を流してください。 （参考）本取組み（＝動画拡散）は自動車教習所のキャンペーンとして行ったものです。 ・ 探究学習において「常識や前例を超えた発想」を意識してみることも大切であるとお伝えください。
		【2 つの例の共通点】 ・ 2 つの例は、ともに人々の困りごと（問題）を発見し、解決案を提示した例であることをお伝えください。 ・ 探究学習においても、自分なりの視点でよく観察し、よく考えて発想し、提案を行うことが重要であることをお伝えください。 ・ 問題解決案を発想に至るまでのプロセス（①観察する→②解釈する→③発想する）について簡単にご説明ください。特に解釈と発想の間に「仮説」

		を置くことの必要性をお伝えください。 →①②③のプロセスは、後の「問題解決ケーススタディ」で登場します。
60 分	4. 問題解決ケーススタディ 「ワーキングマザー」 本ケーススタディでは、下記 URL から[映像教材 2]ワーキングマザーを投影してください。 https://www.youtube.com/watch?v=hCC9XWpr0dM (2019 年 10 月 23 日閲覧確認)	・ワーキングマザーに関する映像を 2 回視聴します。 ・映像を見る前に、演習の流れをご説明ください。 － 2 回視聴する － 1 回目はただ見るだけ（メモ等不要） － 2 回目は付箋に書き出しながら視聴 ・用語説明をお願いします（保育園、病児保育） 【視聴①】 ・メモを取らず、ママの苦労、気持ち、困りごとなどを感じながらじっくり視聴してくださいと伝えた上で、映像を流してください。 ・学生は、各人の経験等に照らして、それぞれ異なる場面が印象に残ります。これによって後のワークに広がりが出ます。 【視聴②】 ・次に、気になるママの発言・行動・態度を付箋に書き出しながら視聴してくださいとお伝えください。 ・付箋を各自 10 枚ほど取るように指示いただいた上で、映像を流してください。 ・情報収集の演習ではありませんので、抜け漏れなくふせんに書き出すように等の指示は不要です。 ・各学生が気になった点を 5 点程度出せば十分です。 ・視聴が終わったら、グループワーク用ワークシートの『事実』欄に付箋を貼るようにご指示ください。その際、同じ内容の付箋は重ねるようにご指示ください。 【演習】 ・『事実』に付箋を貼り終わりましたら、『感想・意見・気づき』『お困りごと』欄に解釈と仮説をふせんに書き出すようにご指示ください。 ・事実：お弁当を作らなきゃ 解釈：お弁当作りの負担大きい 仮説：ママは時間がない などの例をあげてご説明ください。 ・演習中は机間指導ください。 ・手が止まっているグループには、適宜ヒントや例を示し、ワークを支援ください。 【発表】 ・発表時間が限られていますので、発表は（出来のよい）2 グループ程度でよろしいかと思います。 ・2-3 名に演習を通じて気づいた点などを尋ねてく

		ださい。 【ケーススタディの振り返り】 ・ ケーススタディ（演習）を通じて、世の中を問題意識をもって見るとはどういうことかを少しでも実感できたら、本日のプログラムは成功だとお伝えください。 ・ 大学進学 of 1 つの意味は、世の中を見る目（専門性）を養うことであるとお伝えください。
10 分	5. 主体的学習者診断テスト（ポスト調査） ※要回収	・ プレ調査と同内容の診断テストに回答するようご指示ください。 ・ 回答後、回収してください。
10 分	6. まとめ	・ 2 日間のプログラムを振り返り、以下の点などを踏まえて学生にエールを送ってください。 － 問題意識＝自らの視点を持つことが主体的学習者になるための起点, 出発点 － 問題意識は日常の中で育まれる － 主体的学習を積み重ね、みんなが自ら考え行動できる人（問題解決者）になってくれることを社会は期待している
	7. 参考図書の紹介	・ さらに学びを深めるために、参考図書を読むことをお勧めください。
	8. 振り返りシートの記入 ※要回収	・ 振り返りシートの記入時間をできるだけ長く確保することが、本プログラムの効果を高めることにつながります。 ・ 振り返りシートを回収ください。



産業能率大学

主体的学習者 育成プログラム

- 問題解決編 -



本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育関係者育成プログラム（AP）」
（平成28年度選定）における最先端授業の一環で開発しました。

前回の振り返り

【授業進行上のポイント】

- 今回実施するプログラムは、「問題発見編」と「問題解決編」の2つでセットになっていること、また、高校での探究学習を進めるうえで基本となる要素が詰まっているプログラムだということを最初に伝えてください。

【グループ分け】

- このプログラムは全てグループワーク形式で実施します。
- 原則として前回と同じグループで実施してください。

【配布資料】

- 「主体的学習者育成プログラム－問題解決編－生徒用テキスト」

【授業進行上のポイント】

- 「主体的学習者育成プログラム－問題解決編－生徒用テキスト」を配布してください。
- 前回実施した「主体的学習者育成プログラム－問題発見編」の振り返りから始めます。
- 最初に何人かの生徒を指名して、前回のプログラムでどのようなことを行ったかを尋ねるなどしながら、振り返りを行ってください。
- 前回同様、和やかな雰囲気を出すためにも生徒の発言を引き出しながら進めてください。
- 但し、ここで時間を使いすぎると後半のグループワークの時間が足りなくなりますのでご注意ください。

【説明例】

- 今日は、「問題解決編」のプログラムを実施しますが、最初に前回の振り返りをしてから進めましょう。
- 前回、どのような内容のことを実施したか、覚えていますか？○○さんいかがですか？

はじめに・・・

Question

いま社会が求めている人材とは？

いま社会が求めている人材

【入社時に求められる資質】

- ・ 自ら考え行動することができる
- ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている
- ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い

➡

【キーワード】

- ① 主体性
- ② 協働力
- ③ やり抜く力

※労働政策研究・研修機構(2017)「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

50

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

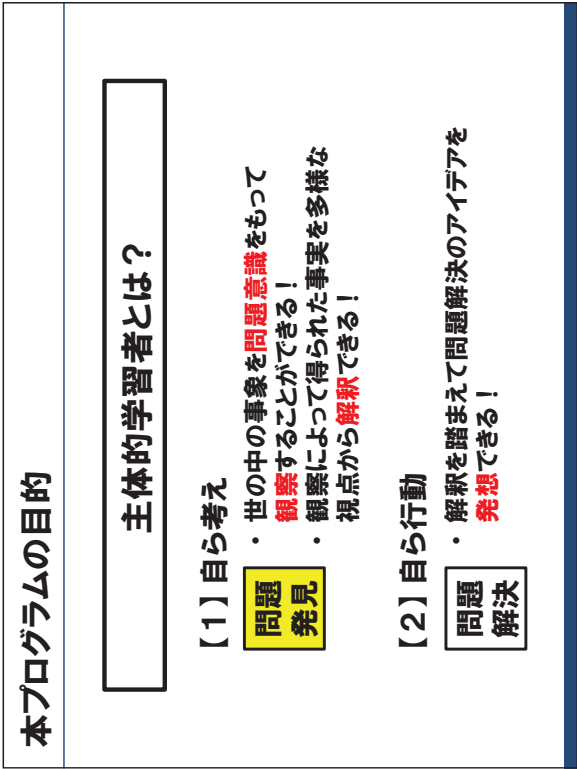
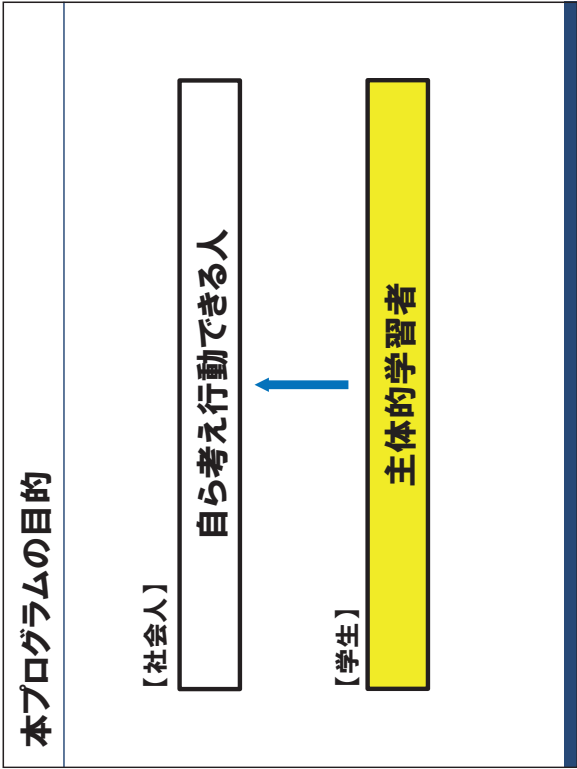
- 前回、冒頭で「いま社会でどのような人材が求められているのか」について確認しました。

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

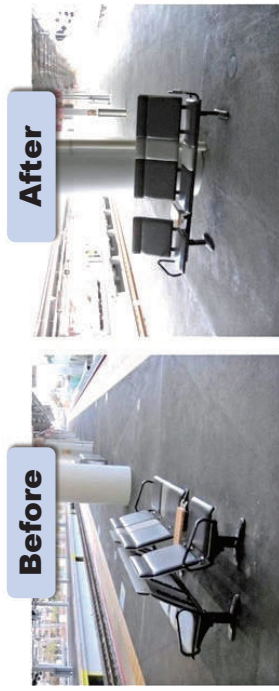
- 前回、企業を対象とした調査結果から、企業は入社時に、
 - 自ら考え行動することができる
 - 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている
 - 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い
 といった資質を求めていることを説明しました。
- こうした資質をキーワードで示したものが、①主体性②協働力③やり抜く力でした。



ウォーミングアップクイズ

【問1】

JR西日本では、駅ホーム上の「ベンチの向き」を変えました。なぜでしょう？



出典： <https://www.westjr.co.jp/safety/action/measure/>

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- 前回、冒頭で、クイズをしました。
- このクイズ、覚えていますか？

ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

転落事故の原因を調べてみると、約6割は酔っ払って突然歩き出し、そのまま線路に落ちる人だった。

【施策意図】



出典： <https://www.westjr.co.jp/safety/action/measure/>

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- これは「酔っ払いの転落事故防止」を目的とした施策でしたね。
- でも、この他にも皆さんは色々な答えを発表してくれました。
- 日ごろ何気なく見ているホームのベンチも、改めて「なぜこうなっているのだろうか？」と考えてみると、色々な気づきが得られるんだよ、ということを伝えたいと思います。

課題研究に向けて

1

唯一絶対の答えはない

ウォーミングアップクイズ

【問2】

この商品の特徴は、
左右**非対称ソール**という構造です。

この構造は小学生のあ
るニーズを満たすため
に開発されました。
そのニーズとはどのような
ものでしょうか？

右足ソール

左足ソール

スバイク位置

ユーザーが右足にスバイク
の位置にスバイクを
着けることで、より効率的
にスバイクの位置を把握

スバイク形状

形状は、バリエーションに
応じて、形状、サイズ、
スバイクの形状を
変更することで、より
効率的にスバイクを

出典：http://www.symask.jp/about/functions.html

53

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- として探究活動を進めるときには、「唯一絶対の答えはない」という意識をもち、世の中の出来事について「なぜこうなっているんだろう？」と様々な角度から考えていくことが大事なのだとということを伝えました。

ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

都市部の小学校の校庭は狭いため、運動会の徒競走は、直線コースではなく、コーナーを走る。すると、子供たちは、コーナーでバランスを崩し、転倒していた。



【施策意図】

子供たちがコーナーも格好良く、最後まで力いっぱい走れるように

出典： <http://www.gymnastu.jp/about/whet/>

課題研究に向けて

1

唯一絶対の答えはない

2

常識、前例に縛られない

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- この靴は「子供たちの転倒防止」を目的に作られたものでした。
- 日ごろ何気なく使っている運動靴のような日用品も、改めて「なぜこうなっているのだろうか？」と考えてみると、色々な気づきが得られるという話をしたいと思います。

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- このメーカーさんがすごいのは、左右対称が普通である運動靴のソールを、左右非対称にしたということでしたね。
- このメーカーさんのように、新しいことを発想するためには、これまでの常識や当たり前を一度疑ってみることも大切だという話をしました。
- これは、探究活動を進めていく上でも大事な姿勢です。

ウォーミングアップクイズ

【問3】

ある医療機器メーカーが、検査装置(MRI)をペイントしました。なぜでしょう？

Before

After




出典: http://www3.gehealthcare.co.jp/ai/products_and_service/mr/magnetic_resonance_imaging
出典: <https://www.gehealthcare.com/products/series-and-supplies/adventure-series-for-mr>

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- このクイズは覚えていきますか？

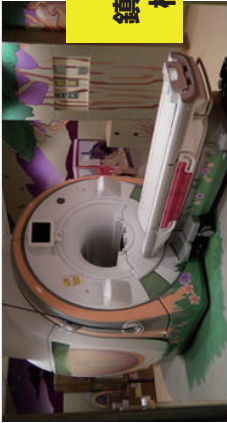
ウォーミングアップクイズ

【課題発見】

子供たちは、大きな音がする検査装置が苦手。恐怖心を和らげるために鎮静剤注射が用いられていた。

【施策意図】

恐怖心の緩和
鎮痛剤注射率の低減
検査の円滑な実施



冒険の場所

出典: <https://www.gehealthcare.com/products/series-and-supplies/adventure-series-for-mr>

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- これは、「子供たちの検査に対する恐怖心を緩和する」といったことを目的とした施策でしたね。
- メーカーさんが子供たちの検査の様子を観て、「子供たちの恐怖心を緩和するにはどうしたらよいか」考え、生まれた商品でした。

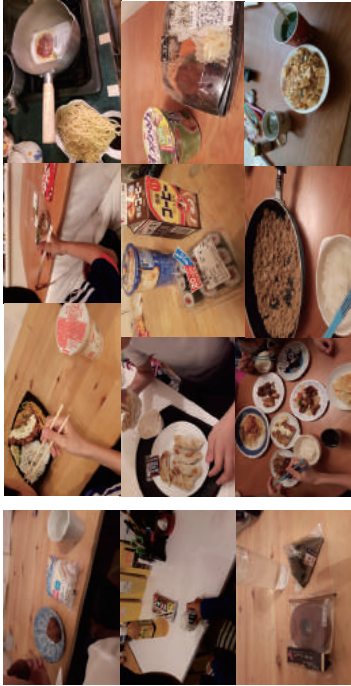
課題研究に向けて	
1	唯一絶対の答えはない
2	常識、前例に縛られない
3	自分にもできる!

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- MRIをペイントするだけで問題が解決するというアイデアは面白い、「自分たちでも実現できそう」なアイデアですね。
- 皆さんがこれから行う探究活動も、あまり難しく考えずに、「自分たちでもできる」という感覚をもって進めることが大切だ、という話を前回したと思います。

問題発見ケーススタディ	
状況写真を見て??と思ったところに○をつけ、気づいた点、問題だと思った点、疑問に思った点などを付箋に書き出してください。	
	

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- クイズの後、前回、ある家族の朝食と夕食の写真から、問題を見つけたというグループワークを行いました。

問題発見ケーススタディ	
【演習の進め方】 - みなさんは、以下の3つの分野のいずれかの専門家です。 A. 栄養学 B. 環境学 C. 教育学 専門家の視点から もう一度設定状況の文章と写真をみて 気づいた点、問題だと思った点、疑問に 思った点などを付箋に書き出してください。	

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- そして2回目のグループワークのときに、皆さんには「栄養学」「環境学」「教育学」の3つの専門家になってもいい、その立場、視点から改めて問題を考えてもらいました。

演習の振り返り	
専門家として写真を見る体験 ↓ 専門家 ＝特定の問題意識を持つ人 ↓ 問題意識を持って観察するからこそ はじめて見えてくるものがある ↓ もっと知りたい、もっと分かりたい 探究心が芽生える ↓ 主体的学習者	

【授業進行上のポイント】

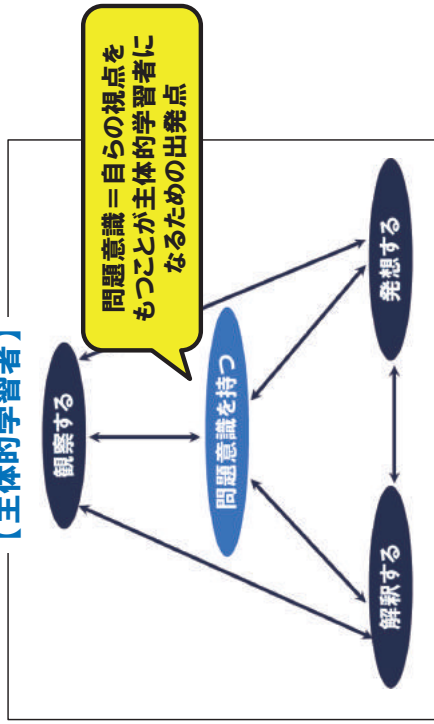
- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

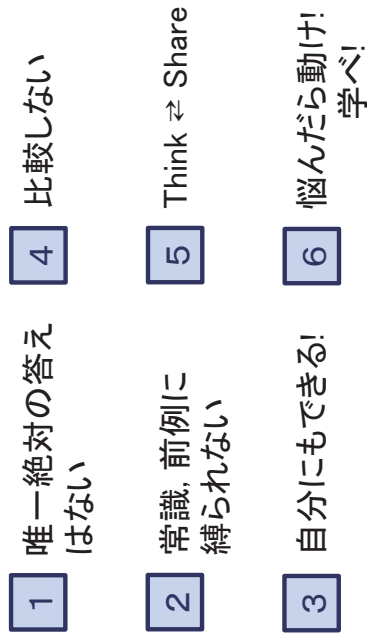
- 専門家とは、何らかの問題意識＝自分なりの視点を持っている人でした。
- ただ漠然と観察するのではなく、こうした問題意識をもって事象を観察することで様々な気づきが得られ、さらに「もっと知りたい」、「調べたい」という「探究心」が芽生えるんだという話をしました。

前回のまとめ

【主体的學習者】



課題研究に向けて



【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- 前回のプログラムの最後に、皆さんが今後「主体的学習者」になっていくためには、問題意識をもつ＝自分なりの視点をもつことが大切だという話をしました。

【授業進行上のポイント】

- 探究活動に向けて大切なポイントを解説する。

【説明例】

- 皆さんが課題探究を進める際、重要なポイントはこの6つです。1～3はすでに話しましたが、これに加え、4～6の視点も大事にしてください。
- 探究活動は唯一の答えがありませんので、他のグループと「比較」をせず、「自分達 は・・・と考える」という姿勢を大切にしてください。(4. 比較しない)
- また、様々な考えを取り入れていくほうが、より良い考えにたどり着くことができますので、積極的に他のグループの考えも共有し、その考えも踏まながら自グループの考えをブラッシュアップしていきましょう。(5. Think⇔Share)
- そして、探究活動を進める中で、分からないことが出てきて悩んだら、人（専門家）に積極的に聞きに行く姿勢も大切にしてください。(6. 悩んだら動け！学べ！)

	授業外課題 (1) 前回の振り返り - 気づき, 思ったこと - 課題研究について (2) 身近な日常を問題意識をもって 観察する

【授業進行上のポイント】

- 前回のプログラムで提示した宿題をいくつか取り上げて教室内で簡単な情報共有してください。
- グループ共有の後、任意の生徒に発表させ、教員よりコメントを行ってください。
- 正解・不正解はありません。生徒がどのような事実をどのように解釈し、どのような気づきを得たかを確認してください。

【説明例】

- 前回のプログラムの最後に「問題意識をもって身近な日常を観察し、気になる事実を3つ、写真に撮影し、その写真からどのようなことに気づいたかをメモしておく」という宿題を出しましたが、取り組んできましたか？
- 各自どのような事実を集めてきたか、そこから、どのようなことに気づいたか、グループの中で共有してみよう。

	本日のプログラム

【説明例】

- それでは本日のプログラムに入りましょう。

本日のプログラム

主体的学習者

【1】自ら考え

問題発見

- 世の中の事象を問題意識をもって観察することができる！
- 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈できる！

【2】自ら行動

問題解決

- 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを**発想**できるようになる！

本日のプログラム

【主体的学習者】

前回

観察する

問題意識を持つ

解釈する

発想する

今回

【授業進行上のポイント】

- 今回の中心は「問題解決」であることを伝えてください。

【説明例】

- それでは本日のプログラムに入りましょう。今日は、「問題解決」を中心にっていきます。
- 前回は、ある家族の朝食・夕食の写真を見て、そこから様々なことを解釈し、問題を発見するところまででしたが、今日は、解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できるようなところまでを目指します。

【授業進行上のポイント】

- 今回の中心は「解釈する」→「発想する」であることを伝えてください。

【説明例】

- 主体的学習者は、問題意識をもって事象を観察し、観察した事象を様々な視点から解釈して問題を見つけ、その問題を解決するためのアイデアを発想します。
- 今日は、特に、「解釈」から「発想」の部分を中心に行っていきます。

本日のプログラム			
【主体的学習者育成プログラム - 問題解決編 - 】			
時間	項目	概要	
10分	前回の振り返り	いま社会が求めている人材とは？ プログラム紹介	
10分	ウォーミングアップ クイズ	社会課題を解決したソーシャルデザイン に関するクイズ	
60分	問題解決 ケーススタディ	ケーススタディ「ワーキングマザー」	
10分	診断テスト	主体的学習者診断テスト	
10分	本日のまとめ	全体振り返り 参考図書紹介, 振り返りシート記入	

【授業進行上のポイント】

- 本日実施している「問題解決編」プログラムの構成です。
- 最も重要なワークは、問題解決ケーススタディ「ワーキングマザー」にあることを伝えてください。

【説明例】

- 「主体的学習者」に求められる「問題発見」（世の中の事象を問題意識をもって観察し問題を見つける）と「問題解決」（発見した問題の解決策を考える）のうち、今回は、「問題解決」について学んでいきます。
- このプログラムの流れに沿って学習を進めていきます。
- 特に「ワーキングマザー」というケーススタディで「問題発見」から「問題解決」に至るプロセスを体験していきます。

	ウォーミングアップクイズ

【授業進行上のポイント】

- ウォーミングアップクイズは、問題解決ケーススタディ「ワーキングマザー」をよりよく進めるためのアイスブレイクとして位置づけています。
- ここでは前回同様ウォーミングアップクイズを出していますが、いずれも正解を目的としたクイズではありません。
- 生徒たちがリラックスした雰囲気の中でそれぞれ自由に意見を出し合い、交換することで多様な意見が存在することを共有するのが狙いです。そのことで生徒たちが自分とは異なる視点を持つ生徒がいることを知り、新たな気づきを得ます。多様な視点とその可視化は通常の授業では実現しにくい「アクティブラーニング」ならではの環境です。
- どんなに突拍子もない意見でも否定せず、「唯一絶対の答えはない」ことを強調し、多くの生徒が活発に意見を出せるような雰囲気を作りながら進めてください。
- 2つのウォーミングアップクイズは日常的な風景をよく観察することで人々のお困りごとを発見し、そこから解決策を発想していった実例を題材としています。前回は企業の商品開発の事例などを用いましたが、今回は社会的な問題を事例としています。

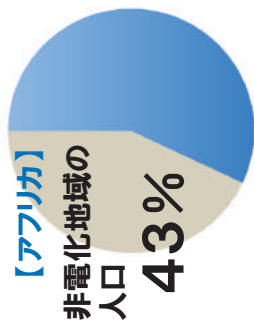
【説明例】

- これから問題解決に関するクイズを2つ出します。「唯一絶対の答え」はありませんので、自分なりに色々な角度から考え、「生徒用ハンドアウト」の空欄に自分の考えを記入してみてください。

ウォーミングアップクイズ

【問1】

途上国の子供たちを観察し、「電力がなくて満足に学習ができない」という問題を発見しました。あなたは、この問題をどう解決しますか？



地址：<https://www.kickstarter.com/projects/1unchartedtothegods/energy-harnessing-so-coor-ball>

【授業進行上のポイント】

- このクイズに唯一の正解はありませんが、風力発電や太陽光発電といった出がちな解決策には、「費用的な問題で解決には至りにくい」ことを指摘するなど生徒の思考を深めるファシリテーションが必要です。
- 発展途上国の子供たちの置かれた生活環境をよく観察することで、無理のない現実的な解決策を引き出すことが重要。
- 探究学習においても自分と事実を観察し、それをもとに自分なりの解決策を模索することが重要だと伝えてください。

【説明例】

- 最初のクイズです。途上国の子供たちを観察したところ、「電力がなくて満足に学習ができない」という問題を発見しました。あなただったら、この問題をどう解決しますか？様々な角度から考えて下さい。

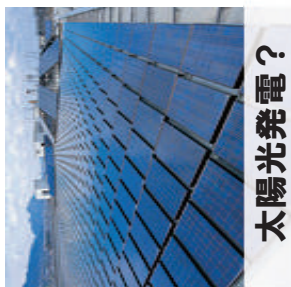
ウォーミングアップクイズ

【解決アイデア】



風力発電？

出典
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saie/ene-wab/sewind/index.htmlhttp://www.isep.or.jp/images/library/GSR2014.jp.pdf



太陽光発電？

出典 <https://jp.sharp/sunvista/feature/history/>

【授業進行上のポイント】

- 風力発電や太陽光発電といった解決策が出るかもしれませんが、費用的な問題で解決には至りにくいということを伝えてください。

【説明例】

- 皆さんの中には、風力発電や太陽光発電にすればいい、などと考える人もいるかもしれませんが、発展途上国にはそうした施設を作るだけの資金がありませんので、この解決策は現実的ではありません。ではどうしたらいいでしょうか？色々な角度から考えてみてください。

ウォーミングアップクイズ	【解決アイデア】 発電できるサッカーボール「SOCKET」 30分蹴るだけで照明を3時間灯すことができる  出典: https://www.kickstarter.com/projects/urcharterdai/socket-the-energy-harnessing-soccer-ball
---------------------	---

ウォーミングアップクイズ	【問2】 アルゼンチンの首都ブエノスアイレスでは違法な路上駐車 が大きな社会問題になっています。あなたなら、どのように 路上駐車を減らしますか？  出典: https://www.youtube.com/watch?v=hVuLIH5aNaM&feature=youtu.be&t
---------------------	---

【授業進行上のポイント】

- 何名かの生徒を指名し、生徒が考えた意見を発表させてください。
- その上で、このスライドにある解決策のアイデアを紹介してください。
- 但し、この答えを見つけないことが目的のクイズではないので、生徒の発表がこの答えと違っていたとしても、「〇〇さんが発表してくれた考えも面白いね」などと、生徒の多様な考えを否定しないように進めてください。

【説明例】

- では何人かにどんなことを考えたか聞いてみましょう。→生徒を指名
- 色々な答えが出ましたね。では、実際はどうだったのか見てみましょう。
- 実際、「電力が不足で満足に学習ができない」という発展途上国の子供たちの問題を解決するために、発電できるサッカーボール「SOCKET」というものが開発されました。
(詳細は<https://wired.jp/2013/04/25/socket/>を参照)
- これは「ボールの中に振り子のような発電装置と蓄電装置が備わっていて、ボールを蹴ると電気が蓄えられる」仕組みになっており、「蓄えられた電池はソケットから供給され、LEDライトなら30分のプレイで3時間点灯することができる」という商品です。
- この例のように、アイデアを発想するときは、従来の思考の枠を超えた柔軟な発想力が求められます。

【映像教材】

下記URLから、[映像教材 1] 路上駐車予防を投影してください。

<https://www.youtube.com/watch?v=hVuLIH5aNaM&feature=youtu.be&t>
(2019年10月23日閲覧確認)

【授業進行上のポイント】

- このクイズにも唯一の正解はありません。
- しかしながら、罰則強化や駐車場の増設など、ありがちな解決策以外の解決策を考えるようにアドバイスしながら進めてください。

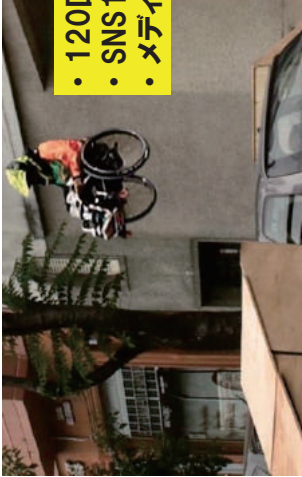
【説明例】

- では2つ目のクイズです。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスでは違法な路上駐車が大きな社会問題になっています。あなたなら、どのように路上駐車を減らしますか？
- このクイズも様々な角度から考えてみてください。

ウォーミングアップクイズ

【解決アイデア】

車椅子で路上駐車車を飛び越える動画を撮影し、拡散した。



- ・120回以上実施
- ・SNS100万以上シェア
- ・メディア掲載多数

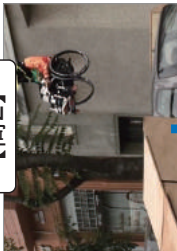
出典 <https://www.youtube.com/watch?v=VU1Ufshvdk8&feature=youtu.be>

2つの例の共通点は？

【問1】



【問2】



途上国の子供たちの行動を**観察** サッカーホールで 発電

路上駐車を**観察**する大人たち 違法駐車を飛び越える 動画制作・拡散

人々のお困りごと(問題)を**発見し** 解決案を提示した例

【授業進行上のポイント】

- 何名かの生徒を指名し、生徒が考えた意見を発表させてください。
- その上で動画を再生し、このスライドにある解決策のアイデアを紹介してください。
- なお、この動画は駐車違反をなくすことを目的に自動車教習所が作成したものです。探究学習においては、常識や前例を超えた発想を意識することが重要です。自分の発想が常識や前例に縛られていないか、生徒に再考を促すように進めてください。
- 但し、この答えを見つけることが目的のクイズではないので、生徒の発表がこの答えと違っていたとしても、「〇〇さんが発表してくれた考えも面白いね」などと、生徒の多様な考えを否定しないように進めてください。
- 動画がきちんと再生されるか、事前に確認しておいてください。

【説明例】

- では何人かにどんなことを考えたか聞いてみましょう。→生徒を指名
- 色々な答えが出ましたね。では、実際はどうだったのか見てみましょう。
→動画を再生
- この動画は駐車違反をなくすことを目的に自動車教習所が作成したものです。違法駐車があることで、ハンデイクヤップをもった人がどれほど迷惑しているか、どれほど危険な目に遭っているかを啓蒙するため、話題を呼びそうな動画が作成されました。今はSNSの時代ですので、動画は瞬く間に拡散し、多くのメディアでも取り上げられました。
- この例も先ほどと同じように、単純な啓蒙施策の枠を超えた斬新な発想がなされています。問題解決のための効果的なアイデアを発想するときは、これまでの常識や当たり前、前例を超えて発想してみることが必要です。

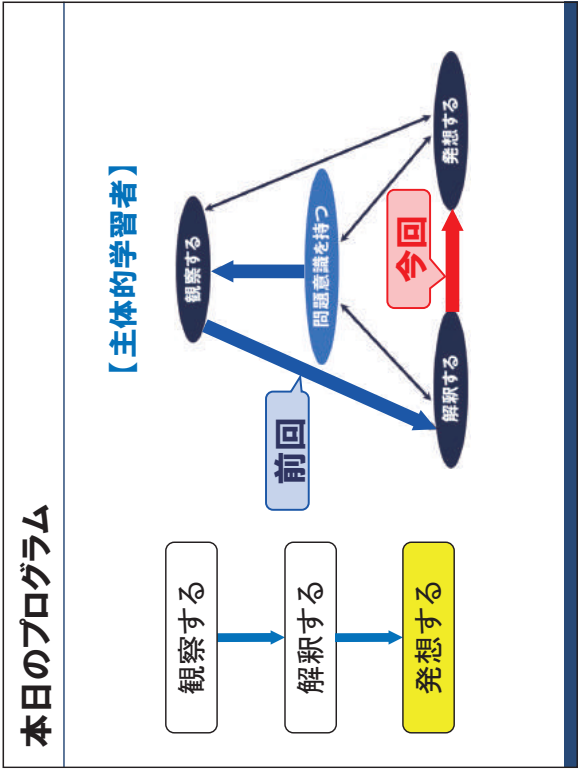
【授業進行上のポイント】

- 2つのクイズの共通点には、事象の「観察」があることを解説してください。

【説明例】

- 以上ウォーミングアップとして2つのクイズをやってきました。
- この2つの事例には、このスライドにあるように、事象を「観察」し、人々のお困りごと（問題）を発見しているという共通点があります。
- そして、常識やこれまでの枠組みを超えて、斬新な解決策を発想しているという共通点もあります。

64



問題解決 ケーススタディ

問題解決ケーススタディ

【演習の進め方】

ワーキングマザー（働くママ）の映像を
2回視聴します。

1回目	- ママの苦勞, 気持ち, 困りごとなどを 感じながら視聴してください。 - メモは不要です。
2回目	気になるママの発言・行動・態度を ふせんに書き出してください。 →のちにグループごとに模造紙に 貼って整理してもらいます。

【映像教材】

- 下記URLから、[映像教材2]ワーキングマザーを投影してください。
<https://www.youtube.com/watch?v=hCC9XWprOdM>
 (2019年10月23日閲覧確認)
- 授業進行上のポイント
 - これから今日のメインのワークであるケーススタディを行うことを伝えて下さい。
 - ウォーミングアップクイズを含め、ここまで学習してきたことを意識しながら進めるように伝えてください。
 - このケーススタディは以下の内容で進めます。

- ① 動画を視聴 1回目 →ただ見るのみ
- ② 動画を視聴 2回目 →付箋にメモを取りながら見る
- ③ 付箋と模造紙を用いたグループワーク（観察→解釈→仮説→感想）
- ④ グループワークの発表 →活発なグループを2〜3選り発表させる
- 映像を視聴する前にこれから行うグループワークの流れを説明してください。
- 動画を視聴する前に模造紙、付箋、ペンを配布してください。

【説明例】

- これから事実の観察と解釈を通して問題を発見し、その解決策を発想するケーススタディを行います。
- ここまで学習してきたことを意識しながらケーススタディに取り組んで下さい。

【配布資料】

- 模造紙、付箋、ペン

【授業進行上のポイント】

- 今回のケーススタディは映像を視聴することを伝えてください。
- 視聴する映像は「ワーキングマザー」を題材としたものであることを伝えてください
- もし「ワーキングマザー」という言葉を知らない生徒がいる場合は、簡単な解説をしてください。
- 映像は2回視聴すること、各回で生徒が行うことを伝えてください。
- 付箋には、ママの発言や行動、態度など「事実」を記載すること。付箋には自分の感想や意見は書かないようにすることを伝えてください。

【説明例】

- 今回のケーススタディでは、まずワーキングマザー（子育てをしながら働くお母さん）を題材とした映像を視聴します。
- 映像は2回視聴します。3分ほどの映像です。
- 最初は特にメモなどしらず、ママの苦勞, 気持ち, 困りごとなどを感じながら視聴してください。
- 2回目は、映像を見ながら、自分が気になったママの発言や行動、態度を付箋に書き出して下さい。
- このとき、1つの発言・行動は1つの付箋に記述するようにしてください。（1枚の付箋にたくさんさんの情報を記述しない）
- また、あくまでもママの発言や行動、態度など「事実」を記載し、付箋には自分の感想や意見は書かないようにしてください。

問題解決ケーススタディ		
【演習の進め方】		
ワーキングマザーの 発言・行動・態度で 気になった点	ワーキングマザーの 発言・行動・態度に 関する 感想・意見・気づき	ワーキングマザーの お困りごと (抱える問題)
事実 お弁当作らなきゃ... おばあちゃん遠いし.. 抱っこ	解釈	仮説

【授業進行上のポイント】

- 映像を2回視聴後、配布された模造紙の「気になった点」に書き出した付箋を貼っていくことを伝えてください。

【説明例】

- 映像を視聴しながら書いた付箋は、配布した模造紙の「ワーキングマザーの発言・行動・態度で気になった点」（事実の欄）に貼付していきます。
- そして、グループメンバーと議論しながら、皆さんが貼付した付箋に対する様々な感想・意見・気づきを「解釈」の欄に記入していきます。
- そして、皆さんが考えた「解釈」を踏まえ、ワーキングマザーのお困りごと（抱える問題）を仮説としてまとめていきます。
- 演習はこのような流れで進めていきます。

問題解決ケーススタディ		
【用語解説】		
保育園	病児保育	
・ 朝8時～夜6時まで子どもを預かる ・ 夜7時までは延長可 ・ 給食あり ・ 体調不良の場合は通園不可,呼び出しあり	・ 体調不良の子どもを預かる ・ 数少ない, 予約制 ・ 給食なし, お弁当必要	

【授業進行上のポイント】

- 映像を視聴する前に、動画に出てくる用語、保育園、病児保育について説明してください。

【説明例】

- 映像ではいくつか専門的な用語が出てきます。
- 保育園は朝8時～夜6時まで子どもを預かってくれ、夜7時までは延長が可能です。しかし、子供が体調不良の場合は通園ができず、仕事をしている途中で親が呼び出しを受けすることもあります。
- また体調不良の子どもを預かる仕組みを病児保育といいますが、数は少なく、予約制です。

問題解決ケーススタディ

【映像視聴】

1回目

・ ママの苦勞、気持ち、困りごとなどを
感じながら視聴してください。
 ・ メモは不要です。

出所: <https://www.youtube.com/watch?v=dlnz7fKQ3ow>

問題解決ケーススタディ

【映像視聴】

2回目

・ 気になるママの発言・行動・態度を
付箋に書き出してください。

出所: <https://www.youtube.com/watch?v=dU7fKQ3ow>

お弁当作らなきゃ...

いつから私がお迎え担当になったの？

明日は重要な会議があるから休めない...

もう病院しまってるから明日の朝だな...

【授業進行上のポイント】

- まず1回目の映像を視聴します。
- 1回目は、ただ見るだけではなく、生徒の脳裏には自分の過去の過去の経験等に照らし合わせながら様々な光景が浮かんでいることと思います。このぼんやりとした印象、自分も同じ経験をしてきたにもかかわらず母の立場に立って考えてこなかったことへの気づきが後のグループワークに広がりをもたらします。

【説明例】

- ではケーススタディをはじめていきましょう。
- 最初は、動画をただ見るだけでOKです。メモ等も不要です。とにかく動画に集中して視聴してください。

【授業進行上のポイント】

- 次に2回目の映像を視聴します。
- 今度は付箋にメモを取りながら視聴します。
- 一人あたり5枚程度の付箋は書き出すように伝えてください。

【説明例】

- 2回目は、映像を見ながら、自分が気になったママの発言や行動、態度を付箋に書き出してください。
- 1つの発言・行動は1つの付箋に記述するようにしてください。
- あくまでもママの発言や行動、態度など「事実」を記載し、付箋には自分の感想や意見は書かないようにしてください。

問題解決ケーススタディ

【事実の共有】

ワーキングマザーの 発言・行動・態度で 気になった点	ワーキングマザーの 発言・行動・態度に 関する 感想・意見・気づき	ワーキングマザーの お困りこと (抱える問題)
事実	解釈	仮説
お弁当作らなきゃ... おばあちゃん遠いし.. 病院はもうしまってる...	●グループで、各自が書いたふせんを共有し、「事実」の欄に貼付します。 ●似たような事実は重ねてください。	

【授業進行上のポイント】

- 各自が書き出した付箋をグループ内で共有し、模造紙の「ワーキングマザーの発言・行動・態度で気になった点」（事実の欄）に貼付します。

【説明例】

- 各自、付箋に、「ワーキングマザーの発言・行動・態度で気になった点」を書き出したと思います。
- それをグループで共有し、「事実」の欄に貼付してください。なお、似たような事実は重ねてください。

問題解決ケーススタディ

【事実に対する解釈の検討】

ワーキングマザーの 発言・行動・態度で 気になった点	ワーキングマザーの 発言・行動・態度に 関する 感想・意見・気づき	ワーキングマザーの お困りこと (抱える問題)
事実	解釈	仮説
お弁当作らなきゃ... おばあちゃん遠いし.. 抱っこ	お弁当作りの負担大きい おばあちゃんの支障難しい 大きくなると抱っこ大変	

【授業進行上のポイント】

- 次に、貼付した事実に対して、自分たちはどんな感想や意見をもったか、どのようなことに気づいたかをグループ内で話し合われます。

【説明例】

- 次に、先ほど貼付した「事実」に対して、皆さんがどんな感想や意見をもったか、どのようなことに気づいたかをグループで話し合い、話し合ったことを付箋に書き出し、「解釈」の欄に記述してください。

問題解決ケーススタディ		
【仮説づくり】		
ワーキングマザーの 発言・行動・態度で 気になった点	ワーキングマザーの 発言・行動・態度に 関する 感想・意見・気づき	ワーキングマザーの お困りこと (抱える問題)
事実	解釈	仮説
お弁当作らなきゃ... おばあちゃん遠いし.. 抱っこ	お弁当作りの負担大きい おばあちゃんの交際難しい 大きくなると抱っこ大変	時間がないのではないか？ 助けてくれる人がいないのではないか？ ご主人のサポートが得られないのではないか？

【授業進行上のポイント】

- 次に、「解釈」を踏まえ、「ワーキングマザーのお困りごと」について考えられる仮説を設定させてください。

【説明例】

- 次に、先ほどグループで話し合ってた解釈を踏まえ、「ワーキングマザーのお困りごと」にはどのようなものがあるかを考え、いくつか仮説を設定してみましょう。

仮説の例
「ご主人のサポートがないのではないか？」 「自分の時間が欲しいのではないか？」 「頑張っている自分を慰めて欲しいのではないか？」 「働くことと育児を両立できるか不安なのではないか？」 など 「～なのではないか？」と書きましょう

【授業進行上のポイント】

- 仮説の書き方を解説してください。

【説明例】

- なお、仮説はこのスライドにあるように、「～なのではないか？」という形で書きましょう。

問題解決ケーススタディ

【解決策の立案(アイデア発想)】

ワーキングマザーの 発言・行動・態度で 気になった点	ワーキングマザーの 発言・行動・態度に 関する 感想・意見・気づき	ワーキングマザーの お困りごと (抱える問題)
事実 お弁当作らなきや... おはあちゃん還いし... 抱っこ	解釈 お弁当作りの負担大きい おはあちゃんの交際難しい 大きくなると抱っこ大変	仮説 時間がないのではないか？ 助けてくれる人がいないのではないのか？ ご主人のサポートが得られないのではないか？

ワーキングマザーが抱える問題のうち、重要だと思ふ仮説を取り上げ、その解決策を考えてください。(複数OK)

- 【授業進行上のポイント】
- いくつか設定した仮説の中から、1つ重要な仮説（ワーキングマザーのお困りごと）を選ばせ、その問題を解決するアイデアを考えさせてください。
 - この際、ありきたりな解決策にとどめず、ウォーミングアップクイズで紹介したように、柔軟な発想で考えるよう促してください。
- 【説明例】
- いくつか「ワーキングマザーのお困りごと」に関する仮説ができたと思います。
 - 皆さんが考えたワーキングマザーが抱える問題＝仮説のうち、特に重要だと思ふ仮説を取り上げ、その解決策を考えていきましょう。
 - ありきたりな解決策にとどめず、柔軟な発想で考えるようにしてください。

発表

- 【授業進行上のポイント】
- 各グループでどのようなワーキングマザーのお困りごと＝仮説に対して、どのような解決策を考えただかを発表させてください。
 - 全グループの発表が難しければ、2グループ程度の発表でもよいかと思います。
 - 唯一の正解はありませんので、各グループが考えたアイデアに対して、批判せず、肯定的なフィードバックをしてあげてください。
- 【説明例】
- それではいくつかのグループに発表してもらいましょう。
 - どのようなワーキングマザーのお困りごと＝仮説に対して、どのような解決策を考えただかを発表してください。

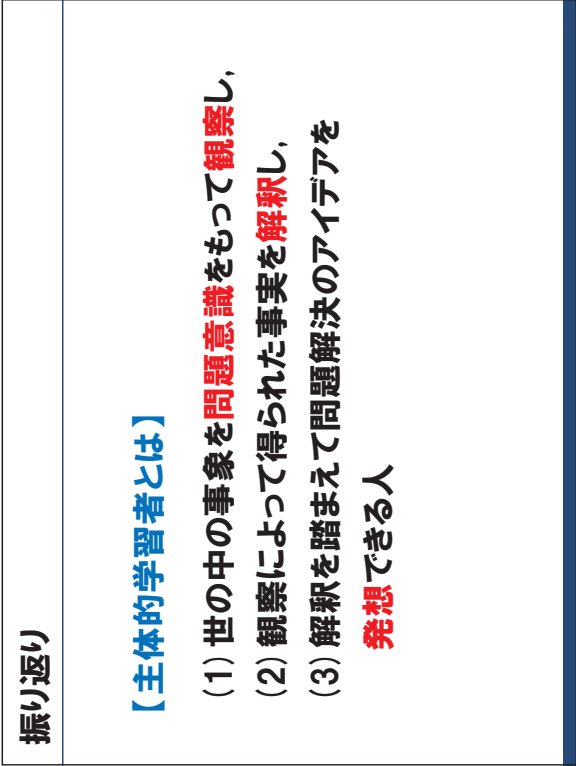
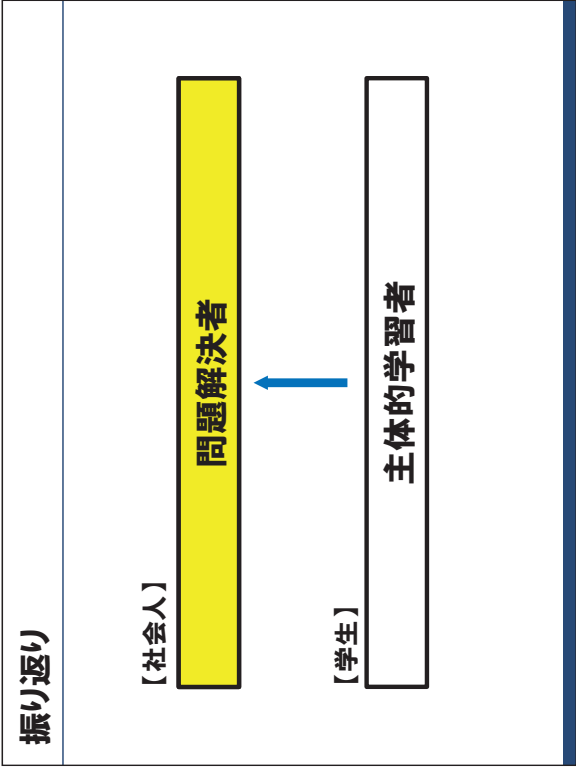
演習を通して
気づいたこと, 感じたこと

振り返り

専門家として写真を見る体験
↓
専門家
＝特定の問題意識を持つ人
問題意識を持って観察するからこそ
はじめて見えてくるものがある
↓
もっと知りたい, もっと分かりたい
探究心が芽生える
↓
問題解決者

- 【授業進行上のポイント】
- 今回の演習を通してどのようなことに気づいたか、どのようなことを感じたか、何人かの生徒にコメントさせてください。
- 【説明例】
- 今回の演習を通してどのようなことに気づきましたか？どのようなことを感じましたか？○○さんいかがですか？

- 【授業進行上のポイント】
- ケーススタディのまとめを行ってください。
- 【説明例】
- 今日の演習では、ワーキングマザーの日常を観察し、様々な感想や意見を共有しながら、ワーキングマザーの問題について仮説を立て、その問題を解決するためのアイデアを考えました。
 - 前回のプログラムでも話したように、問題意識をもって現象を観察するからこそ、解決すべき問題が何なのかが見えてきます。
 - 問題が見えたら、それを解決するアイデアを考え、主体的に実行していきます。
 - こうした人材を「問題解決者」といいます。



【授業進行上のポイント】

- ケーススタディのまとめを行ってください。

【説明例】

- 大学では、何らかの専門領域についての知識を学んでいきます。学生時代は、大学での学習を通して専門的な視点を養い、その視点から世の中を見つめることで、主体的に問題を発見していく力をつけていきます。（＝主体的学習者になる）
- そして社会に出たとき、今度は、様々な組織で、仕事を通して、そうした問題を解決するための取り組みを行っていきます。（＝問題解決者になる）
- つまり社会に出たとき、世の中の問題を解決できる人になるためには、学生のうちに、「主体的学習者」になっておくことが求められるのです。

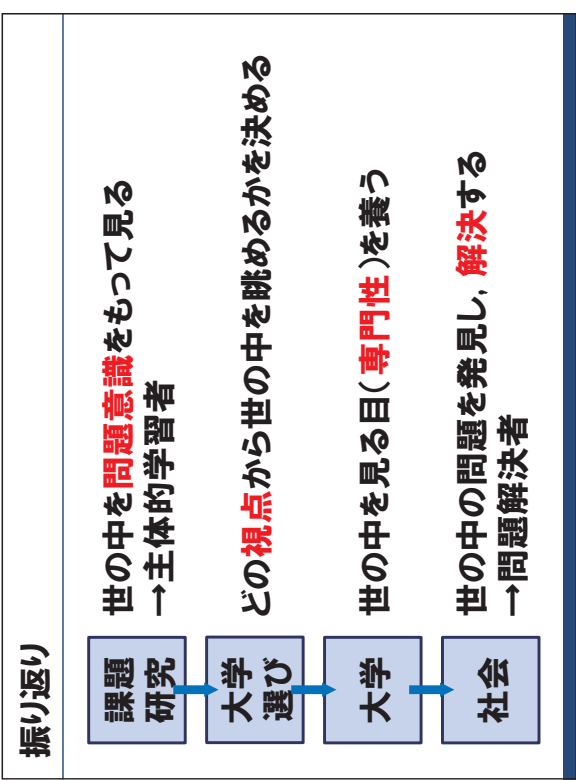
【説明例】

- 改めて2回のプログラムで学んできた「主体的学習者」の定義を確認しておきましょう。
- この定義のように、世の中の事象を**問題意識**をもって**観察**し、**観察**によって得られた気づきを**解釈**し、**解釈**を踏まえて**問題解決のアイデア**を**発想**できる人が「主体的学習者」でした。
- これからの社会で求められる、活躍する人材になるためには、学生のうちにこうした人材（＝主体的学習者）になれるよう努力しておくことが必要です。

振り返り
【問題解決者とは】 (1) 世の中の事象を問題意識をもって観察し、 (2) 観察によって得られた事実を解釈し、 (3) 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを 発想し、解決できる人

【説明例】

- そして、社会に出てからは、問題解決のアイデアを発想するだけではなく、それぞれの仕事領域で、具体的に解決策を実行し、成果を出すことが求められます。

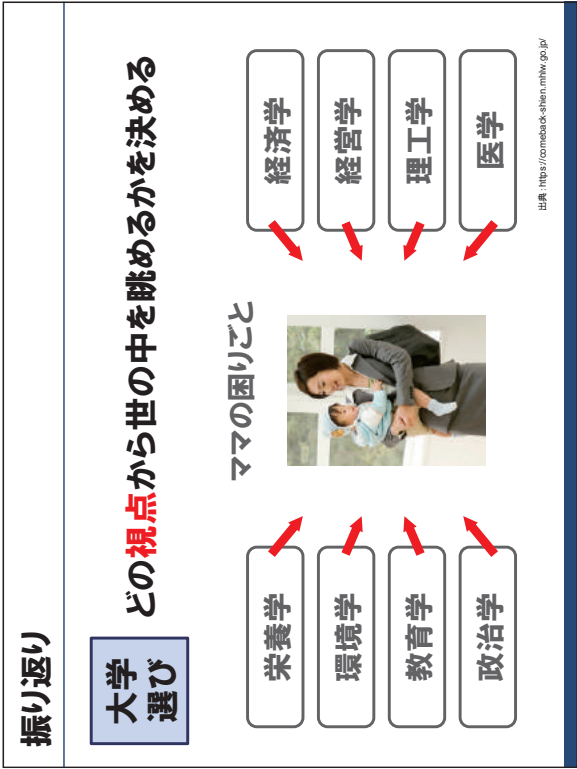


【授業進行上のポイント】

- 探究活動の意味、課題探究が大学選びや社会での活躍にどうつながっているかを解説してください。

【説明例】

- 皆さんはこれから探究活動を行います。探究活動は「世の中を問題意識をもって見る」ための練習です。
- 高校時代にこの探究活動が続けることで、「主体的学習者」(＝世の中の事象を問題意識をもって観察し、観察によって得られた気づきを解釈し、解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる人)になっていくことができます。
- 高校時代に「世の中を問題意識をもって見る」ことができるようになれば、自分は大学でどの視点から世の中を見つめたいのか、「視点」がはつきりしてきます。
- そして大学に入ったら、自分が世の中を見る視点＝専門性を深めていきます。
- そして社会に出てから、大学で身につけた自分の専門性を生かして、世の中の問題を解決するアイデアを考え、実際に実行していきます。
- このように高校での探究活動は、大学での専門的な学習や、社会での仕事にもつながっていくものです。将来の自分の活躍可能性を広げるものだと考え、積極的に取り組んで下さい。

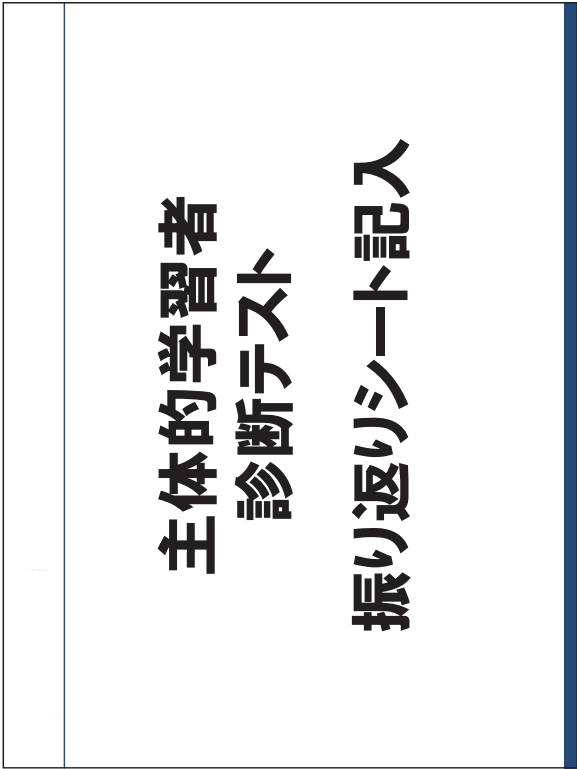


【授業進行上のポイント】

- 探究活動の意味、課題探究が大学選びや社会での活躍にどうつながっているかを解説してください。

【説明例】

- 大学には様々な学部があり、様々な専門領域が学べます。
- 皆さんはどの視点から、世の中の問題を見つめ、解決していきたいですか？
- 大学に進学する意味のひとつは世の中を見る目をつけること。それがすなわち専門性であり、延いては学部の選択にも通じることなのです。
- 今回のプログラムを通じて、少しでも問題意識をもって観察することの意義が実感できたら幸いです。



【授業進行上のポイント】

- 最後に「主体的学習者診断テスト」と「振り返りシート」を配布して下さい。
- 「振り返りシート」を記入する時間はできるだけ長く確保してください。本プログラムの効果を高める点でも重要です。

【説明例】

- 最後に、2回のプログラムを通して、皆さんの意識がどの程度変化したかを確認するため、前回実施した自己診断テストをもう一度実施します。
- あまり深く考えずに、感覚的に回答してください。
- 自己診断テストへの回答が終わったら、「振り返りシート」を記入して下さい。

【配布資料】

- 「主体的学習者診断テスト」
- 「振り返りシート」

	本日のまとめ

参考図書	● 寛 裕 介 著『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』英知出版,2013年 ● グリーンズ編『ソーシャルデザイナー 社会をつくるグッドアイデア集』朝日出版社,2012年 ● 電通ソーシャル・デザイン・エンジン監修・ソーシャルデザイン会議実行委員会編著『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』宣伝会議,2013年
------	---

【授業進行上のポイント】

- 今回のプログラムの学びをさらに深めるために有用な参考図書を紹介してください。

【説明例】

- 今日の授業の内容についてもっと深く学びたいと思った人は、この参考図書を読んでみてください。
- お疲れさまでした。

3-2-3 教材

(1) テキスト&ワークシート

主体的学習者育成プログラム - 問題解決編 -			
学年・組		氏 名	

1. 前回の振り返り

【入社時に求められる資質】

- ①自ら考え行動することができる
- ②仕事におけるコミュニケーション能力にたけている
- ③失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い

【キーワード】

- ①主体性
- ②協働力
- ③やり抜く力

【学生】主体的学習者になる → 【社会】自ら考え行動できる人になる

【主体的学習者とは？】

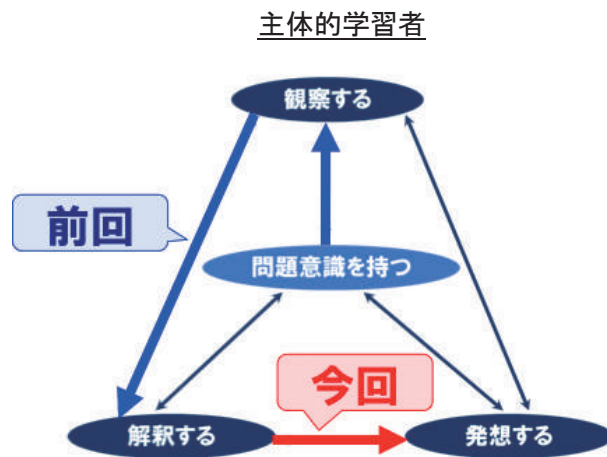
- (1) 自ら考え
 - ・ 世の中の事象を、問題意識をもって観察することができる
 - ・ 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈できる
- (2) 自ら行動
 - ・ 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できる

【3つの例の共通点は？】

- ・ ホーム上の酔っ払いの行動を観察
- ・ コーナーで転倒する子供たちを観察
- ・ MRI 検査を嫌がる子供たちの様子を観察
- 何気ない日常風景の中に人々のお困りごと（問題）を発見した例
- ・ 専門家＝特定の問題意識を持つ人
- ・ 問題意識を持って観察するからこそ、はじめて見えてくるものがある
- もっと知りたい、もっと分かりたい。探究心が芽生える
- 主体的学習者へ

【本日のプログラム】

- (1) 観察する
- (2) 解釈する
- (3) 発想する



時間	項目	概要
10分	前回の振り返り	いま社会が求めている人材は？ プログラム紹介
10分	ウォーミングアップ クイズ	社会課題を解決したソーシャルデザイン に関するクイズ
60分	問題解決 ケーススタディ	ケーススタディ「ワーキングマザー」
10分	診断テスト	主体的学習者診断テスト 振り返りシート
10分	本日のまとめ	全体振り返り 参考図書の紹介, 振り返りシート記入

2. ウォーミングアップクイズ

【問1】途上国の子供たちを観察し、「電力がなく満足に学習ができない」という問題を発見しました。あなたは、この問題をどう解決しますか？

(解答メモ)

【問2】あなたが旅行でアルゼンチンの首都ブエノスアイレスを訪れた際、違法な路上駐車の数に驚きました。あなたなら、どうやってこの路上駐車を減らしますか？

(解答メモ)

3. 問題解決ケーススタディ

【演習の進め方】

ワーキングマザー（働くママ）の映像を2回視聴します。

1回目：ママの苦勞，気持ち，困りごとなどを感じながら視聴してください。

メモは不要です。

2回目：気になるママの発言・行動・態度を付箋に書き出してください。

→のちにグループごとに模造紙に貼って整理してもらいます。

【用語解説】

保育園：朝8時～夜6時まで子どもを預かる。夜7時まで延長可

給食あり。体調不良の場合は通園不可，呼び出しあり

病児保育：体調不良の子どもを預かる。数少ない。予約制

給食なし，お弁当必要

【ワークシート】

(1) ワーキングマザーの発言・行動・態度で気になった点（事実）

(2) ワーキングマザーの発言・行動・態度に関する感想，意見，気づき（解釈）

- (3) ワーキングマザーの困りごと、抱える問題（仮説）

4. 主体的学習者診断テスト（ポスト調査）

5. まとめ

【学生】主体的学習者 → 【社会人】問題解決者

【問題解決者とは？】

- (4) 世の中の事象を問題意識をもって観察し、
- (5) 観察によって得られた事実を多様な視点から解釈し、
- (6) 解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想し、解決できる人

【これから】

- ① 課題研究：世の中を問題意識をもって見る → 主体的学習者
- ② 大学選び：どの視点から世の中を眺めるかを決める
- ③ 大 学：世の中を見る目（専門性）を養う
- ④ 社 会：世の中の問題を発見し、解決する → 問題解決者

6. 参考図書

自身の問題意識、観察力、探究心、問題発見力、問題解決力をさらに伸ばしたいと感じた人に、以下の書籍をお薦めします。

- (1) 笥裕介著『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』英知出版, 2013 年
- (2) グリーنز編集『ソーシャルデザイン - 社会をつくるグッドアイデア集』朝日出版社、2012 年
- (3) 電通ソーシャル・デザイン・エンジン監修・ソーシャルデザイン会議実行委員会編著『希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン』宣伝会議, 2013 年

※模造紙サイズで印刷してください。

主體的學習者育成プログラム

1 グループ 100 枚、付箋（75 mm×75mm 程度のサイズ）配布してください。

(3) 主体的学習者診断シート（ポスト調査）

主体的学習者診断シート（ポスト調査）			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

各設問について自分自身がどれくらいあてはまるか（あてはまらないか）回答してください。

設問		全くあてはまらない							とてもあてはまる	
1	自分が知らないことを聞くと、詳しく話を聞きたくなる。	1	2	3	4	5	6	7		
2	気になったことはすぐにインターネットなどで調べてみる。	1	2	3	4	5	6	7		
3	現状を打開できるかどうかは常に自分次第だと思う。	1	2	3	4	5	6	7		
4	何かをより良くするために、自分から行動する方だ。	1	2	3	4	5	6	7		
5	興味があることにはとことんのめり込んでしまう。	1	2	3	4	5	6	7		
6	自分は無力な人間だと思う。	7	6	5	4	3	2	1		
7	自分が納得できなければ、他人から評価されてもあまりうれしくない。	1	2	3	4	5	6	7		
8	わからないことは、まず自分で調べてから人に聞く。	1	2	3	4	5	6	7		
9	世の中には面白いことがたくさんあると思う。	1	2	3	4	5	6	7		
10	自分がどうがんばっても世の中は変わらないと思う。	7	6	5	4	3	2	1		
11	他人と意見が異なる時、なぜ違うのか深く掘り下げたくなる。	1	2	3	4	5	6	7		
12	人気のある商品についてなぜ人気があるのか自分なりに考えてみることもある。	1	2	3	4	5	6	7		

(4) 振り返りシート

主体的学習者育成プログラム - 問題解決編 - 振り返りシート			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

本日のプログラムを通じて気づいたこと，感じたことを自由に記述してください。

3-3 主体的学習者診断結果の分析方法

主体的学習者育成プログラムを受講した生徒の学修効果を測定することを目的に、プログラム受講の前後で同じ内容の診断テストを2度（プレ調査・ポスト調査）実施します。主体的学習者育成プログラムでは、「主体的学習者診断シート」を使用します。主体的学習者診断テストは、12の質問項目で構成されており、「興味・関心」「自己肯定感」「探究心」「自主性・率先性」の4つのカテゴリに関する設問がランダムに配置されています。以下の集計表にしたがって、プレ調査およびポスト調査の結果を分析ください。

【集計表】

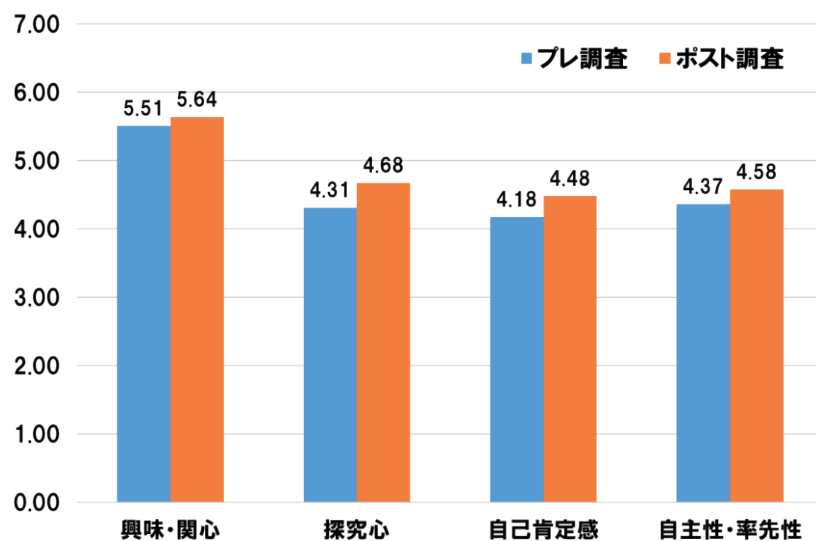
カテゴリ	診断テストの設問	回答	カテゴリ平均
興味・関心	1 自分が知らないことを聞くと、詳しく話を聞きたくなる。		
	5 興味があることにはとことんのめり込んでしまう。		
	9 世の中には面白いことがたくさんあると思う。		
探究心	2 気になったことはすぐにインターネットなどで調べてみる。		
	11 他人と意見が異なる時、なぜ違うのか深く掘り下げたくなる。		
	12 人気のある商品についてなぜ人気があるのか自分なりに考えてみることがある。		
自己肯定感	3 現状を打開できるかどうかは常に自分次第だと思う。		
	6 自分は無力な人間だと思う。		
	10 自分がどうがんばっても世の中は変わらないと思う。		
自主性・率先性	4 何かをより良くするために、自分から行動する方だ。		
	7 自分が納得できなければ、他人から評価されてもあまりうれしくない。		
	8 わからないことは、まず自分で調べてから人に聞く。		

【集計表の記載例】

カテゴリ	診断テストの設問	回答	カテゴリ 平均
興味・関心	1 自分が知らないことを聞くと、詳しく話を聞きたくなる。	5	5.33
	5 興味があることにはとことんのめり込んでしまう。	6	
	9 世の中には面白いことがたくさんあると思う。	5	
探究心	2 気になったことはすぐにインターネットなどで調べてみる。	5	4.33
	11 他人と意見が異なる時、なぜ違うのか深く掘り下げたくなる。	4	
	12 人気のある商品についてなぜ人気があるのか自分なりに考えてみることもある。	4	
自己肯定感	3 現状を打開できるかどうかは常に自分次第だと思う。	4	3.67
	6 自分は無力な人間だと思う。	4	
	10 自分がどうがんばっても世の中は変わらないと思う。	3	
自主性・率先性	4 何かをより良くするために、自分から行動する方だ。	4	4.67
	7 自分が納得できなければ、他人から評価されてもあまりうれしくない。	5	
	8 わからないことは、まず自分で調べてから人に聞く。	5	

受講した生徒全員の診断結果を集計してグラフ化すると、プログラム実施の効果を確認しやすくなります。

【グラフ例】



Ⅱ．実施ガイド

4 協働的学習者育成プログラム

4-1 情報共有編

4-1-1 講師ガイド

協働的学習者育成プログラム - 情報共有編 - 講師ガイド

(1) タイムテーブル (100 分間)

時間	プログラム
10 分	1. プログラムの目的 ～いま社会が求めている人材は？ 2. プログラムの紹介、協働的学習者とは
10 分	3. 協働的学習者診断テスト(プレ調査) →要回収
15 分	4. ウォーミングアップエクササイズ
55 分	5. 情報共有ケーススタディ「Y市の現状把握」
10 分	6. まとめ 7. 振り返りシートの記入 →要回収

(2) プログラム実施前の準備

	資料名	必要数
スライド投影 の準備	投影スライド	－
映像教材の 投影準備	【映像 1】 Y 市長 【映像 2】 Y 市まちづくり推進課長 【映像 3】 Y 市に昔から住んでいる子育て中のお母様 【映像 4】 Y 市駅前商店街専務理事 【映像 5】 Y 市に移住してきた子育て中のお母様 【映像 6】 ビジネスパーソン 【映像 7】 IT ベンチャー経営者 【映像 8】 F 市に移住した元 Y 市民	－
教材の印刷	(1) テキスト&ワークシート (2) 協働的学習者診断シート(プレ調査)	1 人 1 部
	【ウォーミングアップエクササイズ】 (3) 情報カード ※カード(全 15 枚)を切り離しておいてください。 (4) ワークシート (5) メモ用紙 (6) 解答	1 グループ 1 部

	資料名	必要数
	【ケーススタディ】 (7) 個人ワークシート ※A3 サイズで印刷 (8) グループワークシート ※模造紙サイズで印刷	1 グループ 1 セット(8 枚) 1 部
	(9) 振り返りシート	1 人 1 部
	【インタビュー映像スクリプト】※必要に応じて配布 01 Y 市長 02 Y 市まちづくり推進課長 03 Y 市に昔から住んでいる子育て中のお母様 04 Y 市駅前商店街専務理事 05 Y 市に移住してきた子育て中のお母様 06 ビジネスパーソン 07 IT ベンチャー経営者 08 F 市に移住した元 Y 市民	情報収集を 担当する 各生徒に配布
教室・パソコン の準備	・ 【ケーススタディ】で Y 市の関係者のインタビュー映像を視聴します。その際、各生徒は(全ての映像を視聴するのではなく)自分が担当するインタビュー映像だけを視聴します。 ・ そのため、映像を視聴するための教室を複数用意し、各教室に映像視聴用のパソコンを用意する必要があります。 ・ 各パソコンにあらかじめインタビュー映像データをセットしておきます。	—

(3) プログラム実施上のポイント

時間	プログラム	実施上のポイントなど
10 分	1. プログラムの目的 ～いま社会が求めている人材は？	・ 教室の雰囲気づくりが大切です。少しリラックスした雰囲気がよろしいかと思います。 ・ 1-2 名を指名して【問】の回答を尋ねた後、解説してください。 ・ 社会で求められている人材は「仕事におけるコミュニケーション能力に長けている」人材ですが、それは単に人と楽しくおしゃべりできることを意味するのではなく、多様な価値観や背景を持つ人々と人間関係やチームワークを形成し、対話を通じて情報を共有し、考えを伝え合い、合意形成して課題解決することができることを意味していること、またそのためには「協働力」が必要であることを伝えてください。
	2. プログラム紹介 協働的学習者とは	・ 以下のキーワードを強調しつつ、協働的学習者の定義についてご説明ください。 【キーワード】 多様な価値観や背景を持つ人々と ①関係を構築する力 ②支援・援助する力 ③情報や考えを共有する力 ④合意形成する力 ・ このうち、今回のプログラムは「③情報や考えを共有する力」の醸成に焦点を当てています。 ・ 簡単にプログラムの流れをご説明ください。 ・ 「情報共有ケーススタディ」がメインであることをお伝えください。
10 分	3. 協働的学習者診断テスト (プレ調査) ※要回収	・ 現状、どの程度「協働的学習者」としての力を持っているかを自己診断します。 ・ あまり深く考えず、感覚的に回答するようにご指示ください。 ・ 回答後、回収してください。
15 分	4. ウォーミングアップエクササイズ 各メンバーが持っている情報を、いかに上手に共有・整理して1つの結論を導くことができるかに挑戦するワーク	・ 各メンバーが持っている情報を、いかに上手に共有・整理して1つの結論を導くことができるかに挑戦するワークです。 ・ グループごとに用意してある情報カード（15 枚）をよくシャッフルしてメンバーに配布します。 ・ 例）5 人グループ→1 人 3 枚、6 人グループ→1 人 2～3 枚 ・ 演習時間は 7 分です。 ・ 情報共有は口頭のみで行うこと、お互いの情報カードを見せ合ってはいけないことを指示して下さい。 ・ 情報カードの共有の結果、条件に合致したお店が決定したら挙手させてください。

時間	プログラム	実施上のポイントなど
		【情報共有のポイント解説】 ・ 演習を振り返り、情報共有において重要な2つのポイントをお伝えください。 ①情報を正確に把握する、勝手な解釈をしない ②関連する情報を適切なタイミングで発信する ・ この点を意識してケーススタディに取り組むよう指示してください。
55 分	5. 情報共有ケーススタディ	【状況設定】 ・ 受講者は、お客様から住宅や不動産に関する相談に応じる住まいのアドバイザーという設定です。 ・ 今回、Y市への移住を検討している佐藤さん一家から相談を受けました。受講者は佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集することになりました。 ・ Y市は東京都心から電車で約1時間の海沿いの街です。周囲が海に囲まれており、古くから、ベッドタウンとして栄えてきました。気候は温暖で自然豊かな土地ですが、急傾斜地が多く、高台の住宅地が多い街です。Y市は近年、人口が減少しており、現在の人口は、県内5位です。 ・ 今回、Y市への移住を検討している佐藤さん一家は以下のような家族構成です。 父 41歳, 会社員 母 36歳, 専業主婦 子ども3人 長女5歳、次女3歳、長男1歳 【STEP①】 情報収集～Y市の現状 ・ Y市の現状について、Y市の関係者10名に行ったインタビュー映像を手分けして視聴させます。 ・ 受講者には映像を見ながら、Y市の良い点と改善すべき点を付箋に書き出させてください。 ・ この際、1つの付箋には1つの点のみ記入させるように指示してください。 ・ 5人グループの場合、以下のような分担でインタビュー映像を視聴させてください。 1人目 Y市長(松山市長) 2人目 Y市まちづくり推進課長(伊達さん) Y市に昔から住んでいる子育て中のお母様(石井さん, 渡部さん) 3人目 Y市駅前商店街専務理事(森さん) Y市に移住してきたお母様(加瀬さん) 4人目 ビジネスパーソン(堀越さん) ITベンチャー経営者(斉木さん) 5人目 F市に移住した元Y市民 (吉田さん, 杉村さん) ・ もし6人グループの場合は、視聴する映像が重複しても構いませんので、全員がいずれかの映像

時間	プログラム	実施上のポイントなど
		を視聴するようにしてください。 ・ 担当が決まったら、各生徒に担当する関係者の「個人ワークシート」を配布してください。 ・ インタビュー映像から付箋に情報を記載させる際には勝手な解釈はせず、正確に情報を記載するよう指示してください。 【STEP②】情報整理・共有 ・ 各自が付箋に書き出してきたY市の良い点と改善点を模造紙に移動しながら、整理させてください。 ・ この際、親和図を作る要領で、似たような情報は近くに集めて貼り、見出し（タイトル）を付けるように指示ください。 ・ また、無言で付箋を貼らせるのではなく、関連する情報を適切なタイミングで発信するように指示ください。 【発表】 ・ 発表時間が限られていますので、発表は（出来のよい）2グループ程度でよろしいかと思います。 ・ 2-3名に演習を通じて気づいた点などを尋ねてください。 【ケーススタディの振り返り】 ・ ケーススタディ（演習）を通じて以下のようなことを少しでも実感できたら、本日のプログラムは成功だとお伝えください。 - Y市の関係者のインタビュー映像を視聴し、正確に情報を付箋に記述することができた。 - グループワークの際、関連する情報を適切なタイミングで発信し、Y市に関する情報をグループメンバーとしっかり共有することができた。
10分	6. まとめ	・ 協働的学習者の定義を復習した上で、以下の点をお伝えください。 - 本日は、多様な価値観や背景を持つ人々と情報や考えを共有するにはどのような点に気をつけなければならないかを学習した。 - 情報共有の際には、①情報を正確に把握し、勝手な解釈はしないこと②関連する情報を適切なタイミングで発信することが大切である。 - 次回は、続きのケーススタディを行い、佐藤さん一家にY市への移住を薦めるか否かについて合意形成する演習を行う。
	7. 振り返りシートの記入 ※要回収	・ 振り返りシートの記入時間をできるだけ長く確保することが、本プログラムの効果を高めることにつながります。 ・ 振り返りシートを回収ください。


産業能率大学

協働的学習者
育成プログラム
- 情報共有編 -



本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育関係推進プログラム（AP）」（平成28年度選定）における協働的学習の一環で開発しました。


産業能率大学

プログラムの目的

【授業進行上のポイント】

- 今回実施するプログラムは、「情報共有編」と「合意形成編」の2つでセットになっていること、また、高校での探究学習を進めるうえで基本となる要素が詰まっているプログラムだということを最初に伝えてください。

【グループ分け】

- このプログラムは全てグループワーク形式で実施します。
- プログラム実施日前までに予め先生方でグループ分けを行っておいてください。
- 学年全体で実施する場合は、できれば通常のクラスを解体してグループ分けするなど、多様性のあるグループ編成を意識してください。またグループの人数も最大6人程度で編成してください。

【配布資料】

- プログラムの進行に合わせて配布資料が用意されています。
- プログラムがスムーズに進行できるよう事前に資料の確認をしておいてください。
- 「協働的学習者育成プログラムー情報共有編ー生徒用テキスト」

【授業進行上のポイント】

- なぜ今回このプログラムを受講するのか、プログラム全体の目的を「自分事」として捉えてもらうためにも目的の説明は重要なところ です。

【説明例】

- まず今回、なぜこのプログラムを実施するのか、その目的について説明します。

はじめに・・・

Question

いま社会が求めている人材とは？

社会が求めている人材とは？

【選考時に重視する要素】

コミュニケーション能力：15年連続1位

主体性：9年連続第2位

年	コミュニケーション能力	主体性	チャレンジ精神	誠実性	協調性
2001	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2002	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2003	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2004	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2005	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2006	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2007	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2008	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2009	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2010	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2011	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2012	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2013	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2014	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2015	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2016	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2017	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0
2018	82.0	48.0	48.0	48.0	48.0

- 【授業進行上のポイント】
- 「いま社会でどのような人材が求められていると思いますか？」と生徒に投げかけをしてください。
 - 何人かの生徒に指名して答えさせると良いでしょう。
- 【説明例】
- いきなり質問ですが、「いま社会が求めている人材」とはどのような人材だと思いますか？
 - 多くの人は高校や大学を卒業した後、企業などの組織に所属し、働くわけですが、そうした企業などの組織はどのような人材を求めていると思いますか？
 - 企業などの組織はどのような能力をもった人材を求めていると思いますか？
→何人か生徒を指名し、答えさせる。

- 【授業進行上のポイント】
- 日本経団連が実施している調査を紹介してください。
 - この調査では企業が選考時に重視する要素として、コミュニケーション能力が長年連続して1位であることを説明してください。
- 【説明例】
- 企業などの組織が求めている人材の能力要素に関する調査として、日本経団連が行っている調査を紹介しましょう。
 - この調査は毎年行われているもので、企業が、新卒採用の選考時にどのような要素を重視しているか、を調べたものです。
 - それによれば、企業は新卒採用の選考時に「コミュニケーション能力」を最も重視していることが明らかになっています。
 - また、このグラフの通り「コミュニケーション能力」は継続して1位となっており、企業が新卒の選考時に非常に重視している能力であることがうかがえます。

社会が求めている人材とは？ 【各世代の入社時の資質の印象を比較した調査】 独立行政法人労働政策研究・研修機構 「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」 2012年3月

【授業進行上のポイント】

- 企業などの組織が求めている人材をめぐる別の調査として（独）労働政策研究・研修機構が行った調査（「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」）の一部（「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査結果）を紹介してください。

【説明例】

- 企業などの組織が求めている人材像に関する別の調査についても紹介しましょう。
- これは、（独）労働政策研究・研修機構というシンクタンクが行った調査で、「各世代の入社時の資質の印象の違い」を比較したものです。

【参考資料】

- この調査の概要は以下の通りです。
- ＜調査概要＞
- （独）労働政策研究・研修機構（2012）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」
- 目的：今後の事業活動の展望の中で職場が求める人材像、その中での若手人材育成のための取組、また、世代間コミュニケーションの現状などについて明らかにし、今後の課題とその政策的対応を検討する
- 調査方法：郵送による調査票の配布・回収
- 調査対象：全国の従業員数 300 人以上の企業全社（帝国データバンクのデータベースから産業・規模別に全数抽出）及び100人以上299人以下の企業（同データベースから産業・規模別に無作為抽出）合わせて20,000社。
- 調査期間：2011年 1 月 7 日から同月28 日まで。
- 有効回収数：3,392 社（有効回収率：17%）

＜主な発見事実＞

- ① 企業が採用にあたり、今後重視することとして、「コミュニケーション能力の高いこと」をあげる割合が最も高かった。
- ② 若手人材の配置、育成において、今後重視することとしては、「特定の部門への配置を基本としつつ必要に応じて他部門も経験させる」、「長期的に教育訓練を行い、育成する」の割合が高くなっている。
- ③ 若手人材の育成における今後の課題としては、「将来を担う人材を長期的視点で育成する必要がある」や「若手人材の指導に当たる上司の指導力を強化していく必要がある」の割合が高くなっている。
- ④ 各世代の入社時の資質の印象を比べると、若い世代ほど
 - (1) 「自ら考え、行動することができる」割合は低くなる
 - (2) 「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」割合は高くなる
 - (3) 「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」割合は高くなる
 - (4) 「自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い」割合は高くなる
 - (5) 「自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い」割合は高くなる——といった特徴がみられた。

上記、①～④は、労働政策研究・研修機構ホームページ

<https://www.iil.go.jp/institute/research/2012/097.html>より転載。

- 調査結果の詳細は、<https://www.iil.go.jp/institute/research/2012/097.html>に調査報告書が掲載されていますので参照してください。

いま社会が求めている人材				
【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】				
	40代	30代	20代	
A 自ら考え行動することができる				
B 指示されたことだけをやっている				
A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている				
B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない				
A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い				
B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう				

※労働政策研究・研修機構 2012「人材開発のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」を元に作成

【説明例】

- この調査では「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査が行われています。
- その調査結果によれば、各世代（40歳代、30歳代、20歳代）の入社時の資質の印象を比べると、若い世代ほど
 - (1) 「自ら考え、行動することができる」割合は低くなる
 - (2) 「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」割合は高くなる
 - (3) 「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」割合は高くなる
 - (4) 「自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い」割合は高くなる
 - (5) 「自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い」割合は高くなる
 といった特徴がみられました。
- ここで言う、40歳代以上とはバブル期までに採用された世代を、30歳代とはバブル崩壊後1990年代に採用された世代を、20歳代とは2000年代に採用された世代を指します。
- 調査では、各世代の入社時の比較をするため、「A 自ら考え、行動することができる」か「B 指示されたことだけをやっている」のどちらかに近いのか。「A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている」か「B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない」のどちらかに近いのか。「A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い」か「B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」のどちらかに近いのかといった形で各世代に対する印象が聞かれています。
- それぞれの項目に対し、各世代の印象について、Aに近い（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計）との印象を抱えている企業の割合、Bに近い（「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計）との印象を抱えている企業の割合を示したものが次のスライドです。

【参考資料】

- この調査結果の詳細は、以下のURLに掲載されている調査報告書のP19～P22を参照してください。https://www.iil.go.jp/institute/research/2012/documents/097_01.pdf

【授業進行上のポイント】

- この調査の中で行われた「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査結果の概要を紹介してください。

【説明例】

- この調査では「各世代の入社時の資質の印象の違い」に関する調査が行われています。
- その調査結果によれば、各世代（40歳代、30歳代、20歳代）の入社時の資質の印象を比べると、若い世代ほど
 - (1) 「自ら考え、行動することができる」割合は低くなる
 - (2) 「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」割合は高くなる
 - (3) 「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」割合は高くなる
 - (4) 「自分の取り組みたい仕事へのこだわりが強い」割合は高くなる
 - (5) 「自らのキャリア形成や職業生活設計への関心が高い」割合は高くなる
 といった特徴がみられました。
- ここで言う、40歳代以上とはバブル期までに採用された世代を、30歳代とはバブル崩壊後1990年代に採用された世代を、20歳代とは2000年代に採用された世代を指します。
- 調査では、各世代の入社時の比較をするため、「A 自ら考え、行動することができる」か「B 指示されたことだけをやっている」のどちらかに近いのか。「A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている」か「B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない」のどちらかに近いのか。「A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い」か「B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」のどちらかに近いのかといった形で各世代に対する印象が聞かれています。
- それぞれの項目に対し、各世代の印象について、Aに近い（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計）との印象を抱えている企業の割合、Bに近い（「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計）との印象を抱えている企業の割合を示したものがこのスライドです。

【参考資料】

- この調査結果の詳細は、以下のURLに掲載されている調査報告書のP19～P22を参照してください。https://www.iil.go.jp/institute/research/2012/documents/097_01.pdf

いま社会が求めている人材				
【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】				
	40代	30代	20代	
A 自ら考え行動することができる	60%	34%	7%	
B 指示されたことだけをやっている	11%	18%	60%	
A 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている	60%	40%	14%	
B 職場においてコミュニケーションをうまく図れない	6%	9%	40%	
A 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	67%	39%	9%	
B 失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう	6%	13%	47%	

※労働政策研究・研修機構（2021）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 調査結果の概要をお伝えください。

【説明例】

- この結果が示すように、企業は、各世代の入社時の資質の印象を比較した際、若い世代ほど、「指示されたことだけをやっている」、「職場においてコミュニケーションをうまく図れない」、「失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう」という印象を抱いていることがわかります。

いま社会が求めている人材	
【入社時に求められる資質】	
・ 自ら考え行動することができる ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	
【キーワード】 ① 主体性 ② 協働力 ③ やり抜く力	

※労働政策研究・研修機構（2021）「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 調査結果を踏まえ、企業が若い世代に対して抱いている問題意識を伝えるとともに、こうした力（資質）は社会で活躍していく上で不可欠なものであることを伝えてください。
- またこうした資質をキーワードで示したものが①主体性、②協働力、③やり抜く力であることを明確に伝えていただき、今回のプログラム受講の意義を改めてお伝えください。

【説明例】

- こうした調査結果を踏まえると、企業は若い世代の主体的な行動力や、仕事でコミュニケーションを図る力、やり抜く力といったものに対して問題意識を持っているとも考えられます。逆に、こうした力を持っている人を企業は求めているとも考えられます。
- こうした資質をキーワードで示したものが、①主体性 ②協働力 ③やり抜く力です。
- 企業等の組織に評価され、社会で活躍していくためには、人から言われて動くのではなく、自ら考えて行動する「主体性」と、仕事で成果を出すために周囲の関係者とコミュニケーションをとって「協働」する力、そして最後まで諦めず「やり抜く力」の3つの資質が非常に重要です。

いま社会が求めている人材

ポイント

仕事におけるコミュニケーション能力にだけている



人と楽しくおしゃべりできること
ではない！

いま社会が求めている人材

仕事におけるコミュニケーション能力とは？

【定義】

多様な価値観や背景をもつ人々と
人間関係やチームワークを形成し、
対話を通じて情報を共有し、考えを伝え合い、
合意形成して課題解決する能力

出典 文部科学省「コミュニケーション能力を育てるために」
習得目標等を平成23年8月29日 ※一部改題

- 【授業進行上のポイント】
- 仕事における「コミュニケーション能力」とは、日常的な場面でのコミュニケーションとは異なることを伝えてください。
- 【説明例】
- 2つの調査結果からも明らかのように、企業は人材の選考時に「コミュニケーション能力」を非常に重視しています。
 - 「コミュニケーション能力」というと、人と楽しくおしゃべりするようなイメージを抱いてしまうかもしれませんが、そうではありません。

- 【授業進行上のポイント】
- 仕事におけるコミュニケーション能力の定義を説明してください。
- 【説明例】
- 企業が求めているのは、仕事における「コミュニケーション能力」です。
 - 仕事におけるコミュニケーション能力とは、このスライドにあるように、
 - 多様な価値観や背景をもつ人々と人間関係やチームワークを形成できる
 - 対話を通じて情報共有し、考えを伝え合える
 - 合意形成して課題を解決できる力
 を意味しています。

いま社会が求めている人材

仕事におけるコミュニケーション能力とは？

【4つの要素】

多様な価値観や背景をもつ人々と

① 関係を構築する力

② 支援・援助する力

③ 情報や考えを共有する力

④ 合意形成する力

協働力

【授業進行上のポイント】

- 仕事におけるコミュニケーション能力の4要素を説明してください。
- また、「主体的学習者育成プログラム」の狙いが「主体性」の育成にあったのに対して、今回のプログラムの中心は、「協働力」の育成を狙いとしていることも併せて伝えていただき、2つのプログラムの違いを明確に説明してください。

【説明例】

- この定義の中には、大きく4つの能力要素が含まれています。
 - ① 関係を構築する力
 - ② 支援・援助する力
 - ③ 情報や考えを共有する力
 - ④ 合意形成する力
- 今回のプログラムはこうした4つの要素で構成される「協働力」について様々な演習を通して学んでいきます。

本プログラムの目的

【社会人】

仕事における
コミュニケーション能力にたけている

【学生】

協働的学習者になる

協働して学習に臨むことができる人を
協働的学習者と定義します。

【授業進行上のポイント】

- 「協働的学習者」の定義を説明してください。
- 社会人になったときに「仕事におけるコミュニケーションにたけた人材」になるためには、高校、大学時代の学習においても、様々な他者と協働して学習する経験を積み重ねておくことが必要であることをお伝えください。

【説明例】

- 社会で活躍するためには、社会人になる段階で、様々な他者と協働しながら、課題解決ができる状態になっておくことが必要ですが、ある日突然こうしたことができる人材になれるわけではありません。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても他者と協働して学習する経験を積み重ね、「協働的学習者」になっておくことが必要となります。

本プログラムの概要

協働的学習者

多様な価値観や背景をもつ人々と

① 関係を構築する力

② 支援・援助する力

③ 情報や考えを共有する力→情報共有編

④ 合意形成する力→合意形成編

本日！

本日のプログラム

【協働的学習者育成プログラム - 情報共有編 - 】

時間	項目	概要
10分	プログラムの目的	いま社会が求めている人材とは？プログラムの目的
10分	診断テスト	協働的学習者診断テスト
15分	ウォーミングアップエクササイズ	情報共有の力を試してみる！
55分	情報共有ケーススタディ	情報収集・整理・共有 演習「Y市の現状を把握する」
10分	本日のまとめ	本日の振り返り 参考図書の紹介、振り返りシート記入

【授業進行上のポイント】

- 「協働的学習者」に求められる能力のうち、今回のプログラム（情報共有編）と次回実施するプログラム（合意形成編）が扱う範囲について説明してください。

【説明例】

- 「協働的学習者」に求められる能力のうち、「情報共有編」のプログラムでは、特に「③情報や考えを共有する力」について扱い、「合意形成編」では「④合意形成する力」について扱っていきます。

【授業進行上のポイント】

- 本日実施している「情報共有編」プログラムの構成です。
- 大きく5つの項目に分かれています。最も重要なワークは、ケーススタディ「Y市の現状を把握する」にあることを伝えてください。

【説明例】

- 「協働的学習者」に求められる力のうち、今回は、「情報や考えを共有する力」について学んでいきます。
- このプログラムの流れに沿って学習を進めていきます。
- 特に「Y市の現状を把握する」というケーススタディで「他者と効果的に情報を共有する」プロセスを体験していきます。

協働的学習者
診断テスト

どれくらい協働的学習者としての力を
持っているか、自己診断してみましょう！

協働的学習者診断テスト

プログラム終了後、
もう一度診断テストをします。
自分にどのような**変化**が起こるか
楽しみにしていってください！

【授業進行上のポイント】

- 日ごろからどの程度、他者と協働することができているかを自己診断で確認します。
- ここで生徒に「協働的学習者診断テスト」を配布してください。
- 生徒にはあまり深く考えず感覚的に回答するように伝えてください。
- 「全く同じ内容のテストを「合意形成編」プログラムの終了後にも実施しますので、どういった変化があるのか楽しみにしていってください」と生徒に伝えてください。
- 回答終了後はすぐに先生方で回収してください。

【配布資料】

- 「協働的学習者診断テスト」

【説明例】

- 次回（合意形成編の実施後）も同じ自己診断を行って、自身の変化をみていきたいと思えます。

	オープニング エクササイズ 各メンバーが持っている情報を、いかに上手に 共有・整理して1つの結論を導くことができるか に挑戦するワークです。

	情報共有 体験ワーク 【場面】 ・ 会社の同僚5名が夕食(お店)の相談をしています。 ・ ワークシートにある通り、お店の候補は6つです。 ・ 各人の希望は情報カードに記載されています。 ・ 情報カードの中にはお店の条件を記したカードが5枚含まれています。例) 禁煙席がいい ・ 白紙のメモ用紙は自由に使ってください。 全員の希望に合致した(嫌がる人がいない)お店を1つ選んでください。

【授業進行上のポイント】

- オープニングエクササイズは、ケーススタディ「Y市の現状を把握する」をよりよく進めるためのアイズブレイクとして位置づけています。
- ここでは、情報を正確に把握し、勝手な解釈をせず、自分の情報と他人の情報とをうまく関連付けて整理し、適切なタイミングで発信することを心がけるように伝えてください。
- カードとワークシートとをグループごとに配布してください。

【説明例】

- ケーススタディを実施する前に、これからオープニングエクササイズを実施します。
- 各メンバーが持っている情報を、いかに上手に共有・整理して1つの結論を導くことができるかに挑戦する演習です。

【配布資料】

- エクササイズ_情報シート (A4) →各カード (全15枚) を切り離しておきます／1グループ1セット
- エクササイズ_ワークシート&メモ用紙 (A4) ／1グループ1枚

【授業進行上のポイント】

- 演習の設定を説明してください。

【説明例】

- これから、各メンバーが持っている情報を、いかに上手に共有・整理して1つの結論を導くことができるかに挑戦する演習を行います。
- 演習の設定はこのスライドに書かれている通りです。
- 会社の同僚5名が夕食 (お店) の相談をしています。
- ワークシートにある通り、お店の候補は6つです。
- 各人の希望は情報カードに記載されています。
- 情報カードの中にはお店の条件を記したカードが5枚含まれています。
- 白紙のメモ用紙は自由に使ってください。
- 最終的に全員の希望に合致した (嫌がる人がいない) お店を1つ選ぶのが演習の目的です。

情報共有 体験ワーク	
【演習の進め方】	
1. グループ毎に用意してある 情報カード(計15枚) は指示があるまで裏返しのままにしておいてください。	
2. 情報カードをよくシャッフルして、メンバーに配布してください。	
例) 5人グループ → 1人3枚 6人グループ → 1人2-3枚	
3. 演習時間は 7分間 です。	
4. 情報共有は 口頭のみ で行ってください。 お互いのカードを見せ合ってはいけません。	
5. お店が決まったら 挙手 してください。	

【授業進行上のポイント】

- カードとワークシートを配布し終えたらワークの進め方を説明し開始してください。
- ワーク中は机間巡視しながらグループの進み具合を観察しておいてください。
- カードに書かれた情報はお互いに見せ合ってはいけないことを伝えてください。

【説明例】

- 演習の進め方を説明します。
- グループ毎に配布した情報カード（計15枚）は指示があるまで裏返しのままにしておいてください。
- 情報カードをよくシャッフルして、メンバーに配布してください。
（例）5人グループ → 1人3枚 （例）6人グループ → 1人2-3枚
- 演習時間は7分間です。
- 情報共有は「口頭のみ」で行ってください。お互いのカードを見せ合ってはいけません。
- お店が決まったら挙手してください
- わからない人はいいますか？
- では始めてください。

オープニングエクササイズ 答え					
	条件1	条件2	条件3	条件4	条件5
	No.1 すぐに 入れる	No.4 屋敷と 被らない	No.7 料金が 高くない	No.10 洋服に臭いが つかない	No.13 ワイワイ 話ができる
兼司 『まぐろ』					No.14 ×
中華 『東京飯店』		No.5 ×	No.9 ○		No.15 ○
焼肉 『ぎゅう』	No.2 ×		No.8 ○	No.12 ○	
フレンチ 『セボン』	No.3 ○		No.8 ×		
イタリアン 『ナポリ』					No.15 ○
お好み焼き 『鉄板』	※No.6は無意味な情報			No.11 ×	

【授業進行上のポイント】

- 時間になったら答え合わせをしてください。

【説明例】

- それでは終了です。
- 答えは何になりましたか？
→生徒を指名し、答えを言わせる。
- そうです。答えは「ナポリ」でした。
- 時間内に正解にたどり着けたチームは、うまく情報共有ができたチームだと思います。
- どのように情報共有を進めましたか？
→生徒を指名し、グループでの検討プロセスを振り返らせる。
- では、どのように情報共有を進めればよかったか、ポイントを確認していきましょう。

振り返り

【情報共有のポイント】

1

情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

2

情報を関連づけて、
適切なタイミングで発信する。

振り返り

【情報共有のポイント】

1

情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

NO.14

寿司屋の「まぐろ」は、
ミシュランガイドで星を獲得
したらいいよ。
ただ、食べることに集中して
ほしいという大将の思いから、
おしゃべり禁止なんだった。

ミシュランガイドで星
を獲得しているなら、
きっと高級なお店だな

高級とは言っていない

- 【授業進行上のポイント】
- 演習の振り返りを行ってください。
 - 「勝手な解釈をせず、与えられた条件を正確に把握していたか」「情報を関連づけて、適切なタイミングで情報発信したか」などが振り返りの際の重要なポイントです。
- 【説明例】
- 今の演習プロセスを振り返りをしましょう。
 - この演習は、各メンバーが持っている情報を、いかに上手に共有・整理して1つの結論を導くことができるかを目的としたものでした。
 - 「情報共有」といっても、ただ漠然と進めてもあまり効果的ではありません。
 - うまく情報共有を進めていくためのポイントは2つです。
 - ① 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
 - ② 情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。
 - この2つのポイントに沿って、演習を振り返っていきましょう。

- 【説明例】
- 1つ目のポイント「情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。」ですが、これは例えば、このスライドにあるように、カードに書かれた情報を自分の中で勝手に解釈してはいけないということです。
 - 自分の中で情報が勝手に解釈されてしまうと、正確な情報が相手に伝わらなくなり、情報共有が効果的に進みません。
 - また、最悪、勝手に解釈された情報で意思決定を間違ってしまうおそれもあります。

振り返り

【情報共有のポイント】

1

情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

NO.6

イタリアンが好きだから、
毎食イタリアンでも構わな
いな。

イタリアン好き
がいるのか…。

じゃあ、イタリアン
は有力だな！

条件に関係なし
→無意味な情報

【説明例】

- 情報カードのNo. 6は、お店の選択条件に関係ない無意味な情報なのですが、この情報を勝手に解釈し、「イタリアン好きがいるのかも」などと考えてしまうと、間違った情報が相手に伝わってしまいます。
- このカードを勝手に解釈してしまった人はいいますか？

振り返り

【情報共有のポイント】

2

情報を関連づけて、
適切なタイミングで発信する。

NO.13

みんなでワイワイ話をしな
がら食事したいな。

NO.15

中華の『東京飯店』は個室
があるから、ゆつくりお
しゃべりしながら食事がで
きていいね。あと、イタリ
ア料理も好き。

「ワイワイ話ができる」という
条件に『東京飯店』は該当
する！○

【説明例】

- 次に、2つ目のポイント「情報を関連づけて適切なタイミングで発信する」ですが、これは、情報を共有する際、個々人がバラバラと情報を出すのではなく、誰かが出した情報に関連する情報を出すほうが、情報と情報のつながり、関係性が見えてきて、意思決定がスムーズに進められる、ということを意味しています。
- 今回の演習では例えばNo. 13のカード情報と、No. 15のカード情報が関連していますので、この2つの情報は同じタイミングで共有されると議論が効果的に進められたかと思えます。

振り返り

【情報共有のポイント】

2

情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。

NO.4

夕飯は、昼食に食べたものと同じものは食べたくないよね。たとえば、昼食にお寿司を食べた人は、夕飯もお寿司っていうのは嫌でしょ。

NO.5

私はお昼に中華料理を食べちゃったから、夕飯も中華というのはちょっと…。

「昼食と被らない」という条件に中華は該当しない！×

振り返り

【情報共有のポイント】

1

情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

2

情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。

この点を意識して次のワークに臨んでください！

【説明例】

- またNo.4のカード情報と、No.5のカード情報も関連していますので、この2つの情報は同じタイミングで共有されると議論が効果的に進められたかと思います。

【授業進行上のポイント】

- 情報共有のポイントを改めて伝えてください。

【説明例】

- このように、うまく情報共有を進めていくためには、
 - ① 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
 - ② 情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。
- この2つのポイントを個々人が意識する必要があります。
- 次のケーススタディでは、この2点を意識して演習に取り組んでください。
- では、このオープンニングエクササイズの解答を配布します。

【配布資料】

- エクササイズ_解答 (A4)

	情報共有 ケーススタディ

	情報共有ケーススタディ 【状況設定】 - みなさんは、お客様からの住まいに関するご相談に応じる住まいのアドバイザーです。 - 今回、Y市への移住を検討している佐藤さん夫婦から相談を受けました。 - そこで、佐藤さん一家に対して適切なアドバイスをを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集することにしました。
--	---

- 【授業進行上のポイント】
- これから今日のメインのワークであるケーススタディを行うことを伝えてください。
 - オープニングクイズを含め、ここまで学習してきたことを意識しながら進めるように伝えてください。
 - このケーススタディは以下の内容で進めます。
- ① 状況設定の説明
 - ② インタビュー動画の視聴担当の決定
～誰のインタビューを視聴するか、担当をグループで話し合って決める
 - ③ インタビュー動画の視聴
～Y市の現状に関して述べられた10人のインタビュー動画を視聴する
(自分の担当する動画を視聴)
 - ④ グループワークの実施
～自分のグループに戻り、模造紙と付箋を使いながら情報共有のためのグループワークを実施する
 - ⑤ 結果の発表
～活発だったグループを指名してグループワークの結果を発表する
(2～3グループ程度)
- 【説明例】
- これから、グループメンバーがそれぞれ分担して情報を収集し、グループで情報を共有するケーススタディを行います。
 - ここまで学習してきたことを意識しながらケーススタディに取り組んでください。

- 【授業進行上のポイント】
- ① 状況設定の説明
 - まずこのケースの「状況設定」について説明してください。
 - 自分たちの役割は何なのか、何のために情報を収集するのかを明確に伝えてください。
- 【説明例】
- 今回取り組むワークは、グループメンバーが各自担当して情報を収集し、それをメンバーと共有するというものです。
 - 皆さんにはお客様からの住まいに関するご相談に応じる「住まいのアドバイザー」になっていただきます。
 - 皆さんは今回、Y市への移住を検討している佐藤さん夫婦から相談を受けました。
 - そこで、佐藤さん一家に対して適切なアドバイスをを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集することになりました。
 - 状況設定について理解できましたか？

情報共有ケーススタディ
【Y市】 ● 東京都心から電車で約1時間。 ● 海沿いの街。周囲が海に囲まれている。 ● 古くから、ベットタウンとして栄えてきた。 ● 気候は温暖で自然豊か。 ● 急傾斜地が多く、高台の住宅地が多い。 ● 近年、人口が減少している。 現在の人口は、県内5位。

情報共有ケーススタディ
【佐藤さん一家】  ● 父 41歳、会社員 母 36歳、専業主婦 子ども3人 長女5歳、次女3歳、長男1歳 ● Y市に移住するか検討中。

- 【授業進行上のポイント】
- ① 状況設定の説明
- Y市をまずイメージしてもらうための情報を説明してください。
- 【説明例】
- なお、Y市とは、このスライドに書かれているような特徴のある郊外の街です。
 - 東京都心から電車で約1時間。
 - 海沿いの街。周囲が海に囲まれている。
 - 古くから、ベットタウンとして栄えてきた。
 - 気候は温暖で自然豊か。
 - 急傾斜地が多く、高台の住宅地が多い。
 - 近年、人口が減少している。現在の人口は、県内5位。

- 【授業進行上のポイント】
- ① 状況設定の説明
- アドバイスを求めてきた家族（佐藤さん一家）の状況を説明してください。
- 【説明例】
- なお、佐藤さん一家は、このスライドに書かれているような家族構成です。
 - 父 41歳、会社員
 - 母 36歳、専業主婦
 - 子ども3人（長女5歳、次女3歳、長男1歳）



情報共有ケーススタディ

【STEP①】情報収集

Y市の現状について、関係者10名にインタビュー撮影をしてきました。

- これから手分けしてインタビュー映像を見てもいます。映像を見ながらY市の良い点と改善すべき点をメモしてください。
- 視聴が終了したら、メモをもとに付箋に書き出してください。※1枚の付箋には1つの情報のみ記入

【授業進行上のポイント】

- 動画視聴と情報収集の仕方に関する説明をしてください。
- 動画視聴にあたっては正確な情報収集を心がけるように再度説明してください。

【説明例】

- それではこれからY市の現状についてY市の関係者10名が語っているインタビュー動画を分けてして視聴します。
- 各自、映像を見ながらY市の良い点と改善すべき点をワークシートにメモしてください。
- 視聴が終了したら、メモをもとに付箋に書き出してしてください。
→1枚の付箋には1つの情報のみ記入させる。

【授業進行上のポイント】

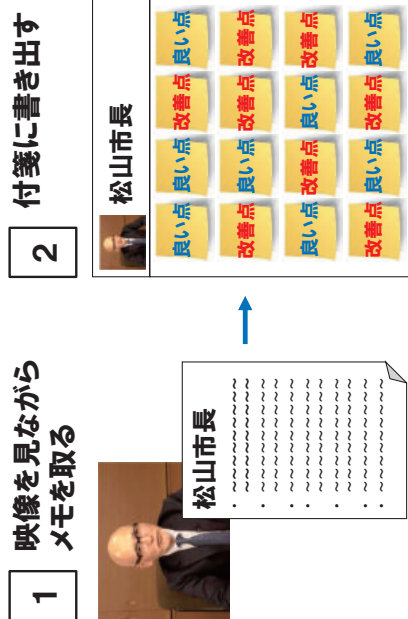
- 2つのプログラムの役割と構成について説明してください。
- 今回の「情報共有編」ではインタビュー形式の動画を視聴しながらY市の現状をまず把握します。
- 回目の「合意形成編」では共有した情報を整理しながらアドバイスを考えます。

【説明例】

- 今日のプログラムは「情報共有編」なので、Y市の現状に関する情報を手分けして収集し、共有するまでですが、今回の「合意形成編」のプログラムでは、収集した情報をもとに、グループで、佐藤さん一家に対するアドバイス（Y市に移住すべきか否かのアドバイス）を行うところまで行います。

情報共有ケーススタディ

【STEP①】情報収集



【授業進行上のポイント】

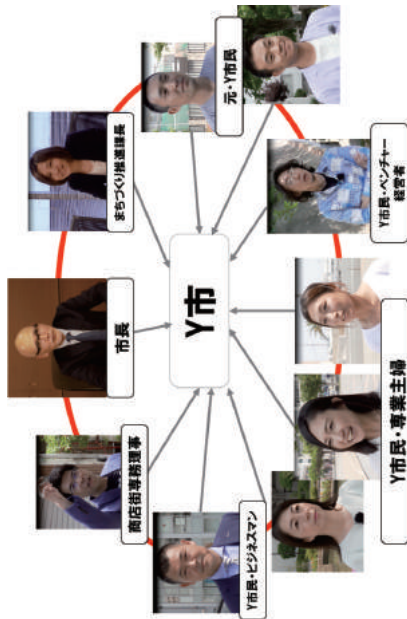
- 個人用ワークシート（A3）、付箋、ペンを配布してください。
- 動画を見ながらまずメモに良い点・改善点を書き出すように説明してください。
- 付箋は視聴後、メモをもとに作成します。

【配布資料】

- ケーススタディ_個人ワークシート（A3）、付箋、ペン

情報共有ケーススタディ

【インタビュー映像】



【授業進行上のポイント】

- ① 状況設定の説明
- インタビューはY市の関係者10人に対して行っています。10人はそれぞれの立場からY市の現状を語っています。
 - 動画を視聴させる前に、どのような立場の人がインタビューの対象になっているのかを簡単に説明してください。

【説明例】

- 今回インタビュー動画を視聴するY市の関係者はこの10名です。
- Y市長やY市役所の方、地域住民、商店街の専務理事、Y市から引っ越してしまった元Y市民など様々です。

情報共有ケーススタディ			
【インタビュアー映像】			
	映像No.	氏名	所属等
行政	①	松山市長	Y市長
	②	伊達さん	Y市まちづくり推進課長
	③	堀越さん	ビジネスパーソン
市民	④	森さん	駅前商店街専務理事
	⑤	加瀬さん	Y市に移住してきたお母様
	⑥	石井さん 渡部さん	Y市に昔から住んでいる 子育て中のお母様
	⑦	斉木さん	ITベンチャー経営者
元市民	⑧	吉田さん 杉村さん	F市に移住した元Y市民

情報共有ケーススタディ			
グループ内で担当を決めてください。			
担当	映像No.	氏名	所属等
1人目	①	松山市長	Y市長
2人目	②	伊達さん	Y市まちづくり推進課長
	③	堀越さん	ビジネスパーソン
3人目 ※6人目	④	森さん	駅前商店街専務理事
	⑤	加瀬さん	Y市に移住してきたお母様
4人目	⑥	石井さん 渡部さん	Y市に昔から住んでいる 子育て中のお母様
	⑦	斉木さん	ITベンチャー経営者
5人目	⑧	吉田さん 杉村さん	F市に移住した元Y市民

【授業進行上のポイント】

- ② インタビュアー動画の視聴担当の決定
- ～誰のインタビュアーを視聴するか、担当をグループで話し合ってから決める
- Y市の関係者10人にインタビュアーをしています、動画は8本にまとめられています。

【説明例】

- これから視聴する動画の一覧です。
- これからどの動画を誰が視聴するか決めていきます。

【授業進行上のポイント】

- ② インタビュアー動画の視聴担当の決定
- ～誰のインタビュアーを視聴するか、担当をグループで話し合ってから決める
- 誰がどの動画を視聴するか、グループで決めさせてください。
 - 5人グループであれば、スライドに書かれたような分担で動画を視聴させてください。

【説明例】

- このような分担で動画を視聴します。
- グループの中で、誰のインタビュアーを視聴するか、スライドを参考に分担を決めてください。

※※ 分担決定後、各部屋で担当動画を視聴する※※

The diagram illustrates the process of information collection for a newspaper article. It is divided into two main steps:

- 1 映像を見ながらメタを取る** (Take meta while watching the video): This step involves watching a video of a newspaper article. The video shows a newspaper page with the headline "松山市長" (Matsuyama City Mayor) and a list of names. A yellow box highlights the text "情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。" (Understand the information correctly. Do not make arbitrary interpretations.).
- 2 付箋に書き出す** (Write on sticky notes): This step involves writing the information on sticky notes. The sticky notes are arranged in a grid, with each note containing a name and a point (e.g., "良い点" (Good point), "改善点" (Improvement point)).

An arrow points from the video to the sticky notes, indicating the flow of information from the source to the collection tool.

【STEP2】情報共有

松山市長

良い点

改善点

加瀬さん

Y市に移住してきたお母様

良い点

改善点

【授業進行上のポイント】

④ グループワークの実施

～自分のグループに戻り、模造紙と付箋を思いながら情報共有のための

グループワークを実施する

- 情報共有のための模造紙、付箋を配布してください。

- 元のグループに戻り自分の収集した情報をもとに良い点、改善点を出し合いながら模造紙を使い整理していきます。

- 【説明例】
- 各自、担当した動画から情報を得ることができたでしょうか？
 - それではこれからグループメンバーと協働して、Y市に関する情報を共有していきますよう。
 - Y市の10名の関係者は、Y市に関する「良い点」と「改善点」を述べていたと思います。
 - そこでまずはグループでそれぞれが集めてきた情報を共有し、それを「良い点」と「改善点」に分け、模造紙に整理してみましょう。

【配布資料】

- ケーススタディ_グループ用ワークシート (模造紙)、付箋

情報共有ケーススタディ

【STEP2】情報共有

Y市の良い点と改善点を書きだした付箋を模造紙に移動しながら、整理してください。

加えられた
Y形に居住してきたお母様

情報を関連づけて、
適切なタイミングで発信する。

【授業進行上のポイント】

- ④ グループワークの実施
～自分のグループに戻り、模造紙と付箋を使いながら情報共有のためのグループワークを実施する
- 情報で整理する際には、適切なタイミングで情報発信をするように再度伝えてください。

- **【説明例】** なお、情報をグループで整理する際には、先ほどのオープンニングエクササイズで伝えたように、情報をバラバラに出し合うのではなく、似たような情報を関連づけて、適切なタイミングで発信することを意識することが大切です。

発表

次回予告

次回！

情報共有編

Y市の現状を把握する

アドバイスを検討する

合意形成編

(1) Y市の関係者にインタビュー
→ 情報収集・共有

(2) 改めて佐藤さん夫婦から話を聞いた上で、
(3) アドバイス内容を検討
→ 合意形成

⑤ 結果の発表
～活発だったグループを指名してグループワークの結果を発表する。

(2～3グループ程度)

- グループワークの進捗状況にもよりますが、時間があれば、いくつかのグループを指名して進捗状況の発表を行ってください。他のグループの情報を得ることでグループワークがさらに活性化することが期待できます。

【説明例】

- それではいくつかのグループに発表してもらいましょう。
- Y市に関する様々な関係者からの情報がどのように分類できたかを発表してください。

● 次の「合意形成編」では共有した情報を整理しながらアドバイスを考えていく旨を伝えてください。

【説明例】

- 今日のプログラムは「情報共有編」なので、Y市の現状に関する情報を手分けして収集し、共有するところまでで終わりますが、次の「合意形成編」のプログラムでは、収集した情報をもとに、グループで、佐藤さん一家に対するアドバイス（Y市に移住すべきか否かのアドバイス）を行うところまで行っていく予定です。

- それではいくつかのグループに発表してもらいましょう。
- Y市に関する様々な関係者からの情報がどのような分類できたかを発表してください。

演習を通して 気づいたこと, 感じたこと

本日のまとめ

【いま社会が求めている人材】

- ・ 自ら考え行動することができる
- ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている
- ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い

➡

【キーワード】 ① 主体性 ② 協働力 ③ やり抜く力

※労働政策研究・研修機構(2017)「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

- 【授業進行上のポイント】
- 今回の演習を通してどのようなことに気づいたか、どのようなことを感じたか、何人かの生徒にコメントさせてください。
- 【説明例】
- 今回の演習を通してどのようなことに気づきましたか？
どのようなことを感じましたか？ ○○さんいかがですか？

- 【授業進行上のポイント】
- 今回の「情報共有編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。
- 【説明例】
- 今日のプログラムでは、冒頭で、「いま社会が求めている人材像」について説明し、社会が人材に求めている資質の1つとして、「協働力」があることを説明しました。
 - 今回のプログラムでは、この「協働力」について、オーブンニングエクササイズやY市のケーススタディを通して学びました。

本日のまとめ
協働的学習者 多様な価値観や背景をもつ人々と ① 関係を構築する力 ② 支援・援助する力 ③ 情報や考えを共有する力 → 情報共有編 ④ 合意形成する力 → 合意形成編

【授業進行上のポイント】

- 今回の「情報共有編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。

【説明例】

- 社会で求められる「協働力」には、
 - ① 関係を構築する力
 - ② 支援・援助する力
 - ③ 情報や考えを共有する力
 - ④ 合意形成する力
の4つの能力要素があることを伝えました。

- 中でも今回のプログラムでは、「③情報や考えを共有する力」について扱い、他者と効果的に情報を共有する方法について体験的に学んできました。

本日のまとめ
【情報共有のポイント】 1 情報を正確に把握する。 勝手な解釈をしない。 2 情報を関連づけて、 適切なタイミンングで発信する。

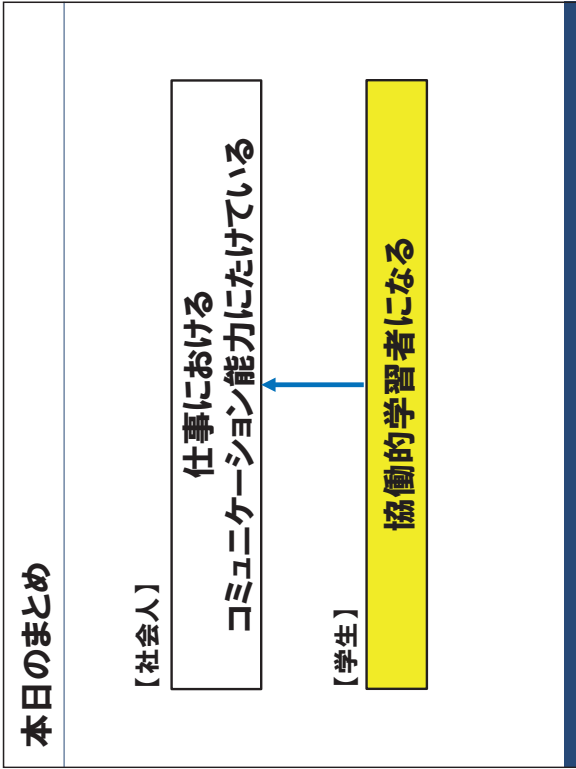
【授業進行上のポイント】

- 今回の「情報共有編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。

【説明例】

- また、「情報共有」はただ漠然と進めてもあまり効果的ではなく、
 - ① 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
 - ② 情報を関連づけて、適切なタイミンングで発信する。

という2つのポイントを踏まえて実施することが大切であることを伝えました。



協働的学習者
育成プログラム
- 情報共有編 -



本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AUP）」（平成26年度採択）における教員研修事業の一環で開催しました。

また次回！！

【授業進行上のポイント】

- 今回の「情報共有編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。

【説明例】

- 今日、冒頭で説明したように、社会で活躍するためには、社会人になる段階で、様々な他者と協働しながら、課題解決ができる状態になっておく必要があります。
- しかし、ある日突然こうしたことは、高校や大学での学習においても他者と協働して学習する経験を積み重ね、「協働的学習者」になっておく必要があります。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても他者と協働して学習する経験を通じて行うもので、これからの探究学習に積極的に参加し、「協働力」を磨いてください。

4-1-3 教材

(1) テキスト&ワークシート

協働的学習者育成プログラム - 情報共有編 -			
学年・組		氏 名	

1. プログラムの目的

【各世代の入社時の資質をめぐる印象の違い】

	40代	30代	20代
自ら考え行動することができる	60%	34%	7%
指示されたことだけをやっている	11%	18%	60%
仕事におけるコミュニケーション能力にたけている	60%	40%	14%
職場においてコミュニケーションをうまく図れない	6%	9%	40%
失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い	67%	39%	9%
失敗したり困難な仕事に直面すると自信を失ってしまう	6%	13%	47%

【仕事におけるコミュニケーション能力とは】

多様な価値観や背景をもつ人々と

- ①関係を構築する力
- ②支援・援助する力
- ③情報や考えを共有する力 → 情報共有
- ④合意形成する力 → 合意形成

【学生】協働的学習者になる→【社会】仕事におけるコミュニケーション能力にたけている

【本日のプログラム】

時間	項目	概要
10分	プログラムの目的	いま社会が求めている人材は？ プログラムの目的
10分	診断テスト	協働的学習者診断テスト
15分	ウォーミングアップ エクササイズ	情報共有の力を試してみる！
55分	情報共有 ケーススタディ	情報収集・整理・共有 演習 「Y市の現状を把握する」
10分	本日のまとめ	本日の振り返り 参考図書の紹介、振り返りシート記入

2. オープニングエクササイズ

【場面】

- ・ 会社の同僚 5 人と夕食(お店)の相談をしています。
- ・ 別紙「グループワークシート」にある通り、お店の候補は 6 つです。
- ・ 各人の希望は別紙「情報カード」に記載されています。情報カードの中にはお店の条件を記したカードが 5 枚含まれています。例) 喫煙席がいい
- ・ 最終的に「全員の希望に合致した(嫌がる人がいない)お店」を 1 つ選んでください。
- ・ 情報の共有は口頭のみで行ってください。情報カードを見せ合ってははいけません。

(メモ欄)

【情報共有のポイント】

- ・ 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
- ・ 情報を関連付けて、適切なタイミングで発信する。

3. 協働的学習者診断テスト（プレ調査）

- ・ みなさんが日ごろ、どの程度、他者と協働することができているか自己診断してみましょう。
- ・ プログラム終了後、もう一度診断テストをします。自分にどのような変化が起こるか楽しみにしていてください！

4. 情報共有ケーススタディ

【状況設定】

- ・ みなさんは、お客様から住まいに関するご相談に応じる住まいのアドバイザーです。
- ・ 今回、Y 市への移住を検討している佐藤さん夫婦から相談を受けました。
- ・ そこで、佐藤さん夫婦に対して適切なアドバイスを行うため、仲間と協働して Y 市の現状について情報収集することにしました。

【 Y 市の概況 】

- ・ 東京都心から電車で約 1 時間。
- ・ 海沿いの街。周囲が海に囲まれている。
- ・ 古くからベッドタウンとして栄えてきた。
- ・ 気候は温暖で自然豊か。
- ・ 急傾斜地が多く、台地の住宅地が多い。
- ・ 近年、人口が減少している。現在の人口は県内 5 位。

【佐藤さん一家の状況】

父：41 歳、会社員 母：36 歳、専業主婦
子供 3 人：長女 5 歳、次女 3 歳、長男 1 歳

【演習の進め方】

Y 市の現状について関係者 10 名にインタビュー撮影をしてきました。

1. チームで手分けしてインタビュー映像を見てもらいます。
2. 各人がどの関係者のインタビュー映像を視聴するか決めてください。
3. 決まったら、各自、担当する関係者のワークシートを受け取ってください。
4. インタビュー映像を見ながら、Y 市の良い点と改善すべき点とをメモしてください。
5. インタビュー映像の視聴が終了したら、メモをもとに付箋に書き出してください。
※1 枚の付箋には 1 つの情報のみ記入すること
6. チーム内で書き出した付箋の内容を共有しながら、情報を整理してください。

(2) 協働的学習者診断シート（プレ調査）

協働的学習者診断シート（プレ調査）			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

各設問について自分自身がどれくらいあてはまるか（あてはまらないか）回答してください。

設問		全くあてはまらない とてもあてはまる						
1	あいさつなどチームメンバーと関係を深める努力をする。	1	2	3	4	5	6	7
2	困っていたり悩んでいたたりするメンバーがいても、その人から相談を受けない限り、声をかけたりしない。	7	6	5	4	3	2	1
3	議論の流れに沿ってタイミングをみて情報を発信する。	1	2	3	4	5	6	7
4	根拠があいまいな意見に対して、根拠を問う質問をする。	1	2	3	4	5	6	7
5	チーム全体をやる気に満ちた雰囲気にすることができる。	1	2	3	4	5	6	7
6	一度結論が出て、疑問点があれば納得できるまでとことん話し合う。	1	2	3	4	5	6	7
7	チーム状況をみて、自分の果たすべき役割を考えて行動する。	1	2	3	4	5	6	7
8	うまく情報収集ができなかったり、アイデアが浮かばなかったりした時は、すぐにチームメンバーに現状を伝える。	1	2	3	4	5	6	7
9	1つのアイデアが出た時、関連する情報や意見を出してアイデアを膨らます。	1	2	3	4	5	6	7
10	チームメンバーひとりひとりの感情や思いを察することができる。	1	2	3	4	5	6	7
11	各メンバーの意見を整理してわかりやすく示す。	1	2	3	4	5	6	7
12	誤った情報を発信しないように、事前に情報の正確性を確認する。	1	2	3	4	5	6	7

設問		全くあてはまらない とてもあてはまる						
13	メンバーの困っている様子に気づいたら、声をかけるなどの行動をとる。	1	2	3	4	5	6	7
14	自分の持っている知識や情報を積極的に共有する。	1	2	3	4	5	6	7
15	意見の違いを生じている背景・原因を明らかにしようとする。	1	2	3	4	5	6	7
16	人の話を途中で遮ることなく、最後まで話に耳を傾ける。	1	2	3	4	5	6	7

【ウォーミングアップエクササイズ】

(3) 情報カード

※カード（全 15 枚）をあらかじめ切り離しておいてください。

NO.1	NO.2	NO.3
お店が満席で待たされるのは嫌だから、行ってすぐに入れるお店がいいな。	焼肉『ぎゅう』は、改装してからとても混んでるみたいね。いまから行っても、きっと満席ですぐには入れないと思うよ。	フレンチの『セボン』は、土日は混んでるけど、今日のようないきなり平日だったら比較的空いているね。
NO.4	NO.5	NO.6
夕飯は、昼食に食べたものと同じものは食べたくないよね。たとえば、昼食にお寿司を食べた人は、夕飯もお寿司ってというのは嫌でしょ。	私はお昼に中華料理を食べちゃったから、夕飯も中華というのはちょっと…。	イタリアンが好きだから、毎食イタリアンでも構わないな。
NO.7	NO.8	NO.9
給料日前だから、あんまり高いところはちょっと…。	この前、焼肉『ぎゅう』に行ったけど、コストパフォーマンスが最高だったよ。安くておいしかった。フレンチの『セボン』は、高級だけど、一度は行ってみたいな。	中華料理の『東京飯店』は、大皿料理が中心で、みんなで取り分けて食べれば、一人あたりの料金は安く抑えられると思うよ。
NO.10	NO.11	NO.12
今日はおしゃれ服を着てきてしまったので、洋服に臭いがつくところは避けたいな。	お好み焼き『鉄板』のおばちゃんは、焼き方にうるさいけど、気分がいいと色々サービスしてくれるんだ。ただ、家に帰ると、洋服がお好み焼きの臭いすごいね。	焼肉『ぎゅう』は、去年改装してとてもきれいになったね。あそこなら、空調がしっかりしているから、焼肉でも洋服に臭いはつかないよ。
NO.13	NO.14	NO.15
みんなでワイワイ話をしながら食事したいな。	寿司屋の「まぐろ」は、ミシュランガイドで星を獲得したらしいよ。ただ、食べることに集中してほしいという大将の思いから、おしゃべり禁止なんだって。	中華の『東京飯店』は個室があるから、ゆっくりおしゃべりしながら食事ができていいね。あと、イタリアンの『ナポリ』も楽しい雰囲気のお店で、おしゃべりしやすいな。

(4) ワークシート

【ワークシート】ウォーミングアップエクササイズ					
	条件1	条件2	条件3	条件4	条件5
寿司 『まぐろ』					
中華 『東京飯店』					
焼肉 『ぎゅう』					
フレンチ 『セボン』					
イタリアン 『ナポリ』					
お好み焼き 『鉄板』					

(5) メモ用紙

【メモ用紙】ウォーミングアップエクササイズ

(6) 解答

【解答】ウォーミングアップエクササイズ

	条件1	条件2	条件3	条件4	条件5
	No.1 すぐに入れる	No.4 昼食と被らない	No.7 料金が 高くない	No.10 洋服に臭いが つかない	No.13 ワイワイ 話ができる
寿司 『まぐろ』					No.14 ×
中華 『東京飯店』		No.5 ×	No.9 ○		No.15 ○
焼肉 『ぎゅう』	No.2 ×		No.8 ○	No.12 ○	
フレンチ 『セボン』	No.3 ○		No.8 ×		
イタリアン 『ナポリ』					No.15 ○
お好み焼き 『鉄板』				No.11 ×	

※No.6は無意味な情報

【ケーススタディ】

(7) 個人ワークシート

※A3 サイズで印刷してください。

	①松山市長 - Y市の抱える課題に対して、様々な角度から解決策を検討している辣腕市長。 - 市民からの信頼も厚く、前回選挙では圧倒的な支持を得て当選。	【個人ワークシート】
	②伊達さん - Y市まちづくり推進課長 - 現在、Y市の子育て支援の企画・実施に力を入れている。	【個人ワークシート】
	③石井さん、渡部さん 【Y市民】Y市に昔から住んでいる子育て中のお母様 - 二人とも、Y市で生まれ育ち、現在もY市に居住している。 - 子育て中の専業主婦。	
	④森さん 【Y市民】駅前商店街常任理事 - Y市の中央駅前商店街で長らく青果店を営んでいる。 - 現在、駅前商店街の理事を務めている。	【個人ワークシート】
	⑤加瀬さん 【Y市民】Y市に移住してきたお母様 - 数年前に横浜からY市に移住してきた。海沿いのマンションに住んでいる。 - 子育て中の専業主婦。	【個人ワークシート】
	⑥堀越さん 【Y市民】ビジネスパーソン - Y市から都内の会社に通勤しているサラリーマン。 - Y市中央駅から徒歩10分のマンションに住んでいる。	【個人ワークシート】
	⑦斉木さん 【Y市民】ITベンチャー経営者 - スマートフォンアプリを開発するベンチャー経営者。 - Y市出身。現在、Y市で空き家を借りて開発拠点にしている。	【個人ワークシート】
	⑧吉田さん、杉村さん 【元Y市民】F市に移住した元Y市民 - 二人とも、以前はY市に住んでいたが、現在はF市に移住した。 - 都内に通勤しているサラリーマン。	【個人ワークシート】

(8) グループワークシート

※模造紙サイズで印刷してください。

【STEP2】情報整理・共有	グループ番号	メンバー氏名
良い点	改善点	

(9) 振り返りシート

協働的学習者育成プログラム - 情報共有編 - 振り返りシート			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

本日のプログラムを通じて気づいたこと，感じたことを自由に記述してください。

【インタビュー映像スクリプト】

01. Y 市長 松山さん



- Y 市の抱える課題に対して、様々な角度から解決策を検討している。
- 市民からの信頼も厚く、前回選挙では圧倒的な支持を得て当選。

Q. 本日は Y 市の政策についてお話をお伺いしたく、お時間を頂戴いたしました。宜しく願い致します。

A. こちらこそ、宜しくお願いします。

Q. 現在、Y 市は人口減少問題に直面していますが、市長はこの問題についてどのようにお考えでしょうか？

A. Y 市は現在、県で 5 番目の人口を抱えていますが、ご指摘のように、近年、人口減少問題に直面しています。人口減少には、2 種類ありまして、1 つは、人の出生数と死亡数の差から算出する「自然増減」です。もう 1 つが、他の地域からの人の転入や他の地域への人の転出によって生じる増減を表す「社会増減」です。Y 市の場合、人口の「社会減」、つまり、他の地域に多くの人たちが転出する反面、Y 市に転入する人の数が少ない、つまり、「人口が他の地域に流出してしまっている」という問題を抱えております。

Q. なぜ、人口が流出してしまっているのでしょうか？

A. 背景には色々な問題があります。中でも、一番大きな理由が、企業の拠点、あるいは工場の撤退です。Y 市の場合、私が市長になるずっと前から、大企業、例えば大手自動車会社の工場などが相次いで撤退しています、そのため、「産業の空洞化」が起こっています。こうした企業の拠点がなくなると、労働者の働く場がなくなりますので、その後、大規模な人口流出現象が起こっていきます。

Q. なるほど。そうすると、地域に雇用を生むための工夫が求められますね。

A. そうですね。雇用の問題を解決しなければ、人口流出を食い止めることは大変難しいと思っています。従って、「地元の雇用創出」が私の大きな公約の1つです。

Q. そのためにどのような政策を考えておられるのですか？

A. まずは、企業を地元へ誘致しなければなりません。Y市の郊外には、広大な面積を誇るリサーチパークがあります。ここに今、企業、特に情報通信系とか、IT系の企業を積極的に誘致しようとしています。これまでのように、工場を誘致しても、コスト面でアジア諸国にはなかなかかないません。そのため、情報通信系企業とかIT企業の研究開発拠点をもっとたくさん誘致したいと考えています。ここは都心からのアクセスも良いですし、自然が豊かで静かな街です。ですので、企業が研究開発拠点を設置するには絶好のロケーションだと思っています。

Q. IT企業というと、谷戸地区にITベンチャーの経営者が移住されているようですね。

A. はい、そうですね。人口減少が激しい地域の1つがY市に点在する「谷戸地区」です。谷戸地区は、リアス式海岸のように谷が入り組んでいる地域で、階段道路が多く、車が入りません。自然豊かで、眺望がよく静かな場所なのですが、残念ながら、この地域は、最近空き家が目立っています。この空き家を何とか有効活用できないかと考えまして、市では「空き家バンク」という制度を作りました。最近、この制度を利用して、ITベンチャーの経営者の方などが移住してくるようになりました。

Q. 「空き家バンク」についてはIT経営者もおっしゃっていました。どのような制度なのですか？

A: この制度は、車が入れないような場所にある、谷戸地区の空き家の物件情報を市のホームページに掲載し、物件の借り手と、貸し手とをマッチングさせる施策です。空き家の有効活用をし、地域を活性化させようとする施策と言えます。

Q. なるほど。そのほか、人口流出への対策として検討されていることはありますか？

A. 特に、「結婚・子育て世代」の定住対策に積極的に取り組んでいます。Y市の現状として、20歳代から40歳代にかけての「結婚・子育て」世代の人たちが多く流出しているという側面があります。したがって、この「結婚・子育て世代」に定住してもらう対策が急務なのです。

そのため、例えば、「子育てファミリー世帯向けの住宅バンク助成制度」や「2世帯住宅リフォーム助成事業」、それから「小児医療費の無償化」や待機児童の削減に向けた「保育所の拡充」、結婚・子育て世代を対象とした様々な「子育てイベントや優待サービスの企画」や、生徒の学力向上を目指した「教育環境の充実」など、様々な施策を推進しています。

Q. 色々な施策を推進されているんですね。最後に、市長が考えるY市の魅力について教えてください。

A. 実はですね、市民満足度を調査すると、約80%の市民がY市に居住し続けることを希望しているというデータがあるんですね。これは近隣の市に比べてもはるかに高い数値です。これは、いかにY市が魅力的な街、住みよい街として認知されているかを示すものといえます。

Y市は自然豊かで気候も温暖、それでいて都心へのアクセスも良い、絶好のロケーションにある街だと思っています。海や豊かな自然も魅力ですし、地元で採れる新鮮な海産物や野菜など、おいしい食べ物もこの街の魅力です。その意味では、Y市は、地のものを学校給食に取り入れるなど、ふるさとに自信を持つ「食育教育」も行っています。

また、英語教育の環境が充実しているのもY市の魅力の1つです。市内の全小学校・中学校・高校にネイティブスピーカーの指導者等を配置していますし、全小学校において、小学校1年生から外国語活動を教育課程に位置づけています。また、市内の児童と米軍基地内の児童が交流する英語イベントも開催しています。こうした施策を通して、子どもたちが、日常的に英語や異文化に触れる機会を提供し、コミュニケーション能力を育てる教育を行っています。これは、他の市にはない特色です。

今日は人口減について色々お話をしました。人口減の対策には、様々な要因が絡んでおり、一朝一夕には解決できませんが、Y市民の幸せな生活を実現するため、今後も一所懸命政策を推進していきたいと考えています。

02. Y市まちづくり推進課長 伊達さん



- 現在、Y市の子育て支援政策の企画・実施に力を入れている。

Q. 市長にインタビューをさせていただきましたところ、Y市は今、子育て支援に力を注いでいるとのことでしたが・・・

A. はい、そうなんです。Y市は、結婚・子育て世代が住んでよかったと心から思ってもらえるような街づくりを目指していきまして、特に子育て支援に力を入れています。例えば、不妊治療の助成や出産施設、小児医療施設、保育施設の拡充に精力的に取り組んでいます。子育て世代向けに、子育てイベントも色々企画していますし、子育て世代向けの様々な情報を網羅したガイドブックも用意しております。

Q. なるほど。色々取り組まれているんですね。中でも、保育施設の拡充は働くお母さんにとっては魅力ですね。

A. はい。いわゆる待機児童数と呼ばれるものも、ゼロになったわけではありませんが、近隣の市に比べても少なく、保育施設の拡充を進めてきた成果ではないかと思います。今後さらに、保育所の新設や定員の拡充、幼稚園から認定こども園への移行などを推進致しまして、待機児童ゼロを目指していきたいと考えております。他にもY市の場合、国の基準を上回る保育士を配置しておりまして、きめ細やかな保育の実現を目指しております。

Q. それは充実していますね。他に、どのような子育て支援の施策があるのですか？

A. そうですね。例えば、市が運営する子育て支援の会員制組織があります。これは、子育ての「援助を受けたい人」と「援助したい人」とを結ぶ、有償のボランティア制による会員組織です。お子さんを預かって欲しい会員の方が、お子さんを預かってくださる会員の方に、利用料金を支払って、育児を援助してもらう仕組みです。朝6時から夜10時までの時間帯で、1回につき最低1時間から、育児の援助が必要な時間分を申し込むことができます。

Q. 何歳くらいのお子さんを預かってもらえるのですか？

A. 生後3ヶ月から小学校3年生までのお子さんをお預かりすることができます。保育園や幼稚園、小学校や学童クラブなどの保育施設の開始時間前の子どものお預かりや、帰宅後のお預かり、保育施設への送り迎えなどを援助してもらうことができます。

Q. Y市民で子育て中のお母さんにお話をお聞きしたところ、子育て支援センターがあって便利だとのことでした。

A. それは嬉しいですね。子育て支援センターは、小さなお子さんを持つお母さんたちの出会いの場なんです。赤ちゃんを連れて、ゆっくりくつろげるフリースペースがありますので、「ママ友」作りや、子育てに関する情報交換などにご活用いただけます。専門のアドバイザーもおりますので、お母さんの子育ての悩み事の相談にも応じることができます。

Q. 市長のお話では、結婚・子育て期の家族の転出数が多いとか・・・

A. そうなんです。Y市ではいかに、結婚・子育て期の世代の方々に定住していただくかが課題なんです。そこで、市では、「子育てファミリー向けの住宅バンク助成制度」というものを用意しています。

Q. それはどういう制度なんですか？

A. これは、子育て世代の方々が、市のホームページの「子育てファミリー等応援住宅バンク」に掲載された物件を購入し、そこに移住した場合、物件を購入する費用やリフォーム、解体にかかる費用に対して、合計で最大50万円の助成を行うというものです。こうした制度の運用を通して、人口減に歯止めをかけるべく努力をしているところなんです。

03. 【Y市民】 Y市に昔から住んでいる子育て中のお母様



石井さん

- Y市で生まれ育ち、現在もY市に居住している。
- 子育て中の専業主婦。

Q. Y市の住宅事情についてお話をお伺いできればと思います。宜しくお願いします。

A. はい、宜しくお願いします。

Q. Y市には元々お住まいですか？

A. はい、です。地元なので、小さいころから住んでいまして、結婚してからもずっとこちらに住んでいます。

Q. 子育てをされているお母さんにとって、この街の魅力ってどんなところにありますか？

A. はい、まず公園が充実していて、子どもを遊ばせるにはとてもいい環境です。それから、野菜やお魚、お肉なんかも安くておいしいものが手に入るのもとても便利です。あと、市役所のところに「子育て支援センター」があって、子育てで悩んだときとか不安なときに色々相談ができるところがすごく助かっています。うちも最初の子のときは子育てで結構わからないことがあったんですけども、そういう時によく「子育て支援センター」利用していました。無料で子供を遊ばせるところもありますし、ママ友がたくさんできたりして、情報交換ができたりしてとても心強くて、子育てしやすいなあと感じました。

Q. 子育て支援が充実しているんですね。

A. そうですね。この街は子育て支援にはとても力を入れている街だと思います。子供向けの医療施設とか、保育施設とか積極的に増やしていますね。不妊治療の助成とかも増やしていると思います。あと、子育てファミリー向けの「住宅バンク助成制度」とかもあったと思います。



渡部さん

- Y市で生まれ育ち、現在もY市に居住している。
- 子育て中の専業主婦。

Q. Y市の魅力について教えてください

A. やっぱり生きた英語に触れられるのが一番の魅力じゃないですかね。アメリカ軍の基地がありますから、色々なところで英語を耳にします。インターナショナルな雰囲気を感じられる街ですよ。

Q. これからはグローバル化が進みますからその雰囲気はいいですね。

A. そうですね。その点では、この街は学校の英語教育もすごく充実しています。市内の全ての小・中・高校には、ネイティブスピーカー、外国人指導者の方がいるんですよ。市内に在住している中高生向けに「イングリッシュキャンプ」というプログラムもあるんですよ。小学生向けに市が「イングリッシュワールド」という、ネイティブの方と英語でコミュニケーションを図るイベントをやったりしています。あと、基地の中で英語が学べるプログラムもあって、市民は受講することができるんです。「基地内留学」みたいな感じですね。私の母もこの間受講していました。

Q. 生きた英語に触れられる機会が多いこの街ならではの施策ですね。

A. そうですね。その意味では、子どもに英語を学ばせたいと考えているファミリーにはお薦めの街ですよ。街中のカフェとかで普通に外国の方が英語で話していますし、公立小学校には、アメリカ軍基地から通う外国籍の子供たちもいますから、インターナショナルな感覚も自然と身につきますよね。

Q. 充実した英語教育環境ですね。

A. そうですね。教育環境っていう点で言えば、小学校の校庭は広いですよ。大人が野球をやっても全然問題がないくらいに広いんです。都会の学校じゃそうはいかないですよ。子供たちがのびのび育つ環境としてはすごくいい街だと思いますよ。

04.【Y市民】Y市駅前商店街専務理事 森さん



- Y市の駅前商店街で長らく青果店を営んでいる。
- 現在、駅前商店街の専務理事を務めている。

Q. 専務は商店街では何のお店をやっているのですか？

A. うち、青果店です。もう代々この商店街で青果店を営んでいます。この街は半島のおいしい地の野菜が安く手に入りますからね。住むにはとてもいい街ですよ。

Q. 商店街を通りましたが、賑やかですね。

A. まあうちの商店街は、Y市の中心の駅前にあって、街の方々の買い物の場、地域コミュニティの拠点として機能してきた長い歴史があります。鮮魚店、青果店、衣料品店、飲食店など、約70店舗が営業してまして、買出しのお客さんで賑わってますよ。商店街を歩いていると、しょっしゅう英語が聞こえてくるのもうちの商店街の特徴ですね。

Q. 商店街が盛り上がっているのは素晴らしいですね。

A. うーん、でもね、ちょっと課題も多いんですよ。ご存知のように、この街は今、人口が減っていて、今、県で5番目になっちゃったんですよ。高齢化も進んでいるし、商店街の通行量も20年前に比べると半減しちゃってるし、固定客だけではどの店もやっていけなくなりつつあるんですよ。最近は若い人は何でもネットで買っちゃうでしょ。もうインターネット販売が中心になりつつあるから、商店街全体での来街者の減少が頭痛いんですよー。

Q. なるほど。他にはどんな課題があるのですか？

A. あと、近くに大型店もできましたから、そことの競争もしていかなければならないし、お客さんのニーズもどんどん多様化してますし、商店街の経営は厳しい状況に置かれてますよ。商店街を歩かれて気づかれたかもしれないけど、最近、空き店舗も多くてね。新しい出店者を見つけるのが結構大変なんですよ。お店も老朽化してきてるしね・・・若いお客さんが増えないんだよ。

Q. 経営状況が厳しいから空き店舗が増えているのですか？

A. それもありますが、個人経営の店が多いですから、みんな後継者問題を抱えているんですよ。店主が高齢化してきているんですが、後継ぎがいないんですよ。なので残念ながら店を閉めてしまうところも増えているんですよ。商店街は、青果・食肉・魚などの生鮮食料品等の小売店が重要な要素ですから、何とかうちは息子が引き継ぐよう、努力してるんですけどね。あとは、大型店舗と張り合える店が少なくて、競争に負けちゃうんですよ。駅前に若者向けのアパレルショップとかカフェとか、レストランとかが入った商業施設ができますからね。

Q. 何か打開策はあるのですか？

A. 最近商店街で催すイベントが減ってきてますから、まずは色々イベントを企画して話題性を高めようとしています。市もイベント事業の経費の一部を支援してくれますからそうしたものも活用しながらね。ハロウィンのイベントやったり、地域の物産展のフェアやったりとかね。あとは、米軍基地もありますから、外国人のお客さんが商店街でドルの利用が可能な店舗を増やすことなんかも必要かなと思ってます。だけど、まだそういうお店は少ないですからね。

Q. 他に何かイベントの企画はされているのですか？

A. あと、最近では、若手の商店主が中心になって、「街市」というイベントをやっています。去年は2回やったんだったかな。地元の名産とかを扱う店舗を集めて駅前の広場や、商店街のアーケードで販売やPRを行うイベントをやっています。こんな風に若い連中も頑張ってるんですよ。まあハロウィンとかもいいんですけど時期が限られてるでしょ。やっぱり商店街の魅力って、店主と買い物客の対面でのやり取りなんじゃないですか。だからこそそういう商店街の生き生きした雰囲気を感じてもらいたいイベントをね、若手が企画して定期的にやってくれてるんですよ。頼もしいですね。

Q. 大型店との競争も課題ですね。

A. まあ、そうなんだけど、競争ばかりしててもね、お互いによくないですから、いかに共存共栄を図っていけるか、それも大事かなと思っています。今、大型店と連携しててね、独自のポイントシステムを導入できないか、検討を始めているんですよ。あと、お年寄りの方で、商店街までなかなか歩くのが面倒になっている人たちに、御用聞きサービスができないかなとかね、色々試行錯誤しているところなんです。

05. 【Y市民】Y市に移住してきた子育て中のお母様 加瀬さん



- 数年前に横浜からY市に移住してきた。
海沿いのマンションに居住している。
- 子育て中の専業主婦。

Q. 今日はお忙しいところありがとうございます。現在、Y市の住宅事情について調べております。ご協力宜しく願います。

A. はい、宜しくお願いします。

Q. Y市には移住されてきたのですか？

A. はい、そうなんです。以前は横浜に住んでいたのですが、今はこの近くのマンションを購入して、この辺に住んでいまして、この辺はマンション群なんですけども、すごく異国情緒があって、気に入っています。

Q. 移住されていかがですか？

A. すごくいいですよ。うちには小さい子どもが二人いるんですけども、この街はすごく公園が充実していて、市内に大きな公園がいくつもあります。すぐ近くにも大きな公園があるんですけども、子どもを思いっきり遊ばせることができますし、芝生の広場もあってバーベキューもできるんですね。こういう経験は横浜じゃ、なかなかできないのですごく気に入っています。

Q. お子さんは大喜びですね。

A. はい。子どももちろん喜んでいますが、海沿いの公園では釣りも楽しめるので、うちの釣り好きのパパもすごく喜んでいまして、アジやサバなんか釣れるみたいですよ。

Q. すごいですね。その他、気に入っている点はありますか？

A. そうですね、この街は気候も温暖で、海に囲まれていますので、野菜や海産物は新鮮な地のものが安く手に入ります。お魚はすごく新鮮です。脂ののった天然マグロがすごく安く手に入るんで、子どもたちも喜んでよく食べています。それからお肉も美味しいですよ。地元にはブランド牛もありますし、牛、豚、鶏なんでも安いし美味しいです。

Q. 休日はどんな過ごされ方をしているのですか？

A. 先ほど言った近くの公園で、バーベキューをしたり、パパは釣りをしたりしていますね。あと、車で1時間位のところに、いろいろと楽しめるレジャースポットがあるんですね。例えば、イチゴ狩りとかサツマイモ堀りとか、みかん狩りとかが楽しめる大きな農園がありまして、山に登ってハイキングを楽しんでいます。山頂からは富士山や伊豆半島、房総半島なんかも見えるんですよ。あとすごくきれいな海岸もあって、夕日がきれいなんですよ。身近に自然を感じられるのがこの街の魅力ですね。

Q. 色々遊べるスポットが多いですね。

A. あとは、この街は歴史がありますから、歴史にかかわる資料館や施設がいっぱいあるんですね。休日はそういうところを散策したりもしています。それから、日帰り温泉もあるので、ハイキングの後に寄ることもあります。

Q. その他、この街の魅力はありますか？

A. そうですね。この街はすごく子育て支援に力を入れているなと感じています。保育園が多いので、隣の市に比べても待機児童が少なくて入りやすいんですよね。子どもも多いですし、元気になりますよね。あとはやっぱり公園かな。大きな公園のほかにも、児童公園もたくさんありますから、子どもがのびのび遊べる環境は魅力ですよ。

06. 【Y市民】ビジネスパーソン 堀越さん



- Y市から都内の会社に通勤しているサラリーマン。
- Y市駅から徒歩10分のあるマンションに住んでいる。

Q. 市民の方にお話を伺っているのですが宜しいですか？

A. はい、どんなことでしょうか？

Q. 今、どちらにお住まいですか？

A. 住んでいる場所ですか。あの、ここから10分くらいのマンションに住んでいるんですけど。

Q. マンションの住み心地はいかがですか？

A. 気にいってますね。駅に近いマンションだとどこも家賃は高いかなと思いますけど、横浜のマンションに比べると、同じ値段でも結構広い部屋に住めるかなと思います。隣の駅のマンションだとずいぶん価格が下がるんじゃないかなと思いますね。

Q. 最近駅周辺にタワーマンションもできているようですね。

A. そうですね。駅前にも新築のタワーマンションができていますし、そこは富裕層向けですかね。市内に住んでいた方が、結構住み替える方が多いんじゃないかなと思いますけど。まあ、タワーマンションは魅力的ではありますが、僕はちょっと地震とかが不安ですね。

Q. 一戸建て住宅なども多いですか？

A. はい、戸建ての住宅はですね、たくさんありますね。この街は周りを海に囲まれているから、急斜面なところが多いんですよ。なので、住宅地は高台に多いですね。少し南のほうの海岸、あっちのほうはですね、平地になっていて、そこにも埋め立てで作られた土地も結構あってですね、住宅地が結構広がっています。そこは高級住宅地っていう感じですけどね。

Q. 生活するのに車は必要ですか？

A. そうですね・・・車は、駅周辺に住む、生活するのであれば必要ないかと思うんですけど、ただ、先ほども申しあげたように、この街は急な坂が多いので、駅から少し離れたところとか、高台に住む場合が結構多いんですね、そういう場合は車が必要になるかもしれないですね。また、近隣にショッピングモールもできていますので、そういうところで買い物をするときには、車が必要になるかもしれないですね。

Q. 通勤はいかがですか？

A. 通勤ですか。通勤はそんなに不便は感じないですよ。この駅からだと特急で30分で横浜まで行きますし、品川までも50分で着きます。特急に乗ればそんなに時間はかからないと思います。私は勤務先が田町ですから、品川で乗り換えて一駅です。ドアツードアでここから1時間30分くらいなので、そんなに不便には感じないですね。

Q. 通勤ラッシュはどうですか？

A. そうですね・・・時間帯によっては結構混む感じかなと思いますけど・・・横浜に到着する頃には相当混んでいますね・・・ギューギューのときも結構ありますね。特に品川に8時～9時台に着く電車だと結構混雑はしていると思います。でも、朝はすごくたくさん電車が走っていますので、時間帯によっては、空いているときもあります。乗る電車をうまく工夫すれば意外に混雑にあわない可能性もありますし。あ、でも、朝のラッシュ時は結構遅延しますね・・・だから私は余裕を持って家を出るようにしています。

07.【Y 市民】 I Tベンチャー経営者 斉木さん



- スマートフォンアプリを開発するベンチャー経営者。
- Y市出身。現在、Y市で空き家を借りて開発拠点にしている。

Q. 今日はお忙しいところありがとうございます。現在、Y市の住宅事情について調べていまして少しお話をお伺いできればと思います。宜しくお願いします。

A. はい、宜しくお願いします。

Q. お仕事は何をされているのですか？

A. 私はもともとは IT システムの会社に勤めていたんですけどね、結構大きい会社だったんですけども、今は独立してスマートフォン向けのカジュアルゲームを中心としたアプリの開発をする IT 企業を経営しています。本社は東京の渋谷にありまして、今創業 4 期目なんですけど、去年の 7 月から Y 市の谷戸地区の空き家を借りまして、そこを開発拠点にしています。

Q. なぜこの谷戸地区を開発拠点にしているのですか？

A. もともと、実は私、この Y 市の出身でして、この地域に、実はこの辺に住んでたんですね。親はもう足腰が悪くなっちゃったんで、この地区を出て Y 市の別のエリアに住んでいるんですけども、元々実家はこのへんなんです。最近、Y 市が人口が減ってるとか、特にこのあたりは空き家が増えているとかで、色々元気がないっていう話を聞いていたんで、なんか地元貢献したいなっていう思いもありましてね。市がやっている「空き家バンク」の制度があるんですけど、それを利用して、今の開発拠点、オフィスを借りました。幸い、アプリの開発は場所を選ばないですから、ベンチャー企業が空き家を利用すれば、この地域の活性化にもつながるかなと、まあ、そんな思いで借りています。

Q. なるほど、家賃はどれくらいなのですか？

A. 今の場所は月 7 万弱ですね。床面積も 100 平米ありますね、だから 30 坪くらいかな、もう十分な広さですよ。

Q. ここでの仕事はいかがですか？

A. 先ほども言ったようにアプリ開発は場所を選びませんので、どこでもできます。ここはご覧のように静かですね、鳥のさえずりなんかも聞こえますし、すごく涼しいですから、すごく仕事ははかどるんですよ。自然も豊かですし、下のほうは海も広がってますし、眺めもすごくいいんです。本当に最高ですよ。

Q. でも結構階段が急だから行き来するのは大変じゃないですか？

A. まあ確かに上り下りはちょっと大変なこともありますけど、ずっとパソコンに向かっていると運動不足になりますから、健康には丁度良いですよ。

Q. 高齢の方にはきつそうですが・・・

A. まあね、ちょっと高齢の方にはきついかもしれないですね。この辺の住民の方もかなり高齢化が進んでいますのでね。おじいちゃん、おばあちゃんが生活するには大変かもしれないですね。買い物の宅配サービスとかありますけど、そういうのも利用できないケースとかもあるなんて聞きますし、買い物ができないから他の地域にいくなんてこともあるっていう話もあるようですよ。まあ私の場合は、運動がてら駅まで歩いて、駅前のコンビニで買い物したり、インターネット通販の宅配なんかもそこで受け取ってますけどね。

Q. 空き家が増えると治安も心配ですね。

A. まあ、確かにそういう面もありますけどね。でも地域の方同士のつながりは結構あるんですよ。この間も週末に近所の方と焼肉パーティーとかして交流しましたし、お互いに孤立しないようにする努力をすれば大丈夫じゃないかなと思っています。あとは市の「空き家バンク」の制度をもっと色々な人が利用して、人が住むようになればいいのかなと思います。私も、もう少し事業が軌道に乗れば、IT ベンチャーの経営者仲間もいっぱいいますから、彼らにも声をかけて、この地域を IT ベンチャー企業が集まる場所に出来たらなあなんていう風に考えているんです。さっきも申しあげましたように、眺めもいいですし、東京にもアクセスがいいですし、そんな点をアピールすればもっと若い世代を引き付けられるんじゃないかなって思っています。

08.【Y市民】F市に移住した元Y市民



吉田さん

- 以前Y市に住んでいたが、現在はF市に移住した。
- 都内に通勤しているサラリーマン。

Q. Y市の住宅事情について調査をしております。ご協力宜しくをお願いします。

A. はい、宜しくお願いします。

Q. もともとY市にお住まいだったのですか？

A. そうなんです。以前はY市に住んでいたのですが、3年前にF市に引っ越しました。

Q. 引越しをした理由は何でしょうか？

A. 元々私はY市の海岸地区に住んでいたんです。あのあたりは閑静な住宅街で住む環境としてはとてもよかったんです。でも、海沿いの多くが津波浸水想定区域に含まれているんですよね。なのでちょっと大きな地震が起こったときに不安だなということになりまして、移住することにしたんです。あと活断層もあってちょっと怖いなあということもありまして。

Q. なるほど。他に理由はありますか？

A. あと、Y市は、比較的坂が多い街でして、今はいいんですが、自分たちも歳をとったら、この坂を上り下りするの、結構大変そうだなあと、そんな話になりまして、それだったら、思い切って移住しちゃおうかと。そんな感じです。

Q. Y市の家はどうされたのですか？

A. Y市の家は戸建ての住宅だったんですが、まあ思い切って売ってしまいまして、その資金でF市に広めの新築マンションを購入しました。

Q. 思い切った決断ですね。

A. 最近 Y 市の地価が下がってしまして、その意味でも、今売っちゃったほうがいいのかなと。このまま待っていてさらに下がってしまったら嫌ですし。逆に F 市の土地の値段が上がってますから、不動産の価値を考えても、F 市に家を買ったほうが将来的にはいいのかなと。まあそんな計算もありまして。

Q. Y 市は人口も減っているようですね。

A. 元々住んでいる地域はさほどではなかったですが、Y 市は「谷戸地区」とか、結構空き家が増えていますから、なんとなく治安の面とかで今後大丈夫かなあ、という不安もありましたね。

Q. F 市に移住されていかがですか？

A. そうですね、Y 市に比べると大型の商業施設が近年いくつかオープンしまして、すごくにぎやかだなと感じます。Y 市の場合、ちょっとにぎやかさに欠けるかなという感じがします。駅前には商店街もありますが、ややレトロと言うか、昭和な感じと言うか。

Q. 通勤は便利になりましたか？

A. はい、とてもよくなりました。私の勤務先が新宿でして、新宿に出るとなると、今の F 市の方が新宿まで 1 本でいけるんですよ。その分、通勤時間が短くなるのも魅力でした。通勤はだいぶ楽になりましたね。まあ、F 市も海はあるんですが、海とか、山とか、自然環境の面では、Y 市のほうがいいかもなあ。でもやっぱり通勤は F 市のほうが便利ですね。その意味ではどっちもいいところがありますね。難しいところですね。



杉村さん

- 以前Y市に住んでいたが、現在はF市に移住した。
- 都内に通勤しているサラリーマン。

Q. Y市の住宅事情について調査をしております。ご協力宜しくをお願いします。

A. 宜しくお願い致します。

Q. 杉村さんは元々、最初からY市にお住まいだったのですか？

A. 元々はもうちょっと都会に住んでたんですけども、子どもがまだ小さかったこともあって、もう少し自然豊かな場所で育てたいなあと思ひまして、子どもふたりいるんですけど、長男が5歳のときに（Y市に）移住しました。確かに自然豊かですし、あとは海がきれいで、私サーフィンが趣味なのでとても気にしていました。あとは、街の雰囲気は異国情緒あふれる雰囲気で、その点も気にしていました。

Q. F市にはいつ移住したのですか？

A. 今から丁度1年前になりますね。

Q. Y市からF市に移住されたきっかけは何だったのでしょうか？

A. 一番大きなきっかけは、長男が中学受験を決めたことです。中学受験に際して、塾を探してみたんですけども、なかなかいい塾が見つかりませんで、地元の方にもお話を聞いてみたら、多くの方が地元の中学に進学されるということで、まあ、息子にとっては受験仲間がいて、いい塾に通うということがいいのかなと思ひまして移住を決めました。

Q. なるほど。他には何かありますか？

A. そうですね。（Y市は）もう少し楽しく買い物ができる街だったら良かったなと思ひますね。確かに商店街もありましたけれども、空き店舗も増えてきて、なかなか活気があるという感じでもなくなってきていましたし、まあ、駅前などは再開発が行われて、お店も増えたんですけども、全国どこでもあるようなお店がほとんどで、まあ、個性的というか、楽しく買い物ができるようなお店は少なかったように思ひます。なので、結局、横浜とか東京に出て買い物をしていたのでその点はちょっと不満でしたね。

Q. なるほど。では、F市に移住されていかがですか？

A. F市は、買い物はとても充実していると思いますね。海岸近くに大きなショッピングモールができておりまして、その中には映画館もありますし、個性的な雑貨屋さんやアパレルショップなども入っています。子どもたちも、うちの妻も、そこに行くと一日中そこで遊んでいるような状況でして、買い物も非常に楽しくなりました。

Q. 商業施設が充実しているんですね。

A. そうですね。あのショッピングモール以外にも、大規模な商業施設ができたりして、非常に買い物の環境は良いと思います。海岸沿いにも個性的なお店とか、オシャレなレストランとかもありまして、非常に楽しませて頂いています。

Q. 他にF市に移住してよかった点がありますか？

A. そうですね。私、個人で言えば、通勤ですね。実は、電車に乗っている時間や電車の混み具合はあまり変わらないんですけども、私、勤務地が新宿でして、これが一本で行けるようになったというのが大きいですね。Y市にいたときには品川で乗り換えなければいけなかったもので、やや煩雑ですし、電車もたまに遅延することがありましたので、その点は気になっていました。今は一本で電車に座っていけますので、非常に楽になりました。

Q. 都心へのアクセスが良いんですね。

A. そうですね。市内にJRを含めて6本も路線が走っていますので、通勤や通学には非常に便利な街だと思います。

Q. でも、自然環境はY市のほうが良かったのではないですか？

A. はい、確かに海のきれいさで言えば、Y市の方が良かったかなと思います。ただF市も大きな海岸がありまして、そこで砂浜遊びをしたりとか、私の趣味であるサーフィンもしたりとか、そういうことができますので、特に大きな不満はありません。あとはF市は公園が多くていいと思いましたね。水遊びができたり、アスレチックができたり、広い芝生があったり、様々な形で子どもと遊ぶことができ非常に満足しています。

Ⅱ．実施ガイド

4 協働的学習者育成プログラム

4-2 合意形成編

4-2-1 講師ガイド

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 - 講師ガイド

(1) タイムテーブル (100 分間)

時間	プログラム
10 分	1. 前回の振り返り 2. プログラム紹介
10 分	3. ウィーミングアップエクササイズ
60 分	4. 合意形成ケーススタディ「佐藤さん一家へのアドバイス」
10 分	5. 協働的学習者診断テスト(ポスト調査) →要回収
10 分	6. まとめ 7. 振り返りシートの記入→要回収

(2) プログラム実施前の準備

	資料名	必要数
スライド投影 の準備	投影スライド	－
映像教材 の投影準備	【映像】Y市への移住を考えている佐藤さんご夫妻	－
教材の印刷	(1) テキスト&ワークシート	1 人 1 部
	【ウォーミングアップエクササイズ】	1 グループ
	(2) 情報シート (3 種類)	3 種類×2 枚
	【ケーススタディ】	
	(3) 個人ワークシート ※A3 サイズで印刷	1 人 1 部
	(4) グループワーク	1 グループ 1 部
	(5) 協働的学習者診断シート(ポスト調査)	1 人 1 部
	(6) 振り返りシート	
	【インタビュー映像スクリプト】※必要に応じて配布 Y市への移住を考えている佐藤さんご夫妻	1 人 1 部
パソコン の準備	・映像教材を使用しますので、あらかじめパソコン に映像データをセットしておきます。	－

(3) プログラム実施上のポイント

時間	プログラム	実施上のポイントなど
10 分	1. 前回の振り返り	・ 教室の雰囲気づくりが大切です。少しリラックスした雰囲気がよろしいかと思います。 ・ 1-2 名を指名して、前回の感想などを尋ねた後、前回の内容を簡単に振り返ってください。 ・ ここで時間を使いすぎると、後のワークの時間が不足しますのでご注意ください。
	2. 本日のプログラム	・ 簡単にプログラムの流れをご説明ください。 ・ 「合意形成ケーススタディ」がメインであることをお伝えください。
10 分	3. ウォーミングアップエクササイズ	・ 各メンバーがいかに上手に情報・意見の共有を行い、1 つの結論を導くことができるかに挑戦するワークです。 ・ グループ毎に用意してある情報シート（A・B・C の 3 種類計 6 枚）をよくシャッフルして、メンバー 1 人 1 枚配布してください。 例） 5 人グループ → 残り 1 枚 6 人グループ → 残りなし ・ 演習時間は 5 分間です。 ・ 意見交換は口頭のみで行わせてください。お互いの情報シートを見せ合わせないでください。 ・ 全員の意見を統合して、「鈴木ママに対するアドバイス内容」を決めさせてください。 ・ アドバイス内容が決まったら挙手させてください。
		【合意形成のポイント解説】 ・ 演習を振り返りながら、合意形成のポイントを 2 点を解説してください。 ①意見の根拠を引き出す ②条件に優先順位を付ける
60 分	4. 合意形成ケーススタディ	【状況設定】 ・ 前回同様、受講者は、お客様から住宅や不動産に関する相談に応じる住まいのアドバイザーという設定です。 ・ 前回の情報共有編の演習で収集した Y 市の情報（良い所/改善点）をもとに、Y 市への移住を検討している佐藤さん一家へのアドバイスを検討することが課題です。
		【STEP①】情報収集～期待と懸念 ・ 受講者全員で Y 市への移住を検討している佐藤さんご夫妻へのインタビュー映像を視聴させます。 ・ 受講者には映像を見ながら、佐藤さんご夫妻が移住に対してどのような期待と懸念を抱いているかを付箋に書き出させてください。 ・ この際、1 つの付箋には 1 つの点のみ記入させる

時間	プログラム	実施上のポイントなど
		ように指示してください。 - 書き出した付箋は個人用ワークシート（A3）に貼らせてください。 - 佐藤さんご夫妻のインタビュー情報を付箋に書き出させる際には、勝手な解釈はせず、正確に情報を記載するよう指示してください。 【STEP②】情報整理～期待と懸念 - 各人が付箋を書き出したら、その情報をグループ内で共有させながら、改めてグループ用の模造紙にご夫妻の期待と懸念を整理させてください。 【STEP③】情報分析～重要な点の絞り込み - 模造紙に整理したご夫妻の期待と懸念のうち、ご夫妻が特に重視していると考えられる点を○で囲ませて下さい。 【STEP④】合意形成～アドバイス内容の決定 - これまで収集・整理した①Y市の良い点・改善点と②ご夫妻の期待と懸念を踏まえて、住まいのアドバイザーとして佐藤さん一家に最終的にどのようなアドバイスをするのか（移住するか・否か）を決めさせて下さい。 - グループ内で合意形成をする際には ①意見の根拠を明確にすること ②条件に優先順位を付けること を意識して行うよう指示してください。 【発表】 - 発表時間が限られていますので、発表は（出来のよい）2グループ程度でよろしいかと思います。 2-3名に演習を通じて気づいた点などを尋ねてください。 【ケーススタディの振り返り】 - ケーススタディ（演習）を通じて以下のようなことを少しでも実感できたら、本日のプログラムは成功だとお伝えください。 - Y市への移住の有無を意思決定する際に、しっかり根拠をもって説明することができた - 佐藤さんご夫妻の期待や懸念に優先順位を付け、Y市への移住の有無についての結論を導くことができた
10分	5. 協働的学習者診断テスト（ポスト調査） ※要回収	- プレ調査と同内容の診断テストに回答するようご指示ください。 - 回答後、回収してください。
10分	6. まとめ	- 協働的学習者の定義を復習した上で、以下の点をお伝えください。 - 本日は、演習を通して、明確な根拠と優先すべき条件を踏まえて最終的な意思決定をすることの大切さを学習した。

時間	プログラム	実施上のポイントなど
		- 現実社会の問題は複雑であり、問題解決のためには、皆で協働して数多くの情報を収集するとともに多様な観点から解決策を検討し、合意形成することが大切である。
	7. 振り返りシートの記入 ※要回収	・ 振り返りシートの記入時間をできるだけ長く確保することが、本プログラムの効果を高めることにつながります。 ・ 振り返りシートを回収ください。


産業能率大学

協働的学習者
育成プログラム
- 合意形成編 -



本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育関係者共創プログラム（AP）」（平成28年度選定）における協働教育の一環で開発しました。

【授業進行上のポイント】

- 今回実施するプログラムは、「情報共有編」と「合意形成編」の2つでセットになっていること、また、高校での探究学習を進めるうえで基本となる要素が詰まっているプログラムだということを最初に伝えてください。

【グループ分け】

- このプログラムは全てグループワーク形式で実施します。
- 原則として前回と同じグループで実施してください。

【配布資料】

- 「協働的学習者育成プログラム－合意形成編－生徒用テキスト」


産業能率大学

前回の振り返り

【授業進行上のポイント】

- 前回実施した「協働的学習者育成プログラム－情報共有編」の振り返りからはじめます。
- 最初に何人かの生徒を指名して、前回のプログラムでどのようなことを行ったかを探るなどしながら、振り返りを行ってください。
- 前回同様、和やかな雰囲気を出すためにも生徒の発言を引き出しながら進めてください。
- 前回との間に時間がたっている場合は少しだけ時間をかけて行ってください。
- 但し、ここで時間を使いすぎると後半のグループワークの時間が足りなくなりますのでご注意ください。

【説明例】

- 今日は、「合意形成編」のプログラムを実施しますが、最初に前回の振り返りをしてから進めましょう。
- 前回、どのような内容のことを実施したか、覚えていますか？○○さんはいかがですか？

はじめに・・・

Question

いま社会が求めている
人材とは？

社会が求めている人材とは？

【選考時に重視する要素】

コミュニケーション能力：15年連続1位

主体性：9年連続第2位

年	コミュニケーション能力	主体性	チャレンジ精神	協同性
2001	82.0	44.8	49.5	51.6
2002	82.0	44.8	49.5	51.6
2003	82.0	44.8	49.5	51.6
2004	82.0	44.8	49.5	51.6
2005	82.0	44.8	49.5	51.6
2006	82.0	44.8	49.5	51.6
2007	82.0	44.8	49.5	51.6
2008	82.0	44.8	49.5	51.6
2009	82.0	44.8	49.5	51.6
2010	82.0	44.8	49.5	51.6
2011	82.0	44.8	49.5	51.6
2012	82.0	44.8	49.5	51.6
2013	82.0	44.8	49.5	51.6
2014	82.0	44.8	49.5	51.6
2015	82.0	44.8	49.5	51.6
2016	82.0	44.8	49.5	51.6
2017	82.0	44.8	49.5	51.6
2018	82.0	44.8	49.5	51.6

出典：一般社団法人 日本経団連 新卒採用に関するアンケート調査結果
http://www.keidanen.or.jp/syosetu/2019/06/01/

- 【授業進行上のポイント】
- 前回の振り返りを簡単に行う。
- 【説明例】
- 前回、冒頭で「いま社会でどのような人材が求められているのか」について確認しました。

- 【授業進行上のポイント】
- 前回の振り返りを簡単に行う。
- 【説明例】
- 前回、企業などの組織が求めている人材の能力要素に関する調査として、日本経団連が行っている調査を紹介しました。
 - この調査は毎年行われているもので、企業が、新卒採用の選考時にどのような要素を重視しているか、を調べたものでした。
 - この調査によれば、企業は新卒採用の選考時に「コミュニケーション能力」を最も重視していることが明らかにされています。
 - また、このグラフの通り、「コミュニケーション能力」は継続して1位となっており、企業が新卒の選考時に非常に重視している能力であることがうかがえます。
 - また、「主体性」も継続して2位となっており、企業が新卒の選考時に非常に重視している能力であることがうかがえます。

いま社会が求めている人材 【入社時に求められる資質】 ・ 自ら考え行動することができる ・ 仕事におけるコミュニケーション能力にたけている ・ 失敗や困難があってもやり遂げようとする意思が強い ➡ 【キーワード】 ① 主体性 ② 協働力 ③ やり抜く力 ※労働政策研究・研修機構 2012「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」をもとに作成

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- 企業が入社時に求めている資質をキーワードで示したものが、①主体性②協働力③やり抜く力でした。
- 企業等の組織に評価され、社会で活躍していくためには、人から言われて動くのではなく、自ら考えて行動する「主体性」と、仕事で成果を出すために周囲の関係者とコミュニケーションをとって「協働」する力、そして最後まで諦めず「やり抜く力」の3つの資質が非常に重要だということを前回説明しました。

本プログラムの目的 【社会人】 仕事における コミュニケーション能力にたけている 【学生】 協働的学習者になる 協働して学習に臨むことができる人を 協働的学習者と定義します。
--

【授業進行上のポイント】

- 前回の振り返りを簡単に行う。

【説明例】

- 社会で活躍するためには、社会人になる段階で、様々な他者と協働しながら、課題解決ができる状態になっておくことが必要ですが、ある日突然こうしたことができる人材になれるわけではない、ということも前回説明しました。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても他者と協働して学習する経験を積み重ね、「協働的学習者」になっておくことが必要となります。

本プログラムの概要	
協働的学習者 多様な価値観や背景をもつ人々と ① 関係を構築する力 ② 支援・援助する力 ③ 情報や考えを共有する力 → 情報共有編 ④ 合意形成する力 → 合意形成編 前回	

【授業進行上のポイント】

- 「協働的学習者」に求められる能力のうち、前回のプログラム（情報共有編）と今回実施するプログラム（合意形成編）が扱う範囲について説明してください。

【説明例】

- 「協働的学習者」に求められる能力のうち、前回実施した「情報共有編」のプログラムでは、特に「③情報や考えを共有する力」について扱いました。
- 今日実施する「合意形成編」では「④合意形成する力」について扱っていきます。

情報共有ケーススタディ	
【状況設定】 1. みなさんは、お客様から住宅や不動産に関するご相談に応じる住まいのアドバイザーです。 2. 今回、Y市への移住を検討している佐藤さん一家から相談を受けました。 3. そこで、佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを 行うため、仲間と協働して、Y市の現状について 情報収集・整理・共有しました。	

【授業進行上のポイント】

- 前回実施したケーススタディの状況設定を振り返ります。

【説明例】

- 前回のプログラムではケーススタディを実施しました。
- 皆さんの役割は、お客様からの住まいに関するご相談に応じる「住まいのアドバイザー」でした。
- 前回のプログラムでは、Y市への移住を検討している佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集をしました。

プログラムの構成

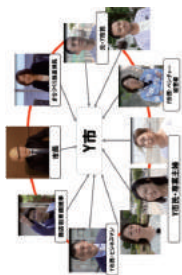
[回前](#)

情報共有編

合意形成編

Y市の現状を 把握する

アドバース内容を
検討する



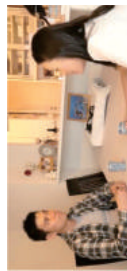
(1) Y市の関係者にインタビュー
→ 情報収集・整理

↑情報収集・整理・共有

↑情報収集・整理・共有

(2) 改めて佐藤さん夫婦から話を聞いた上で、
(3) アドバイス内容を検討
→ 合意形成

合意形成



前回の振り返り

【情報共有のポイント】

⌊

情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

2

**関連する情報を
適切なタイミングで発信する。**

【授業進行上のポイント】

- 前回行った「情報共有編」の成果を土台にしながら今回の「合意形成編」を進めます。
- 前回のワークとの関連性と違いをここで説明してください。

【説明例】

- 前回の「情報共有編」ではインタビュー形式の動画を視聴しながらY市の現状を把握しました。
- 今回の「合意形成編」のプログラムでは、収集した情報をもとに、グループで、佐藤さん一家に対するアドバイス（Y市に移住すべきか否かのアドバイス）をするところまで行きます。

【授業進行上のポイント】

- 前回学んだ「情報共有」のポイントを振り返ります。

【説明例】

- 前回のプログラムでは、収集した情報を共有する際のポイントについても学びました。
 - 「情報共有」はただ漠然と進めてもあまり効果的ではなく、
 - ① 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
 - ② 情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。
- という2つのポイントを踏まえて実施することが大切であると説明しました。
- このポイントは今日のグループディスカッションの際にも、意識するようにしてください。

本日のプログラム

本日のプログラム		
【協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 - 】		
時間	項目	概要
10分	前回の振り返り	いま社会が求めている人材は？ 協働的学習者とは？ 情報共有のポイント
10分	ウォーミングアップ エクササイズ	合意形成の力を試してみる！
60分	合意形成 ケーススタディ	ケーススタディ 「佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する」
10分	診断テスト	協働的学習者診断テスト
10分	本日のまとめ	全体振り返り 振り返りシート記入

【説明例】

- それでは本日のプログラムに入りましょう。

【授業進行上のポイント】

- 本日実施している「合意形成編」プログラムの構成です。
- 大きく5つの項目に分かれています。最も重要なワークは、ケーススタディ「佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する」にあることを伝えてください。

【説明例】

- 「協働的学習者」に求められる力のうち、今回は、「合意形成する力」について学んでいきます。
- このプログラムの流れに沿って学習を進めていきます。
- 特に「佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する」というケーススタディで「様々な情報を踏まえ、最終的な結論を導き、皆で合意形成する」プロセスを体験していきます。

オープニング エクササイズ

各メンバーがいかに上手に情報・意見の共有を
行い、**1つの結論**を導くことができるかに挑戦す
るワークです。

合意形成 体験ワーク

【状況設定】

- 鈴木家は、先日「**お父さん用の自転車を購入するか**」
について家族会議を開きましたが、結論が出ず、困
った鈴木家の母は、あなたを含むママ友5人に相談し
ました。
- そこで、あなたは、他のママ友と話し合い、鈴木ママ
にアドバイスしてあげることになりました。

**全員の意見を統合して、鈴木ママに対する
アドバイス内容を決めてください。**

- 【授業進行上のポイント】**
 - オープニングエクササイズは、ケーススタディ「佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する」をよりよく進めるためのアイスブレイクとして位置づけています。

【説明例】
 - ケーススタディを実施する前に、これからオープニングエクササイズを実施します。
 - 各メンバーがいかに上手に情報・意見の共有を行い、1つの結論を導くことができるかに挑戦する演習です。

【配布資料】
 - 合意形成エクササイズ_情報シート（A4）
→情報シートはA・B・Cの3種類があります

- 【授業進行上のポイント】**
 - 演習の設定を説明してください。

【説明例】
 - これから配布した情報シートの内容を踏まえ、最終的なアドバイス内容について合意形成する演習を行います。
 - 演習の設定はこのスライドに書かれている通りです。
- 鈴木家は、先日「お父さん用の自転車を購入するか」について家族会議を開きました
が、結論が出ず、困った鈴木家の母は、あなたを含むママ友5人に相談しました。
 - そこで、あなたは、他のママ友と話し合い、鈴木ママにアドバイスしてあげること
にしました。
 - 全員の意見を統合して、「鈴木ママに対するアドバイス内容」を決めてください。
 - アドバイス内容が決まったら挙手してください。

合意形成 体験ワーク
【演習の進め方】 1. グループ毎に用意してある情報シート(計6枚)は指示があるまで裏返しにしておいてください。 2. 情報シートをよくシャッフルして、メンバー1人1枚配布してください。 例) 5人グループ → 余り1枚 6人グループ → 余りなし 3. 演習時間は5分間です。 4. 意見交換は口頭のみで行ってください。 お互いの情報シートを見せ合ってはいけません。 5. アドバイス内容が決まったら挙手してください。

合意形成 体験ワーク
【失敗例】 1. 時間切れ : 結論に至らない 2. 多数決 : 合意に至るプロセスを割愛している 3. 結論ありき : 結論を決めて理由を後付け 4. 議論不活性 : 意見の言い足りていない人がある 5. 不完全合意 : 結論に反対ではないが心から賛成していないわけではない人がある

【授業進行上のポイント】

- 演習の進め方を説明してください。
- 意見交換は口頭のみで行わせてください。
- お互いの情報シートを見せ合わないでください。

【説明例】

- これから情報シートをグループに配布します。
- 情報シートはA・B・Cの3種類計6枚あります。
- 情報シートをよくシャッフルし、グループ内で1人1枚ずつ受け取ってください。
 - ・5人グループの場合は情報シートが1枚余ります。
 - ・6人グループの場合は情報シートは余りません。

【授業進行上のポイント】

- スライドにあるような内容に注意しながら進めるように伝えてください。合意形成に与っては不可欠な点です。

【説明例】

- では、これから演習を行います。
- グループで情報を共有しながら、最終的な結論を導き出し、皆で合意形成をする際には、このスライドに書かれているような状態にならないよう注意してください。
- 結論に至らず、時間切れになってしまうったり、途中で話し合いをやめ、多数決で決めるようだったり、最初から結論を決めて、理由を後付けしたり、グループの中で意見を言っていない人があるのに、その人の意見を確認しないまま結論を出してしまったり、結論に対して少し疑問を持っている人があるのに、その人の考えを十分吟味しないまま、決定しようとししないでください。

振り返り

振り返り

【授業進行上のポイント】

- 合意形成のポイントを踏まえ、議論ができたかどうか振り返ってください。

【説明例】

- 今の演習プロセスを振り返りをしましょう。

振り返り

【合意形成のポイント】

1

意見の根拠を引き出す。

WHY?

ぜひお父さんに
自転車買ってあ
げようよ！

運動不足解消の
ため、自転車に
乗りたいんだっ
て。

[意見]

[根拠]

【説明例】

- 合意形成の1つ目のポイントは「意見の根拠を引き出す」です。
- 例えば、このスライドのように、話し合いの際に自分の意見を述べるときには、必ずその根拠も合わせて述べることで、皆の考えの共有が進み、合意形成を図ることができます。

振り返り

【合意形成のポイント】

2

条件に優先順位をつける。

毎晩帰りが遅く、自転車を使用するのは休日に限られる。

ロードバイクはかなり高額で、家計を圧迫するおそれがある。

共同駐輪場は不足気味で、空きが出ると希望者の間で抽選が行われる。

【使用頻度】
優先度 1

【支出額】
優先度 3

【駐輪場】
優先度 2

振り返り

【合意形成のポイント】

1

意見の根拠を引き出す。

2

条件に優先順位をつける。

この点を意識して次のワークに臨んでください！

【説明例】

- また、最終的な案を導き出す際には、考慮すべき様々な条件を洗い出したうえで相互に比較し、どの条件を優先すべきかを決める必要があります。

【説明例】

- ただ漠然と話し合いを進めても、物事が決まらない可能性があります。
- 皆で話し合い、合意形成に至るためには、この2つのポイントが大切です。

① 意見の根拠を引き出す。

② 条件に優先順位をつける。

- この2つのポイントを意識して、このあとのケーススタディに取り組みましょう。

	合意形成 ケーススタディ

	再確認 【状況設定】 1. みなさんは、お客様から住宅や不動産に関するご相談に応じる住まいのアドバイザーです。 2. 今回、Y市への移住を検討している佐藤さん一家から相談を受けました。 3. そこで、佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを 行うため、仲間と協働して、Y市の現状について 情報収集・整理・共有しました。

【授業進行上のポイント】 ● これから今日のメインのワークであるケーススタディを行うことを伝えてください。 ● オープニングクイズを含め、ここまで学習してきたことを意識しながら進めるように伝えてください。 ● このケーススタディは以下の内容で進めます。	① 状況設定の説明 ② 映像の視聴 ～佐藤さん夫婦の会話の映像を視聴し、メモを取る ③ グループワークの実施／情報収集 ～映像の中で語られていた情報をもとに、夫婦の「期待」と「懸念」を抽出し、模造紙を使って整理する ④ グループワークの実施／情報分析 ～夫婦が重要だと感じている「期待」と「懸念」を分析し、特に重視しているものを絞り込む ⑤ グループワークの実施／合意形成 ～分析結果を踏まえ、佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する ⑥ 発表 ～活発だったグループを指名してグループワークの結果を発表する (2～3グループ程度)
【説明例】 ● これから、前回の続きのケーススタディを行います。 ● ここまで学習してきたことを意識しながらケーススタディに取り組んでください。	

【授業進行上のポイント】 ① 状況設定の説明 ● ケーススタディの状況設定をもう一度確認してください。	● 皆さんの役割は、お客様からの住まいに関するご相談に応じる「住まいのアドバイザー」でした。 ● 前回のプログラムでは、Y市への移住を検討している佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集をしました。
【説明例】 ● 皆さんの役割は、お客様からの住まいに関するご相談に応じる「住まいのアドバイザー」でした。 ● 前回のプログラムでは、Y市への移住を検討している佐藤さん一家に対して適切なアドバイスを行うため、仲間と協働して、Y市の現状について情報収集をしました。	



【授業進行上のポイント】

- ① 状況設定の説明
- 今回のケーススタディの位置づけを説明してください。

【説明例】

- 今回は、最初に佐藤さん夫婦が移住について話し合っている映像を視聴し、移住に関する佐藤さん一家の考えを探ります。
- そのうえで、前回のワークで収集したY市の情報と照らし合わせて、佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討していきます。

合意形成ケーススタディ

【STEP①】情報収集 ～期待と懸念

Y市への移住を検討している佐藤さんご夫妻にインタビューをしてきました。

- 父:41歳, 会社員 母:36歳, 専業主婦
- 子ども:3人(長女5歳、次女3歳、長男1歳)

① 状況設定の説明

- アドバイスを求めてきた家族（佐藤さん一家）の状況をもう一度説明してください。

【説明例】

- 前回説明したように、佐藤さん一家は、このスライドに書かれているような家族構成です。
- 父 41歳, 会社員
- 母 36歳, 専業主婦
- 子ども3人（長女5歳、次女3歳、長男1歳）

合意形成ケーススタディ

【STEP①】情報収集 ～期待と懸念

これから全員でインタビュー映像を見てもらいます。映像を見ながら、Y市への移住に関してご主人と奥様がどのような**期待**と**懸念**を抱いているか付箋に書き出してください。

黄色

→期待している点

ピンク

→懸念している点

※1枚の付箋には1つの情報のみ記入してください。

合意形成ケーススタディ

【STEP①】情報収集 ～期待と懸念

映像を見ながら

付箋に書き出す

【個人ワークシート】

期待

懸念

【授業進行上のポイント】

- ② 映像の視聴 ～佐藤さん夫婦の会話を視聴し、メモを取る
- 個人ワークシート、付箋、ペンを配布してください。
 - インタビュー動画を視聴しながら佐藤さん夫婦のうち、夫と妻のそれぞれの考え、また二人の考え方の違いなどを「期待」と「懸念」という観点から付箋に書き出しながら整理していきます。
 - 動画の視聴に当たっては前回同様、勝手な解釈をするのではなく正確な情報収集を意識して進めるように伝えてください。

【説明例】

- それでは、これから全員で佐藤さん夫婦が移住について話合っている映像を見てもらいます。
- 映像を見ながら、Y市への移住に関してご主人と奥様がどのような「期待」と「懸念」を抱いているか付箋に書き出してください。
- なお、黄色の付箋には「期待している点」、ピンクの付箋には「懸念している点」を記入してください。

【配布資料】

- 合意形成_個人ワークシート (A3)
- 付箋 (黄色／ピンク色)
- ペン

【説明例】

- 付箋に情報を書き出し、ワークシートに貼り付けるイメージはこのスライドの通りです。

合意形成ケーススタディ

【STEP①】情報収集 ～期待と懸念

映像を見ながら 付箋に書き出す

1

【情報共有のポイント】
情報を正確に把握する。
勝手な解釈をしない。

【説明例】

- なお、佐藤さん夫妻の映像から得られた情報を付箋に記入する際には、前回のプログラム
ラムの時に説明したポイント「情報を正確に把握する」「勝手な解釈をしない」を意
識して進めるようにしてください。

映像視聴

合意形成ケーススタディ

【STEP②】 情報整理 ～期待と懸念

各人が記入した付箋を模造紙に移動しながら、ご夫婦の期待と懸念を整理してください。

期待

懸念

【授業進行上のポイント】

- ③ グループワークの実施／情報収集
- 各自がメモした夫婦の「期待」と「懸念」を共有し、模造紙を使って整理させていきます。

【説明例】

- それでは次に、それぞれ個人で記入した付箋をグループ内で共有しながら、模造紙に佐藤さん夫婦の「期待」と「懸念」を整理してください。

【配布資料】

- ケーススタディ_グループ用ワークシート（模造紙）
- 付箋
- ペン

合意形成ケーススタディ

【STEP③】 情報分析 ～重要な点の絞り込み

ご夫婦が特に重視していると考えられる点を○で囲んでください。

期待

懸念

【授業進行上のポイント】

- ④ グループワークの実施／情報分析
- 夫婦が重要だと感じている「期待」と「懸念」を分析し、特に重視していると考えられるものを絞り込めます。

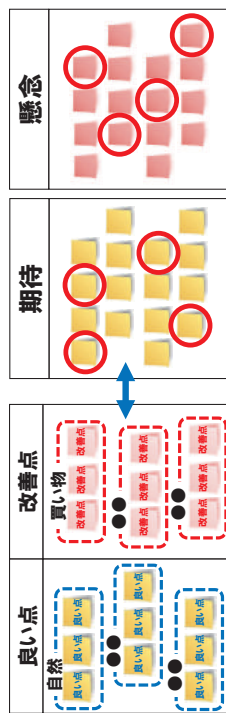
【説明例】

- 模造紙に「期待」と「懸念」の付箋が整理できたら、今度は、その中から、特にご夫婦が重視していると考えられるもの（特に期待していること、また、特に心配に思っていること）を特定していきます。
- 「期待」や「懸念」の中には、ご主人と奥様で共通するものもあれば、それぞれ異なるものもあるかと思います。
- そうした点も踏まえ、このご夫婦が意思決定をするうえで重要だと考えられる点を絞り込み、○で囲んでみてください。

合意形成ケーススタディ

【STEP4】合意形成～アドバース内容の決定

これまで情報収集・整理した(1)Y市の良い点・改善点として
(2)期待と懸念を踏まえて、住まいのアドバイザーとして
佐藤さん一家にどのようなアドバイスを行うか決めてください。



【授業進行上のポイント】

- ⑤ グループワークの実施／合意形成
- 前回収集した情報と佐藤さん夫婦の期待と懸念を照合せながら、佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討します。
- 前回の「情報収集編」で整理した模造紙と今回の模造紙を使いながらさらにアドバイスに向けた検討を進めさせてください。

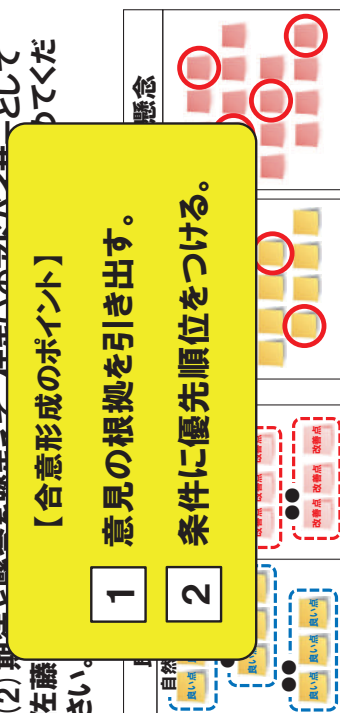
【説明例】

- 佐藤さん夫妻が意思決定をするうえで重要だと考えている点と、前回整理した市の「良い点」「改善点」の情報を照らし合わせて、住まいのアドバイザーとして佐藤さん一家にどのようなアドバイスを行うかグループで話し合ってください。

合意形成ケーススタディ

【STEP4】合意形成～アドバース内容の決定

佐藤さん。【合意形成のポイント】



【説明例】

- なお、最終的なアドバイス内容を検討するには、なぜ、そのアドバイス内容にするのか、必ず「根拠」を考えるようにしてください。
- また、Y市への移住の是非を考えるうえで考慮すべき様々な条件のうち、特にどの条件を優先して決めるべきかも話し合うようにしてください。

【STEP 2-3】情報整理・分析

グループ番号

メンバー氏名

期待	懸念

【STEP 4】合意形成 → アドバイス内容の決定

Y市の良い点・改善点と、佐藤さんご夫妻の期待と懸念（重視する点）を整理すると、佐藤さん一家は…（どちらかに○をつける）

A：Y市に移住すべき　・　B：Y市に移住しないほうがいい

意思決定の理由は？

発表

【授業進行上のポイント】

- ⑥ 発表 → 活発だったグループを指名してグループワークの結果を発表する（2～3グループ程度）。
- グループワークの進捗状況にもよりますが、時間があれば、いくつかのグループを指名して発表をさせてください。

【説明例】

- それではいくつかのグループに発表してもらいましょう。
- 佐藤さん一家はY市に移住すべきか、否か、またその理由を発表してください。

【授業進行上のポイント】

- ⑤ グループワークの実施／合意形成
- 模造紙に最終的なアドバイス内容（A：Y市に移住すべき／B：Y市に移住しないほうがいい）とその根拠を記入させてください。
- 必ず、佐藤さん一家が移住すべきかどうかの結論を出すこと、またその意思決定の理由を考えながら進めるように伝えてください。
- この際、心理学でいう「現状維持バイアス」が働き、「移住しない」意思決定をするグループが多くなる傾向が見られるため、あまりにも偏った意思決定がなされる場合は、個別にアドバイスを行って違う意思決定の可能性について話をさせてみるとよいかもしれません。

【説明例】

- 最終的なアドバイス内容（A：Y市に移住すべき／B：Y市に移住しないほうがいい）が決まったら、模造紙にその内容を記入してください。

【配布資料】

- ケーススタディ_グループ用ワークシート（模造紙）

演習を通して 気づいたこと, 感じたこと

【授業進行上のポイント】

- 今回の演習を通してどのようなことに気づいたか、どのようなことを感じたか、何人かの生徒にコメントさせてください。

【説明例】

- 今回の演習を通してどのようなことに気づきましたか？どのようなことを感じましたか？○○さんいかがですか？

協働的学習者 診断テスト②

本プログラムによってどのような変化が起こった
でしょうか。自己診断してみましょう！

【授業進行上のポイント】

- 最後に「振り返りシート」と「協働的学習者診断テスト」を配布してください。
- 「振り返りシート」を記入する時間はできるだけ長く確保してください。
本プログラムの効果を高める点でも重要です。

【説明例】

- 最後に、2回のプログラムを通して、皆さんの意識がどの程度変化したか、確認するため、前回実施した自己診断テストをもう一度実施します。
- あまり深く考えずに、感覚的に回答してください。
- 自己診断テストへの解答が終わったら、「振り返りシート」を記入してください。

【配布資料】

- 「協働的学習者診断テスト」
- 「振り返りシート」

全体のまとめ

【授業進行上のポイント】

- 前回の「情報共有編」と今回の「合意形成編」を振り返りながらスライドに従って全体のまとめを行ってください。

【説明例】

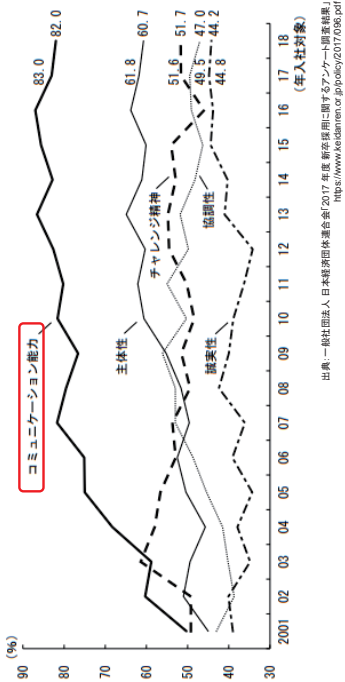
- それでは、2回にわたって実施してきた「協働的学習者育成」プログラムの全体のとめをしていきましょう。

社会が求めている人材とは？

【選考時に重視する要素】

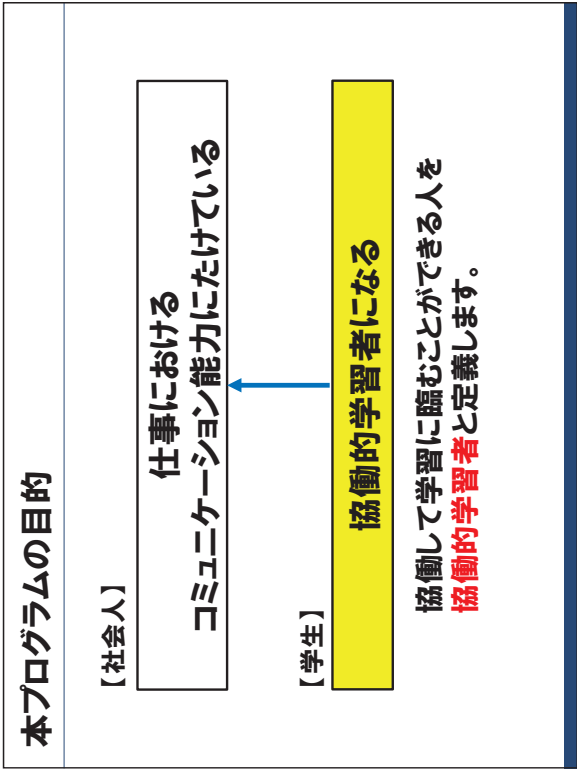
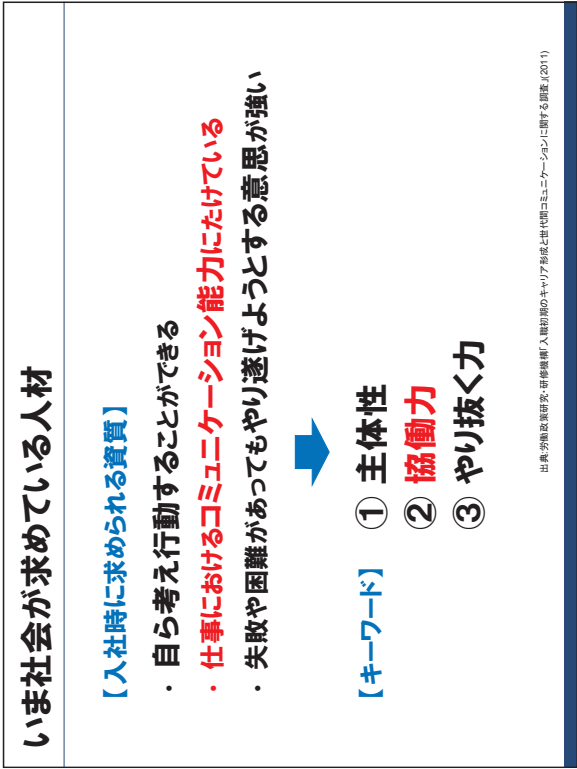
コミュニケーション能力：15年連続1位

主体性：9年連続第2位



【説明例】

- 日本経団連の調査によれば、企業は新卒採用の選考時に「コミュニケーション能力」を最も重視していることを説明しました。



【説明例】

- 企業が入社時に求めている資質をキーワードで示したものが、①主体性②協働性③やり抜く力でした。
- 企業等の組織に評価され、社会で活躍していくためには、人から言われて動くのではなく、自ら考えて行動する「主体性」と、仕事で成果を出すために周囲の関係者とコミュニケーションをとって「協働」する力、そして最後まで諦めず「やり抜く力」の3つの資質が非常に重要だということを説明しました。
- 「協働的学習者育成」プログラムでは、その中でも、「協働性」に焦点を当てて学んできました。

【説明例】

- 社会で活躍するためには、社会人になる段階で、様々な他者と協働しながら、課題解決ができる状態になっておくことが必要ですが、ある日突然こうしたことができる人材になれるわけではありません。
- こうした人材になるためには、高校や大学での学習においても他者と協働して学習する経験を積み重ね、「協働的学習者」になっておくことが必要となります。

本プログラムの概要	
協働的学習者	
多様な価値観や背景をもつ人々と	
① 関係を構築する力	
② 支援・援助する力	
③ 情報や考えを共有する力	→ 情報共有編
④ 合意形成する力	→ 合意形成編

第1回の振り返り	
【情報共有のポイント】	
1	情報を正確に把握する。 勝手な解釈をしない。
2	関連する情報を 適切なタイミングで発信する。

【説明例】

- 「協働的学習者」とは、多様な価値観や背景をもつ人々と「関係を構築する力」「支援・援助する力」「情報や考えを共有する力」「合意形成する力」を備えた人です。
- こうした能力のうち、前回実施した「情報共有編」のプログラムでは、特に「③情報や考えを共有する力」について扱い、今日実施した「合意形成編」では「④合意形成する力」について扱っていきました。

【授業進行上のポイント】

- 前回の「情報共有編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。

【説明例】

- 情報や考えを多様な他者と共有する際、ただ漠然と情報共有を進めてもあまり効果的ではなく、

- ① 情報を正確に把握する。勝手な解釈をしない。
- ② 情報を関連づけて、適切なタイミングで発信する。

という2つのポイントを踏まえて実施することが大切であることを伝えました。

第2回の振り返り
【合意形成のポイント】 1 意見の根拠を引き出す。 2 条件に優先順位をつける。

【授業進行上のポイント】

- 今回の「合意形成編」のまとめを簡単にスライドに沿って行ってください。

【説明例】

- また、多様な他者と話し合い、最終的な意思決定について合意形成して行く際には、

- ① 意見の根拠を引き出す。
- ② 条件に優先順位をつける。

の2点を意識することが必要であることを伝えました。

- これらの「協働力」の実践ポイントは今後皆さんが探究活動を進めて行く際にも大変重要になる点なので是非意識してください。

まとめ
 現実社会の問題は複雑である。そこで、協働して数多くの情報を収集することが必要。  現実社会の問題の解決に近道はない。そこで、協働して多様な視点から解決策を検討することが必要。  現実社会の問題に立ち向かうには、協働力が不可欠！

【説明例】

- 現実社会の問題は複雑です。一人の力では解決することはできません。
- そこで、様々な他者と協働して、問題解決に必要な数多くの情報を収集し、皆で解決策を検討することが必要となります。
- この際、一人ひとりが「協働力」を発揮することが求められます。
- 是非、今後の探究活動を通して、自身の「協働力」を磨いて欲しいと思います。
- これでプログラムを終わります。お疲れさまでした。

4-2-3 教材

(1) テキスト&ワークシート

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 -			
学年・組		氏 名	

1. 前回の振り返り

住まいのアドバイザーとして佐藤さん夫婦にアドバイスを行うため、前回はY市の関係者へのインタビュー映像を視聴しました。視聴後、収集した情報を整理しながらグループで情報の共有を行い、Y市の現状把握を行いました。

【仕事におけるコミュニケーション能力とは】

多様な価値観や背景をもつ人々と

- ①関係を構築する力
- ②支援・援助する力
- ③情報や考えを共有する力 → 情報共有
- ④合意形成する力 → 合意形成

【本日のプログラム】

時間	項目	概要
10分	前回の振り返り	いま社会が求めている人材は？ 協働的学習者とは？ 情報共有のポイント
10分	ウォーミングアップ エクササイズ	合意形成の力を試してみる！
60分	合意形成 ケーススタディ	ケーススタディ 「佐藤さん一家へのアドバイス内容を検討する」
10分	診断テスト	協働的学習者診断テスト
10分	本日のまとめ	全体振り返り 振り返りシート記入

2. ウォーミングアップエクササイズ

【状況設定】

鈴木家は、先日「お父さんの自転車を購入するかどうか」について家族会議を開きましたが、結論が出ず、困った鈴木家の母はあなたを含むママ友5人に相談しました。

【エクササイズの進め方】

1. 情報シートが3種類6枚用意されています。
2. 情報シートをよくシャッフルして1人1枚配布してください。

3. 情報交換は口頭のみで行ってください。情報カードを見せ合ってははいけません。
4. グループで鈴木ママに対するアドバイスを決めてください。

(メモ欄)

【合意形成のポイント】

- ・ 意見の根拠を引き出す。
- ・ 条件に優先順位をつける。

3. 合意形成ケーススタディ

【演習の進め方】

1. これから佐藤さん夫婦の会話を動画で視聴します。
2. この動画はクラス全員で見ます。
3. 動画をみながら佐藤さん夫婦の移住に関する考え方を探ってください。
4. 次にグループで佐藤さん夫婦の移住に対する期待と懸念とを付箋に書出しながら情報を整理しつつ最終的なアドバイスを考えてください。

4. 協働的学習者診断テスト(ポスト調査)

5. まとめ

【学生】協働的学習者 → 【社会】仕事におけるコミュニケーション能力にたけている

【仕事におけるコミュニケーション能力とは】

多様な価値観や背景をもつ人々と

- ①関係を構築する力
- ②支援・援助する力
- ③情報や考えを共有する力 → 情報共有
- ④合意形成する力 → 合意形成

(2) 情報シート

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 - 情報シート A

本情報シートへの書き込みは自由です。エクササイズ終了後回収します。
情報シートに書かれていないことは想像して情報を付加しながら検討してください。

共通情報

鈴木家は、先日「お父さん用の自転車を購入するか」について家族会議を開きましたが、結論が出ず、困った鈴木家の母は、あなたを含むママ友 5 人に相談しました。そこで、あなたは、他のママ友と話し合い、鈴木ママにアドバイスしてあげることにしました。

- ・ 鈴木家は 4 人家族：
父 (43 歳, 会社員)、母 (42 歳, 派遣社員)、長男 (10 歳, 小学 4 年生)、次男 (5 歳, 保育園)
- ・ 現在、母と長男が自転車を保有
 - － 母は、保育園の送り迎えと通勤、買い物に利用している
 - － 長男は、塾や野球の練習に行くために利用している
 - － 2 台の自転車は自宅マンションの共同駐輪場に置いている
- ・ 自転車のほかに、自家用車 1 台を保有。車を使うのは休日のみ。父は電車通勤。
- ・ 自宅は東京都心から電車で 1 時間の距離にある。
- ・ 自宅から自転車で 10 分のところに河原がありサッカーや野球ができる。

個別情報

あなたは、以下の情報を知っています。この情報をもとに、他のママ友に自分の意見（鈴木家はお父さん用にもう一台自転車を購入すべきか否か）を伝える準備をしてください。

- ・ 鈴木パパは仕事で毎晩帰りが遅く、自転車を使用するのは休日に限られる。
- ・ 鈴木パパは、最近お腹が出てきたのを気にしている。運動不足解消のため、自転車に乗りたいと思っている。
- ・ 鈴木家はアクティブな家族で、夏はキャンプ、冬はスキーに、よく車で出かけている。

本情報シートの内容は、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 -
情報シート B

本情報シートへの書き込みは自由です。エクササイズ終了後回収します。
情報シートに書かれていないことは想像して情報を付加しながら検討してください。

共通情報

鈴木家は、先日「お父さん用の自転車を購入するか」について家族会議を開きましたが、結論が出ず、困った鈴木家の母は、あなたを含むママ友 5 人に相談しました。そこで、あなたは、他のママ友と話し合い、鈴木ママにアドバイスしてあげることにしました。

- ・ 鈴木家は 4 人家族：
父(43 歳, 会社員)、母(42 歳, 派遣社員)、長男(10 歳, 小学 4 年生)、次男(5 歳, 保育園)
- ・ 現在、母と長男が自転車を保有
 - 母は、保育園の送り迎えと通勤、買い物に利用している
 - 長男は、塾や野球の練習に行くために利用している
 - 2 台の自転車は自宅マンションの共同駐輪場に置いている
- ・ 自転車のほかに、自家用車 1 台を保有。車を使うのは休日のみ。父は電車通勤。
- ・ 自宅は東京都心から電車で 1 時間の距離にある。
- ・ 自宅から自転車で 10 分のところに河原がありサッカーや野球ができる。

個別情報

あなたは、以下の情報を知っています。この情報をもとに、他のママ友に自分の意見（鈴木家はお父さん用にもう一台自転車を購入すべきか否か）を伝える準備をしてください。

- ・ 鈴木家のマンションの共同駐輪場は不足気味で、空きが出ると希望者の間で抽選が行われる。
- ・ 鈴木パパは、大学時代、サイクリングサークルに所属していた。
- ・ 鈴木パパは、近所のコンビニに行く時は、いつもママの自転車を借りている。

本情報シートの内容は、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 -
情報シート C

本情報シートへの書き込みは自由です。エクササイズ終了後回収します。
情報シートに書かれていないことは想像して情報を付加しながら検討してください。

共通情報

鈴木家は、先日「お父さん用の自転車を購入するか」について家族会議を開きましたが、結論が出ず、困った鈴木家の母は、あなたを含むママ友 5 人に相談しました。そこで、あなたは、他のママ友と話し合い、鈴木ママにアドバイスしてあげることにしました。

- ・ 鈴木家は 4 人家族：
父(43 歳, 会社員)、母(42 歳, 派遣社員)、長男(10 歳, 小学 4 年生)、次男(5 歳, 保育園)
- ・ 現在、母と長男が自転車を保有
 - 母は、保育園の送り迎えと通勤、買い物に利用している
 - 長男は、塾や野球の練習に行くために利用している
 - 2 台の自転車は自宅マンションの共同駐輪場に置いている
- ・ 自転車のほかに、自家用車 1 台を保有。車を使うのは休日のみ。父は電車通勤。
- ・ 自宅は東京都心から電車で 1 時間の距離にある。
- ・ 自宅から自転車で 10 分のところに河原がありサッカーや野球ができる。

個別情報

あなたは、以下の情報を知っています。この情報をもとに、他のママ友に自分の意見（鈴木家はお父さん用にもう一台自転車を購入すべきか否か）を伝える準備をしてください。

- ・ 長距離を走るようなロードバイクはかなり高額で、家計を圧迫するおそれがある。
- ・ 鈴木パパは、休日に自転車で河原に行って、長男とキャッチボールをしたいと思っている。
- ・ 鈴木パパもママも運転免許を持っているが、ママはペーパードライバーでほとんど運転しない。

本情報シートの内容は、実在の人物・団体とは一切関係ありません。

【ケーススタディ】

(3) 個人ワークシート

※A3 サイズで印刷してください。

【個人ワークシート】

期待

懸念

(4) グループワークシート

【STEP2③】情報整理・分析		グループ番号	メンバー氏名
期待		懸念	
【STEP④】合意形成 〜アドバイス内容の決定 Y市の良い点・改善点と、佐藤さんご夫妻の期待と懸念(重視する点)を踏まえると、佐藤さん一家は…(どちらかに○をつける) A : Y市に移住すべき B : Y市に移住しないほうがいい 意思決定の理由は？			

(5) 協働的学習者診断シート（ポスト調査）

協働的学習者診断シート（ポスト調査）			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

各設問について自分自身がどれくらいあてはまるか（あてはまらないか）回答してください。

設問		全くあてはまらない とてもあてはまる						
1	あいさつなどチームメンバーと関係を深める努力をする。	1	2	3	4	5	6	7
2	困っていたり悩んでいたたりするメンバーがいても、その人から相談を受けない限り、声をかけたりしない。	7	6	5	4	3	2	1
3	議論の流れに沿ってタイミングをみて情報を発信する。	1	2	3	4	5	6	7
4	根拠があいまいな意見に対して、根拠を問う質問をする。	1	2	3	4	5	6	7
5	チーム全体をやる気に満ちた雰囲気にすることができる。	1	2	3	4	5	6	7
6	一度結論が出て、疑問点があれば納得できるまでとことん話し合う。	1	2	3	4	5	6	7
7	チーム状況をみて、自分の果たすべき役割を考えて行動する。	1	2	3	4	5	6	7
8	うまく情報収集ができなかったり、アイデアが浮かばなかったりした時は、すぐにチームメンバーに現状を伝える。	1	2	3	4	5	6	7
9	1つのアイデアが出た時、関連する情報や意見を出してアイデアを膨らます。	1	2	3	4	5	6	7
10	チームメンバーひとりひとりの感情や思いを察することができる。	1	2	3	4	5	6	7
11	各メンバーの意見を整理してわかりやすく示す。	1	2	3	4	5	6	7
12	誤った情報を発信しないように、事前に情報の正確性を確認する。	1	2	3	4	5	6	7

設問		全く あてはまらない とても あてはまる						
13	メンバーの困っている様子に気づいたら、声をかけるなどの行動をとる。	1	2	3	4	5	6	7
14	自分の持っている知識や情報を積極的に共有する。	1	2	3	4	5	6	7
15	意見の違いを生じている背景・原因を明らかにしようとする。	1	2	3	4	5	6	7
16	人の話を途中で遮ることなく、最後まで話に耳を傾ける。	1	2	3	4	5	6	7

(6) 振り返りシート

協働的学習者育成プログラム - 合意形成編 - 振り返りシート			
クラス		出席番号	
担当講師名	先生	氏 名	

本日のプログラムを通じて気づいたこと，感じたことを自由に記述してください。

【インタビュー映像スクリプト】

09.Y 市民への移住を考えている佐藤さんご夫妻



- 父：41 歳，会社員 母：36 歳，専業主婦
- 子ども：3 人（長女 5 歳、次女 3 歳、長男 1 歳）
- 現在住んでいる賃貸マンションは狭い割に家賃が高く、不満を感じている。マンションで子どもが騒ぎ、クレームになることもあり、少し困っている。
- 今後子どもたちが大きくなることを考えると、もう少し大きな間取りのマンションに引っ越したいとの希望がある。また、子どもたちを自然豊かな環境の中でのびのび育てたいと考えている。
- 移住先として県郊外の「Y 市」が候補に挙がっているが、いくつか懸念されることもあり、Y 市に移住すべきかどうか、決めかねている。

妻：ねえ、引越しの件、考えてくれた？

夫：ああ、例の、Y 市に移住するかどうかって話だろ。もちろん考えているよ。

（子どもたちが家の中で走り回っている）

妻：こら、あんまり走り回っちゃダメよ！

夫：まあ、仕方がないじゃないか。子どもは元気があり余っているんだから。

妻：あなたは家にいないから良いけど、私は子どもがうるさいって、よく怒られるのよ。今日も下の階の方に文句を言われちゃったわ。子どもたちがバタバタうるさいって。困っちゃったわ。

夫：そうかあ・・・子どもたちをもっと広いところで育てたいよなあ。ここのマンションじ

や狭いしなあ。

妻：そうよ。早く、引越しの話、進めましょうよ。住み替えるなら、私、タワーマンションがいいわ。Y市の駅前に今38階建てのタワーマンションができたのよ。憧れるなあ。高層階は眺めもいいし、ロマンチックよね。

夫：タワーマンションかあ・・・まあ、タワーマンションもいいけどさ、Y市なら、中古の一戸建てでもいいんじゃない？良い物件があれば、思い切って購入しちゃうっていう手もあるよ。

妻：戸建てでもいいわね。

夫：今すぐってわけじゃなくて、将来的に、親を招いて二世帯住宅にするっていうことも考えられるしなあ。最近、親の足腰も弱ってきてて、ちょっと心配なんだよなあ・・・

妻：とにかく、子どもは自然豊かな環境で育てたいわ。海沿いの町なんて最高よね。わたし海がある街で育ったから子どもたちにも海が身近にある生活をさせたいわ。やっぱり移住するならY市にしましょうよ。

夫：そうだなあ、同じ家賃を払うならば、もっと大きな家に住みたいし、子どもは豊富な自然環境の中でのびのび育てたいよな。

妻：そうよ。

夫：でもなあ・・・正直通勤時間が延びるのがネックなんだよな・・・Y市から会社のある新宿まで行くとすると、品川経由だろ。特急に乗っても1時間半近くはかかるだろうなあ・・・

妻：郊外に住むんだもん。そこはパパに頑張ってもらわないとね。

夫：ひとごとだと思って・・・通勤ラッシュもすごいだろうしなあ・・・あのさ、Y市もいいんだけど、実は、F市もどうかなって思ってるんだ。あそこなら新宿まで一本で行けるから楽なんだよなあ。

妻：F市？いやよ、子どもは自然豊かな環境で育てたいもん。

夫：F市だって海が側にあるし、自然豊かなんじゃないか？

妻：そうかしら。やっぱりY市のほうが、自然環境が豊かなんじゃないかしら。

夫：そうかなあ・・・まあ、自然環境も大事だけどさ。俺の通勤問題も多少は考えてくれよ。

妻：でも・・・ちょっと気になる点もあるのよね。

夫：何？気になる点って？

妻：なんかY市って人口が減ってるんでしょ？昔は県でも4番目の都市だったのに、今はF市に抜かれて5位になったってネットに書いてあったわ。

夫：ああ、人口減少ね・・・日本全国でそんな状態になってるんだろうなあ。Y市はどのくらいの年代の人たちが減ってるんだろ？

妻：それはよくわからないけど、でもネットでは子育て期の世代の人口が減ってると書いてあったわ。

夫：おいおい、大丈夫か？Y市は子育てがしにくいんじゃないのか？

妻：それはわからないけど・・・でも、Y市で育った知り合いのママはすごく住みやすい街だって言ってたわ。今は結婚して、他の町に移ってしまったんだけど、「できればずっと住みたかった」って言ってたわ。

夫：人口が減れば、街も活気がなくなるだろうな・・・俺たちが老後になったときまで住めるかなあ？

妻：そんな先の事までわからないけど。

夫：でもさ、住宅を買うってことは、先のことまで考えておかないとさ。

妻：高い買い物だしね。

夫：うん。自然環境の他に、移住する場所に期待することって何かある？

妻：そうね・・・充実したショッピングセンターがあるといいわね。

夫：じゃあ、やっぱりF市のほうがいいんじゃない？近くに大型のショッピングモールがたくさんできているよ。

妻：それだけじゃないわ。教育環境が充実していることも大切にしたいの。子どもたちには将来、中学受験もさせたいし。進学塾とか大事よね。それから、これからは、英語教育の環

境も大切にしたいわ。早くから英語や外国に親しませるような教育がしたいの。

夫：中学受験に、英語教育かぁ・・・子どもたちも、あつという間に大きくなっちゃうんだろうな。ところで、Y市は進学塾や英語教育は充実しているの？

妻：進学塾は分からないけど。さっきの友達が言うには、Y市は昔から英語教育が盛んなんだって。米軍基地の中に英語が学べるプログラムもあるらしいのよ。

夫：うーん。英語はいいんだけどさぁ・・・米軍基地とか、治安とかちょっと心配だな・・・大丈夫かな？

妻：うーん、そのあたりは調べてみないと分からないけど・・・確かに治安とか大事よね。最近物騒な事件も多いし・・・

夫：あとさ、Y市って海沿いじゃん。海沿いもいいんだけどさ、地震とか大丈夫かな？

妻：地震？いやよ。私、地震、大嫌いなもの！地震が起こりやすいところなの？

夫：いや、それは知らないけどさ。ほら、最近ニュースでやってるじゃない。活断層とか何とか・・・だからちょっと心配になっちゃって。

妻：Y市は海沿いだから大きな地震が起こったら確かに怖いわね・・・きちんと調べておいたほうがいいかもしれないわね・・・

夫：そうだな。ちゃんと調べておこうか。

妻：あと、私、子育てが落ち着いたら、また働こうかなって思ってるの。

夫：へー、そうなんだ。いいじゃない。応援するよ！

妻：ありがとう。

夫：あのさ、ちょっと、提案なんだけど、一度、専門家に話を聴いてみないか？知り合いに「住まいのアドバイザー」という仕事をしているやつがいるんだよ。いいやつでさ、色々相談にのってくれると思うんだよ。

妻：そんな仕事があるの？面白そうね。そうね、是非聴いてみようかしら。いつにする？

4-3 協働的学習者診断結果の分析方法

協働的学習者育成プログラムを受講した生徒の学修効果を測定することを目的に、プログラム受講の前後で同じ内容の診断テストを2度（プレ調査・ポスト調査）実施します。協働的学習者育成プログラムでは、「協働的学習者診断シート」を使用します。協働的学習者診断テストは、16の質問項目で構成されており、「関係構築」「支援・援助」「情報共有」「合意形成」の4つのカテゴリに関する設問がランダムに配置されています。以下の集計表にしたがって、プレ調査およびポスト調査の結果を分析ください。

【集計表】

カテゴリ	診断テストの設問	回答	カテゴリ平均
関係構築	1 あいさつなどチームメンバーと関係を深める努力をする。		
	7 チーム状況をみて、自分の果たすべき役割を考えて行動する。		
	10 チームメンバーひとりひとりの感情や思いを察することができる。		
	16 人の話を途中で遮ることなく、最後まで話に耳を傾ける。		
支援・援助	2 困っていたり悩んでいたりするメンバーがいても、その人から相談を受けない限り、声をかけたりしない。		
	5 チーム全体をやる気に満ちた雰囲気にするすることができる。		
	8 うまく情報収集ができなかったり、アイデアが浮かばなかったりした時は、すぐにチームメンバーに現状を伝える。		
	13 メンバーの困っている様子に気づいたら、声をかけるなどの行動をとる。		
情報共有	3 議論の流れに沿ってタイミングをみて情報を発信する。		
	9 1つのアイデアが出た時、関連する情報や意見を出してアイデアを膨らます。		
	12 誤った情報を発信しないように、事前に情報の正確性を確認する。		
	14 自分の持っている知識や情報を積極的に共有する。		

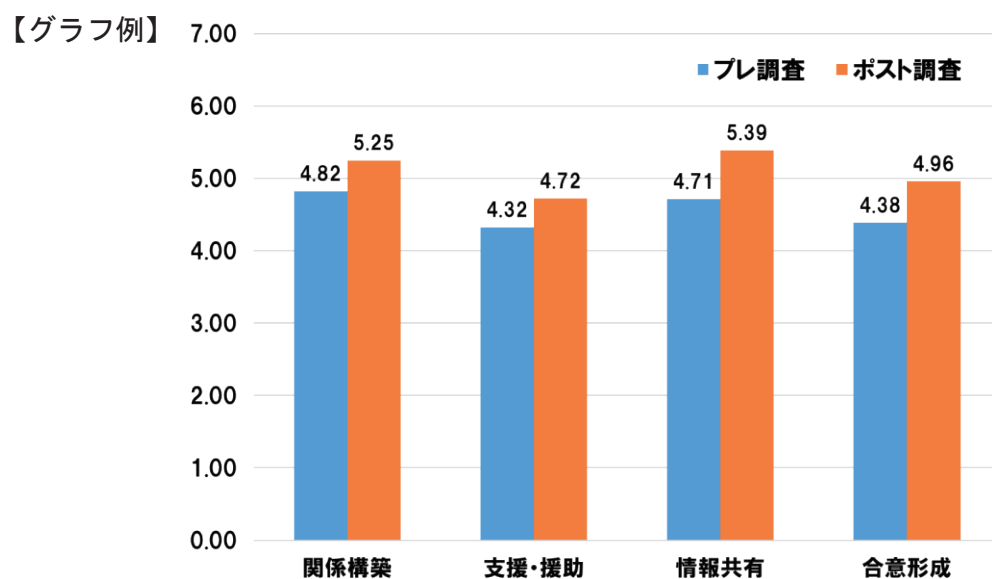
合意形成	4	根拠があいまいな意見に対して、根拠を問う質問をする。		
	6	一度結論が出ても、疑問点があれば納得できるまでとことん話し合う。		
	11	各メンバーの意見を整理してわかりやすく示す。		
	15	意見の違いを生じている背景・原因を明らかにしようとする。		

【集計表の記載例】

カテゴリ	診断テストの設問		回答	カテゴリ平均
関係構築	1	あいさつなどチームメンバーと関係を深める努力をする。	5	4.75
	7	チーム状況をみて、自分の果たすべき役割を考えて行動する。	4	
	10	チームメンバーひとりひとりの感情や思いを察することができる。	5	
	16	人の話を途中で遮ることなく、最後まで話に耳を傾ける。	5	
支援・援助	2	困っていたり悩んでいたりするメンバーがいても、その人から相談を受けない限り、声をかけたりしない。	4	3.75
	5	チーム全体をやる気に満ちた雰囲気にすることができる。	4	
	8	うまく情報収集ができなかったり、アイデアが浮かばなかったりした時は、すぐにチームメンバーに現状を伝える。	4	
	13	メンバーの困っている様子に気づいたら、声をかけるなどの行動をとる。	3	
情報共有	3	議論の流れに沿ってタイミングをみて情報を発信する。	4	4.00
	9	1つのアイデアが出た時、関連する情報や意見を出してアイデアを膨らます。	4	
	12	誤った情報を発信しないように、事前に情報の正確性を確認する。	4	
	14	自分の持っている知識や情報を積極的に共有する。	4	

合意形成	4	根拠があいまいな意見に対して、根拠を問う質問をする。	4	3.75
	6	一度結論が出ても、疑問点があれば納得できるまでとことん話し合う。	3	
	11	各メンバーの意見を整理してわかりやすく示す。	4	
	15	意見の違いを生じている背景・原因を明らかにしようとする。	4	

受講した生徒全員の診断結果を集計してグラフ化すると、プログラム実施の効果を確認しやすくなります。



結びにかえて

産業能率大学 AP 事業推進責任者
学長補佐・教育支援センター長 杉田 一真

本学の高大接続の取組みは、1999 年、中央教育審議会がいわゆる『高大接続答申』においてキャリア教育推進の必要性を示したことを機にはじまりました。まず、高校教員とキャリア教育に関するインフォーマルな勉強会をスタートし、この勉強会の中で、キャリア教育の中核は「社会で生きる力」を育むことにあるとの結論に至り、いまでいう社会人基礎力（ジェネリックスキル）の育成に取り組むことにしました。2004 年に「高校生のためのキャリア開発プログラム」を試行し、2006 年度から正式開催しました。キャリア教育の視点から高大接続に取り組む試みは、本学に 2 つの改革をもたらしました。第一に、入試制度改革です。2007 年度入試において「キャリア教育接続入試」を開始しました。本入試は、「高校生のためのキャリア開発プログラム」を通じて自己の将来構想を描き、それに基づいて課題解決プランのプレゼンテーションを行い、これに自己記述書に基づく面接を加えて選考を行うものです。本入試によって、高校時代に自己の個性を理解し、主体的に活動してきた成果と、その過程で培われたジェネリックスキルを評価し、高大の接続性を高めたいと考えました。第二に、初年次教育の改革です。2014 年度に初年次の中核科目である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」をジェネリックスキルの育成およびアクティブラーニング推進の観点から大幅改編しました。具体的には、初年次に修得すべきアカデミックスキルとジェネリックスキルを同時に育成するプログラムを開発し、アクティブラーニングによる PBL（Project Based Learning）を中心とした授業に移行しました。本改編は外部から高く評価いただき、日本私立大学協会・教育学術新聞「教授法が大学を変える」（2015 年度版）『深化するアクティブラーニング』に好例として取り上げられ、日本高等教育開発協会「JAED Good Teaching Award」を受賞することができました（2016 年）。

そして、2014 年に文部科学省「大学教育再生加速プログラム（以下 AP）」の採択を受け、2016 年度から新たな高大接続の形を模索してきました。それは、高大接続によるアクティブラーナー＝主体的学習者の育成です。プログラム開発チームを組織し、主体的学習者を定義し、育成すべき力を画定し、育成のためのプログラムを検討しました。本検討においては、初年次教育で蓄積した知見が大いに役に立ちました。その後「主体性」とともに、アクティブラーニングを通じて学生が深い学びを得るために必要な力である「協働力」についてもプログラムを開発しました。

20 年間にわたる本学の高大接続に関する取組みは、その中心がキャリア教育から、ジェネリックスキルの育成、主体的・協働的学習者の育成へと変遷してきましたが、これまでの道のりはまさに試行錯誤の連続でした。その中で、常に有益な示唆をいただいたのが、高校の先生方と学外有識者のみなさまでした。特に AP 事業においては、専門家委員を務めていただいた溝上慎一先生（学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭学園トランジションセンター所長・教授）、中原淳先生（立教大学経営学部教授）、小林浩先生（リクルート進学総研所長、リクルート「カレッジマネジメント」編集長）、第三者評価委員を務めていただいた安彦忠彦先生（神奈川大学特別招聘

教授、中央教育審議会委員)、山田礼子先生(同志社大学社会学部教授、教育支援機構副機構長、学習支援・教育開発センター長)、友野伸一郎先生(教育ジャーナリスト)に的確なアドバイスと厚いご指導をいただきました。この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

AP事業もまもなく補助期間終了を迎えます。今後も高大接続の形は常に変化し続けていくでしょう。本学は、高大接続において「何を行うか」ではなく、「何のために取り組むか」を常に考え、これからも学内関係者のみならず、外部の専門家・教育関係者のみなさまのご協力を賜りながら、時代に沿った高大接続の形を模索しつづけていきたいと思いをします。

【問い合わせ先】

産業能率大学 入試企画部企画課

mail : kikaku@hj.sanno.ac.jp

Tel. 03-3704-0731 / Fax. 03-3704-9766

※メールでお問い合わせの際は、タイトルに【探究プログラムの件】と入れてください。

～探究学習加速プログラム～

『主体的学習者育成プログラム』・『協働的学習者育成プログラム』
実施ガイド

発行日 2019 年 11 月発行

編集・発行 産業能率大学 AP 実行委員会

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15

URL : <http://www.sanno.ac.jp/>

TEL : 03-3704-1434 FAX : 03-3704-1417



文部科学省 大学教育再生加速プログラム (AP) テーマⅠ・Ⅱ複合型

本プログラムは、産業能率大学が、文部科学省「大学教育再生加速プログラム (AP)」
(平成 26 年度採択) における高大接続事業の一環で開発しました。